

# 「子どもの居場所に関する調査研究」

～児童から生徒への転換期を中心に～  
共同研究報告書

---

2015年3月

目白大学社会学部地域社会学科／戸田市政策研究所



## 目 次

序章 戸田市および本調査の概要.....	1
第1章 戸田市での生活(1):子どもの有無に着目して.....	11
第2章 戸田市での生活(2):親の年代に着目して.....	21
第3章 戸田市での生活(3):居住地区に着目して.....	31
第4章 学童保育に対する不安と「望ましい子育て」.....	41
第5章 学童保育室に対するニーズの在処.....	51
第6章 地区別にみた子どもの居場所としての学童保育室.....	59
第7章 子どもの外遊びに対する不安の一考察:公園を対象として.....	67
第8章 子どもの居場所に対するニーズ:子どもと大人の考えの齟齬.....	79
第9章 地区別にみた子どもの居場所.....	97
【資料】	
調査票.....	109
調査票(子ども調査).....	115
単純集計表.....	118
単純集計表(子ども調査).....	152

## 序章 戸田市および本調査の概要

本報告書は、戸田市の市政運営に関する調査研究を行うことを目的に設置されている戸田市政策研究所と目白大学社会学部地域社会学科との共同で実施した「子どもの居場所等に関する調査研究～児童から生徒への転換期を中心として」の結果を取りまとめたものである。はじめに、戸田市の概要を記し、その上で本調査の実施方法等について説明する。

### 1. 埼玉県戸田市の概要



図1 戸田市の位置（出典：戸田市ホームページ）

図1に示したように戸田市は、埼玉県の南部に位置づいている総面積18.1km<sup>2</sup>の都市である。1985年の埼京線開通以降、戸田市は、東京へのアクセスが容易なことから、1985年には約76,000人だった人口が、1997年には100,000人を突破し、2014年には130,000人まで増加している（図2）。このような人口が増加する戸田市であるが、「データで見る戸田市の暮らし」では、2013年度では転入人口が一日あたり27.6人であるのに対して、転出人口は一日あたり23.6人となっており、人口数の維持はこの転入／転出のバランスの上で成り立っているのも事実である。そのことが、人口を年齢別にみると若年層が多い傾向にあること、人口の平均年齢は、39.7歳となっていることに現れている（図3）。これらは、東京へのアクセスがよいという職業上の便利さが若年層を誘引する要因になっている一方で、逆に他の都市への流動性も高めてしまう要因になりうることを示している。

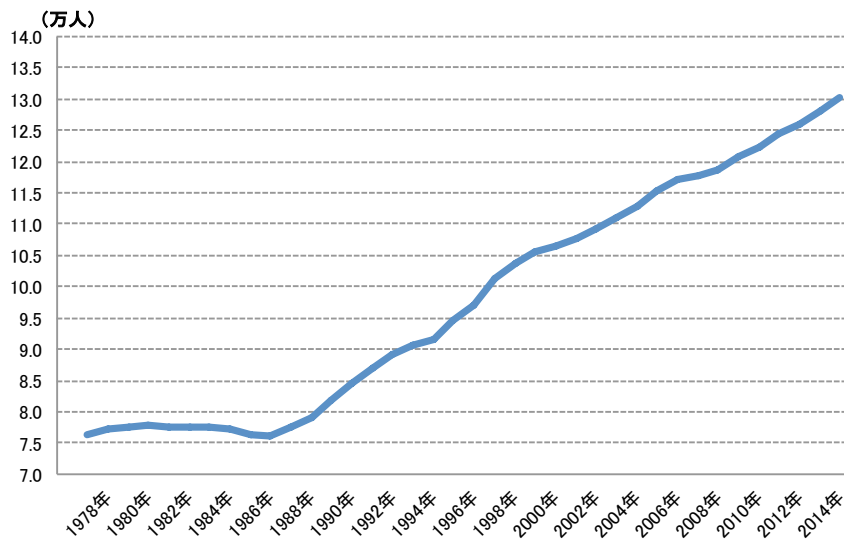


図2 戸田市の人口推移 (「戸田市情報ポータル」  
(<http://www.city.toda.saitama.jp/site/opendata/jinkou.html>) より作成)

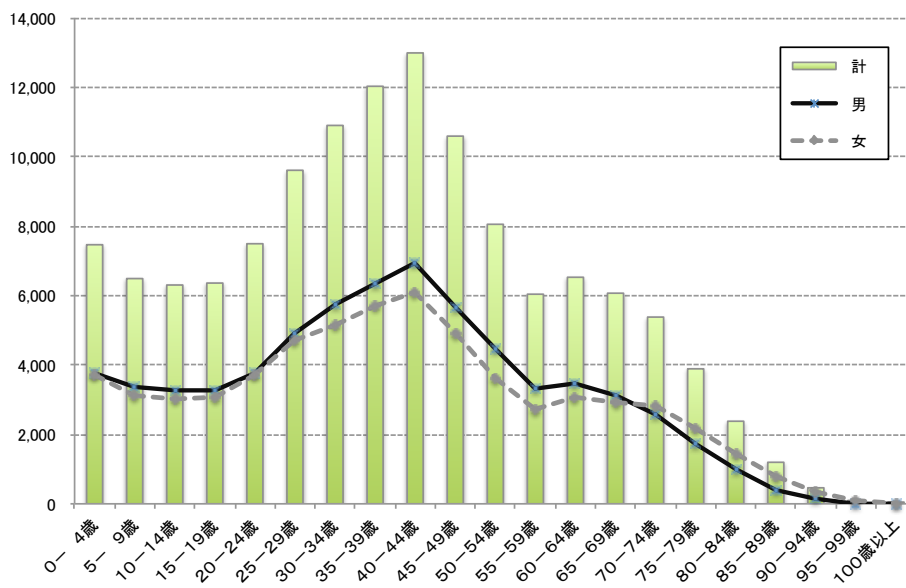


図3 戸田市の年齢別人口 (「戸田市情報ポータル」  
(<http://www.city.toda.saitama.jp/site/opendata/jinkou.html>) より作成)

## 2. 本調査の概要

近年、子どもを取り巻く環境は大きく変容を遂げている。たとえば、都市化、情報化社会の進展などによって、子どもの遊び場が消失するばかりか、遊び場でできることが制限

されるなど、子どもが外遊びへ誘引されにくくなったなどが指摘され続けている。さらに、公園などで子どもの遊ぶ声が「騒音」とされ、地域の問題となることもある。

こうした現状を鑑みた時に、果たして、子どもたちの居場所はどこに求められ、何が問題とされているのかを理解し、新たな空間づくりへと繋げていくことはきわめて有効であろう。とはいえ、「子ども」と向き合う「大人」といっても、その要求は様々である。そこで、本調査では、子どもの有無（年齢）と親の年齢という2つの軸から、意見の重なりと齟齬を明らかにし、何か新しい空間を創出する際に想定される論争の構図を理解することとする。そのために今回は、学校に通う子どもたち、とりわけ、若干親の手から離れた、小学校高学年から中学生までの子どもに焦点を置き、彼／彼女らが過ごすであろう、学童保育室と公園という2つの空間を対象とした調査を行う。

## 2-1. 調査の対象と特徴

### ■調査について

- ・調査票配布数 1500 通  
(戸田市内の20代～60代を対象とし、人口比率に応じてサンプル数を決定)
- ・回収率 45% (675 通)
- ・回収された調査票の属性

【年代】

	度数	パーセント
20代	89	13.2
30代	172	25.5
40代	174	25.8
50代	104	15.4
60代	116	17.2
無回答	20	3.0
合計	675	100.0

【性別】

	度数	パーセント
男性	287	42.5
女性	372	55.1
無回答	16	2.4
合計	675	100.0

【子どもの年齢（下の子基準）】

	度数	パーセント
いない	225	33.3
9歳以下	159	23.6
10-15歳以下	74	11.0
16歳以上	209	31.0
無回答	8	1.2
合計	675	100.0

【親の年齢×子どもの年齢（下の子基準）】

	子どもの有無(下の子基準)				合計
	いない	9歳以下	10-15歳以下	16歳以上	
20代	73	16	0	0	89
%	82.0%	18.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30代	59	99	12	0	170
%	34.7%	58.2%	7.1%	0.0%	100.0%
40代以上	85	40	61	205	391
%	21.7%	10.2%	15.6%	52.4%	100.0%
合計	217	155	73	205	650
%	33.4%	23.8%	11.2%	31.5%	100.0%

■ 調査設計上の注意：子どもの年齢区分

戸田市では2014年度から学童保育室の預かり年齢を小学校4年生までに引き上げている（10歳まで）。そのため、本調査の年齢区分は、学童保育室の対象年齢とは完全には合致していない。だが逆に、そのことで、拡大された対象年齢である10歳の子どもたちを持つ、親にとっての学童保育室の位置づけが理解できるとも考えられる。

■ 調査結果の分析にあたって

先に示したように、20代では、10歳以上の子どもをもつ人はいないが、その他の年代では、子どもの年齢（下の子）は多様である。

つまり、親の年齢だけに注目して分析すると、子どもの年齢の多様性を捉えきれなくなるという問題があり、逆に子どもの年齢だけに注目すると、親の年齢の多様性をお捉えきれなくなる問題がある。

そこで、本調査の分析にあたっては、親の年齢と子どもの年齢の2つの軸を使い、①20代・30代で子どもがいない人（132人）、②20代・30代で下の子が9歳以下の人（115人）、③20代・30代で下の子が10～15歳の人（12人）、④40代以上で子どもがいない人（85人）、⑤40代以上で下の子が9歳以下の人（40人）、⑥40代以上で下の子が10～15歳の人（61人）、⑦40代以上で下の子が16歳以上の人（205人）のグループに分けて、分析を行う（20代・30代で下の子が16歳以上の人はいない）。

その狙いは、①親の年代が同じであっても回答に分布が生じるかどうかを確認することで、**子どもの年代による意見の差異**、②子どもの年代が同じであっても回答に分布が生じるかどうかを確認することで、**親の年代による意見の差異**を理解するところにある。

【親の年代×子どもの年齢（下の子基準）の分布】

	度数	パーセント
20代・30代で子どもがいない	132	19.6
20代・30代で9歳以下	115	17.0
20代・30代で10-15歳	12	1.8
40代以上で子どもがいない	85	12.6
40代以上で9歳以下	40	5.9
40代以上で10-15歳	61	9.0
40代以上で16歳以上	205	30.4
無回答	25	3.7
合計	675	100.0

2-3. 調査結果概要（5章・9章で詳述）

以下、上記の7グループについて、各質問の得点の平均値をもとに、その値を偏差値に置き換えたものを用いて、結果の概要を提示する。

各グループの偏差値を算出し、偏差値 50 から、+2 ポイント以上の差があるものは斜体（青字）、-2 ポイント以上差があるものには下線（赤字）を付した。特徴的な項目についてのみ述べる。尚、☆は若干の考察。詳細は第 5 章および第 9 章で行うため、以下は、ダイジェスト的に箇条書きでポイントを提示する。

■ 放課後など学校以外の子どもの居場所

問 15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの 1 つに○をつけてください（小学生のお子さんがいる人のみ）

\* 「なし」を 0 点、週に 1 日を 1 点、以降順に加算し、ほぼ毎日を 5 点として算出。

	公園	学童保育室	塾・習い事	自宅	友達の家	学校	児童センター
20代・30代で9歳以下	54.0	51.9	44.3	45.7	46.8	45.2	49.0
20代・30代で10-15歳	53.6	53.9	46.5	57.7	55.3	56.1	58.2
40代以上で9歳以下	50.8	52.8	52.0	45.5	43.5	45.0	47.9
40代以上で10-15歳	41.6	41.4	57.2	51.1	54.4	53.7	44.8

- ・ 「公園」：20代・30代>40代以上
- ・ 「学童保育室」：40代以上で子どもが10～15歳の場合、少ない傾向
- ・ 「塾・習い事」：40代以上>20代・30代
- ・ 「自宅」：子どもが9歳以下は、少ない傾向
- ・ 「友達の家」：子どもが10～15歳>9歳以下
- ・ 「学校」：子どもが10～15歳>9歳以下
- ・ 「児童センター」：20代・30代で子どもが10～15歳の場合、多い傾向。



○親の年代に左右される空間...「公園」「塾・習い事」

○子どもの年齢に左右される空間...「自宅」「友達の家」「学校」

☆「公園」の整備：「遊ぶ環境の変化」と重なるならば子どもの年齢に応じた整備

☆学童保育室について、小学校4年生まで引き上げたのが2014年度であることを踏まえるならば、その引き上げの効果は見て取れる。

### ■ 遊ぶ環境の変化（問題点）

問13 あなたは、ご自身の子どもの頃と比較して、今の子どもの外遊びの環境はどのようになったと感じますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけてください（問13の結果、回答数は466となっている）。

\*○がつくと1点。

	外遊びできる時間が少なくなった	自由に遊べるスペースが少なくなった	ボール遊びなどができる場所が少なくなった	同年代の友だちが少なくなった	親子で遊ぶ機会が少なくなった
20代・30代で子どもがいない	47.3	49.8	49.6	48.7	50.0
20代・30代で9歳以下	47.3	47.7	48.7	48.1	47.9
20代・30代で10-15歳	53.3	50.8	53.8	45.5	48.8
40代以上で子どもがいない	51.4	50.8	51.0	48.7	49.7
40代以上で9歳以下	50.0	48.3	50.2	51.6	47.9
40代以上で10-15歳	52.9	53.0	52.7	49.5	48.5
40代以上で16歳以上	51.2	50.0	49.4	52.4	51.8

	寝転んだりできる場所（芝生広場）などが少なくなった	雨の日でも遊べる場所が少ない	遊具などが老朽化して危険	不審者などで危険が増した
20代・30代で子どもがいない	49.6	47.5	50.7	50.0
20代・30代で9歳以下	52.3	52.8	51.0	51.7
20代・30代で10-15歳	50.6	50.8	46.6	49.1
40代以上で子どもがいない	51.3	48.0	50.7	46.9
40代以上で9歳以下	52.5	54.7	47.6	51.7
40代以上で10-15歳	48.3	50.6	49.3	51.4
40代以上で16歳以上	48.7	49.4	49.7	49.5

○基本的に、自分の子どもの頃との比較なので、40代以上の人が、「少なくなった」を感じる傾向にある（ただし、「遊具の老朽化」など施設、「不審者」などは除く）。

○子どもが「10～15歳」の場合、「ボール遊びなどできる場所が少なくなった」と感じており、これは親の年代を問わない傾向。

○子どもが「9歳以下」の場合、「寝転んだりできる場所（芝生広場）などが少なくなった」、「雨の日でも遊べる場所が少ない」と感じており、これも親の年代を問わない傾向。

☆何を問題とするかは、子どもの年齢に依存する傾向がある。新たな空間を創出する際に

は、どのような利用者を想定としているのかを明確にする必要があるだろう（周辺の子どもの年齢などを考慮に入れる）

→「寝転んだりできる場所（芝生広場）」を設け、かつ利用時間帯を区分する or 利用空間を分離するなどして「ボール遊びができる空間」を提供すれば、子どもの成長段階に応じた幅広い層の利用が見込まれる？

→「ボール公園？」に対するニーズの強さ。

#### ■ 公園の利用に制限をかけるべきか

問5 公園の利用などについてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

\*偏差値が高いほど、利用制限に賛成とするため、「自由に遊ぶことができた方がよい」以外は、「そう思う」を4点、…「そう思わない」を1点とした。

\*「自由に遊ぶことができた方がよい」は「自由に遊ぶことができない方がよい」となる。

	自由に遊ぶことができない方がよい	ケガをすると危ないので、ある程度の利用制限を設けるべき	子どもの声が騒がしいので、ある程度の利用制限を設けるべき	子どもだけで遊ばない方がよい
20代・30代で子どもがいない	48.9	49.8	49.9	51.3
20代・30代で9歳以下	48.9	50.1	48.2	49.2
20代・30代で10-15歳	48.9	51.0	53.3	45.0
40代以上で子どもがいない	50.2	49.4	50.0	50.9
40代以上で9歳以下	48.6	50.0	49.6	47.2
40代以上で10-15歳	49.0	49.4	47.2	45.7
40代以上で16歳以上	52.2	50.6	51.7	51.6

○子どもの年齢が同じ「10～15歳」であっても、親の年代によって、「子どもの声」を騒音と捉えるかどうかは異なる。意見の対立が生じている。

○「子どもだけで遊ばせない方がよい」については、40代以上は、そう思わない傾向にある。年代による、子どもへのまなざしの差異。

☆「子どもの年齢」のみならず、「親の年代」によっても様々な反応が見られることが示唆される。このことが、論争の要因となっている？

#### ④公園で子どもを遊ばせることに対する不安

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

\*○がつくと1点。

	ケガをしないか	いじめられないか	事件に巻き込まれないか	他人から迷惑をうけないか	他人へ迷惑をかけないか
20代・30代で子どもがいない	50.8	50.3	50.8	49.7	49.4
20代・30代で9歳以下	51.8	51.1	52.5	51.8	51.4
20代・30代で10-15歳	48.2	47.6	46.9	51.3	54.0
40代以上で子どもがいない	47.4	49.2	46.7	48.0	47.0
40代以上で9歳以下	53.0	50.3	52.7	51.3	50.6
40代以上で10-15歳	48.8	48.4	49.4	52.8	53.0
40代以上で16歳以上	49.2	50.3	49.0	48.7	49.2

○「ケガをしないか」「いじめられないか」「事件に巻き込まれないか」といった点は、子どもの年齢が低いほど、不安を感じる傾向にある。

○「他人へ迷惑をかけないか」は、活発な動きをすると予想される「10～15歳」の子どもを持つ親にとって、不安を感じる傾向がある。

☆子どもの年齢が低い場合は、周りからの被害が不安に感じ、子どもの年齢が上がると周りへ与える影響を不安に感じる傾向にある。

☆子どもの年齢に応じた「安全」な空間の差異(守ってもらえる空間/監督者がいる空間?)

#### ■ 学童保育に対する不安

問 11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

	家から遠い	時間が合わない	指導員の対応	乱暴な子の影響を受けないか
20代・30代で子どもがいない	52.2	51.1	51.2	49.1
20代・30代で9歳以下	50.7	49.1	49.4	51.5
20代・30代で10-15歳	47.0	50.9	48.2	46.8
40代以上で子どもがいない	48.5	51.7	48.8	48.5
40代以上で9歳以下	50.7	47.4	48.2	51.9
40代以上で10-15歳	50.4	49.1	51.2	50.4
40代以上で16歳以上	48.5	50.0	50.2	49.8

	ケガをしないか	いじめに合わないか	他の子にケガをさせないか	他の子に迷惑をかけないか
20代・30代で子どもがいない	49.0	51.1	49.4	49.3
20代・30代で9歳以下	51.9	51.1	52.8	52.2
20代・30代で10-15歳	49.0	49.8	45.8	46.8
40代以上で子どもがいない	48.7	49.5	50.0	50.0
40代以上で9歳以下	52.2	48.9	48.6	48.5
40代以上で10-15歳	49.4	49.3	49.7	48.3
40代以上で16歳以上	49.7	49.3	49.7	50.7

○親の年齢、子どもの年齢による大きな差異はみられないが、20代・30代で子どもの年

年齢が9歳以下の場合、周りの子にケガをさせないか、迷惑をかけないか、といった点を不安に感じている。

■ 学童保育に子どもを預けている（預けた、預けたい）理由

問9 あなたはお子さんを学童保育に預けていますか（預けていましたか）。または預けたいと思いますか。

問10 問9で「1. はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。（問9の結果、回答者数は215となっている）

\*○がつくと1点。

	カギをもたせるのが不安	きょうだいがいない	子どもだけで家にいるのは危ない	子どもだけで家にいるのはかわいそう
20代・30代で子どもがいない	48.6	46.5	51.4	48.8
20代・30代で9歳以下	50.7	53.8	49.6	52.6
20代・30代で10-15歳	53.8	50.6	50.6	49.4
40代以上で子どもがいない	48.6	46.5	50.0	49.0
40代以上で9歳以下	51.0	50.6	48.4	50.4
40代以上で10-15歳	50.2	51.3	47.1	51.0
40代以上で16歳以上	50.5	50.6	50.4	49.0

	勉強や宿題をしてほしい	子どもが友達と遊びたがっている	親や親戚に預かってもらえない	就労のため
20代・30代で子どもがいない	48.5	49.0	48.3	46.1
20代・30代で9歳以下	49.3	50.3	52.0	52.6
20代・30代で10-15歳	51.2	48.7	54.2	54.1
40代以上で子どもがいない	52.0	47.4	47.8	49.8
40代以上で9歳以下	51.5	53.1	53.4	51.1
40代以上で10-15歳	52.7	51.3	46.8	53.5
40代以上で16歳以上	49.5	50.0	49.3	49.1

○子どもがいない場合、親の年齢を問わず、「きょうだいがいない」ことは学童保育に預ける（預けたい）理由と回答しない傾向にある。

○子どもの年齢が低く、かつ親の年齢が低い方が、「親や親戚に預かってもらえない」ため、学童保育に預けると回答する傾向にある

○親の年齢が低い方が「就労のため」に学童保育室を活用する傾向

☆若年層において、旧来型の子育て規範（子どもは家で育てるべき、親や親族で育てるべき）が薄れていることを示唆している。子育て機能を外部化する機関として学童保育室は機能している。

■ 子育てに関する「規範」

問 12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの 1つに○をつけてください。

\*偏差値が高いほど「望ましい」という回答にするため、「そう思う」を4点、…「そう思わない」を1点とした。

	学童保育室が望ましい	知人・友人が望ましい	祖父母などの親類が望ましい	自宅で面倒を見るのが望ましい
20代・30代で子どもがいない	53.1	50.3	47.6	48.9
20代・30代で9歳以下	49.8	49.9	48.5	48.8
20代・30代で10-15歳	47.0	49.2	56.3	51.3
40代以上で子どもがいない	51.5	49.7	48.9	50.3
40代以上で9歳以下	46.0	48.3	52.8	54.0
40代以上で10-15歳	48.6	48.8	49.3	49.7
40代以上で16歳以上	48.7	50.7	52.1	50.5

○学童保育室が望ましいと回答する人は、「20代・30代で子どもがいない」層。

○旧来型の子育て規範は、20代・30代では子どもの年齢が上がるほど強まり、40代以上になると、子どもの年齢が低い場合に強まる。他方で、40代で子どもの年齢が16歳以上の場合、過去の経験と照らして旧来型の子育て規範が強い傾向にある。

☆「子どもがいない」という層にも多様な立場があることを自覚しつつも、その層を「将来世代」と捉えるならば、学童保育室の充実は、今後の戸田市にとって重要な意味を持っていることが示唆される。

#### 2-4. 調査データの分析とその手順

回収された調査票は、事前に戸田市政策研究所へ送付していたデータ入力マニュアルをもとに、戸田市で675通の内、218通の入力を9月中に終了させた。目白大学へ調査票一式が届いた後に、入力担当を決定し、10月中に履修者は各自、入力を行った。その後、エラーチェック、自由記述のコーディング作業を行い、報告書執筆へ向けての準備を進めた。

#### 3. 次章以降へ向けて

以上が、本調査の概要である。1～3章は、「戸田市に住む理由」「戸田市から引っ越す理由」を「子どもの有無」「親の年代」「居住地区」の3つの観点から考察する。以降の章では、子どもの居場所を探るため、「学童保育室」(4・5・6章)、「公園」(7・8・9章)、子ども自身に対する調査結果(10章)から構成されている。本調査は、子どもの居場所に関して探索的な調査であったため、基礎的な分析が主となるが、これらの結果をもとにさらなる調査、分析を行っていくことで政策提言へと繋がっていくのではないかと考えている。これからの戸田市を考える上での基礎的データとして理解いただければ幸いである。

## 第1章 戸田市での生活（1）：子どもの有無に着目して

### 1. はじめに

本章以降の3つの章では、「戸田市に住む理由」と「戸田市から引っ越すとしたら考えら得る理由」について属性別に見ていくことにする。その内、本章では、「子どもの有無」によって「理由」が異なるのか、という点に着目する。尚、「子どもの有無」は、2人以上の子どもがいる場合、下の子の年齢を基準として算出している。

以下、子どもがいるかどうか、年齢に応じて理由が異なるのかどうかという点を詳細に見ていくことで、若年層の転入・転出が多い戸田市の特徴の一端を理解したい。同時に、それは、「子育て」環境とは異なる、通勤通学に便利な戸田市の地理的特徴に起因しているのか、といった点を理解するための一つの視点を提示しようと考えている。

### 2. 子どもの有無と「戸田市に住む理由」

以下、「戸田市に住む理由」について、8つの項目から見ていく。それぞれに詳述していくと、①子どもの学校入学を機に戸田市に引っ越して来たかどうか（子どもの入学・進学）、②ある程度の年齢になり、地元で暮らす両親の近くに引っ越して来た、あるいは親と同居・近居するために引っ越して来たかどうか（親との同居・近居）、③就職・転職・退職など（職業上の理由）、④結婚や離婚を機に戸田市へ引っ越して来たかどうか（結婚・離婚）、⑤通勤に便利であることの裏返しとして都内よりも家賃などが安いという理由（経済的な理由）、⑥教育環境や自然など快適な生活を送れるという理由（生活環境上の理由）、⑦戸田市の特徴でもある、通勤通学のためという理由（通勤通学の便）、⑧生まれてからずっと戸田市に住んでいる、である。以下、順に見ていこう。

表1 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（子どもの入学・進学）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	224	0	224
%	100.0%	0.0%	100.0%
9歳以下	151	7	158
%	95.6%	4.4%	100.0%
10-15歳以下	69	5	74
%	93.2%	6.8%	100.0%
16歳以上	197	9	206
%	95.6%	4.4%	100.0%
合計	641	21	662
%	96.8%	3.2%	100.0%

表 1 は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（子どもの入学・進学）のクロス表である。「子どもの入学・進学」が理由で戸田市に住む人は、子どもが 9 歳以下の人は 4.4%、10～15 歳以下は 6.8%、16 歳以上は 4.4%であった。子どもがいる人だけ全体で見ても、「子どもの入学・進学」が理由で戸田市に住む人は 10%以下と少なかった。

表 2 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（親との同居・近居）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	181	43	224
%	80.8%	19.2%	100.0%
9歳以下	133	25	158
%	84.2%	15.8%	100.0%
10-15歳以下	60	14	74
%	81.1%	18.9%	100.0%
16歳以上	182	24	206
%	88.3%	11.7%	100.0%
合計	556	106	662
%	84.0%	16.0%	100.0%

表 2 は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（親との同居・近居）のクロス表である。「親との同居・近居」が理由で戸田市に住む人は、子どもがいない人で 19.2%、子どもが 9 歳以下の人は 15.8%、10～15 歳以下は 18.9%、16 歳以上は 11.7%であった。子どもの有無で結果に大差は見られなかった。

表 3 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（職業上の理由【就転職・退職など】）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	182	42	224
%	81.3%	18.8%	100.0%
9歳以下	125	33	158
%	79.1%	20.9%	100.0%
10-15歳以下	63	11	74
%	85.1%	14.9%	100.0%
16歳以上	164	42	206
%	79.6%	20.4%	100.0%
合計	534	128	662
%	80.7%	19.3%	100.0%

表 3 は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（職業上の理由）クロス表である。「職業上の理由」で戸田市に住む人は、子どもがいない人で 18.8%、子どもが 9 歳以下の人は 20.9%、10～15 歳以下は 14.9%、16 歳以上は 20.4%であった。10～15 歳以下は 15%以下と少なかったものの、子どもの有無で結果に大差は見られなかった。

表 4 は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（結婚・離婚）のクロス表である。「結婚・離婚」が理由で戸田市に住む人は、子どもがいない人で 15.2%、子どもが 9 歳以下の人は 39.9%、10～15 歳以下は 35.1%、16 歳以上は 34.0%であった。子どもがいる人の方が、「結婚・離婚」が理由で戸田市に住んでいると回答する人が多い結果となった。

表 4 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（結婚・離婚）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	190	34	224
%	84.8%	15.2%	100.0%
9歳以下	95	63	158
%	60.1%	39.9%	100.0%
10-15歳以下	48	26	74
%	64.9%	35.1%	100.0%
16歳以上	136	70	206
%	66.0%	34.0%	100.0%
合計	469	193	662
%	70.8%	29.2%	100.0%

表 5 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（経済的な理由）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	208	16	224
%	92.9%	7.1%	100.0%
9歳以下	143	15	158
%	90.5%	9.5%	100.0%
10-15歳以下	73	1	74
%	98.6%	1.4%	100.0%
16歳以上	195	11	206
%	94.7%	5.3%	100.0%
合計	619	43	662
%	93.5%	6.5%	100.0%

表 5 は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（経済的な理由）のクロス表である。「経



「経済的な理由」で戸田市に住む人は、子どもがいない人で7.1%、子どもが9歳以下の人は9.5%、10～15歳以下は1.4%、16歳以上は5.3%であった。全体で見ても「経済的な理由」で戸田市に住む人は6.5%と少ないことがわかる。

表6は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（生活環境上の理由）のクロス表である。「生活環境上の理由」で戸田市に住む人は、子どもがいない人で9.8%、子どもが9歳以下の人で9.5%、10～15歳以下は8.1%、16歳以上は7.8%であった。全体で見ても「生活環境上の理由」で戸田市に住む人は8.9%と少ないことがわかる。

表6 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（生活環境上の理由【教育環境など】）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	202	22	224
%	90.2%	9.8%	100.0%
9歳以下	143	15	158
%	90.5%	9.5%	100.0%
10-15歳以下	68	6	74
%	91.9%	8.1%	100.0%
16歳以上	190	16	206
%	92.2%	7.8%	100.0%
合計	603	59	662
%	91.1%	8.9%	100.0%

表7 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（通勤通学の便）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	174	50	224
%	77.7%	22.3%	100.0%
9歳以下	112	46	158
%	70.9%	29.1%	100.0%
10-15歳以下	62	12	74
%	83.8%	16.2%	100.0%
16歳以上	167	39	206
%	81.1%	18.9%	100.0%
合計	515	147	662
%	77.8%	22.2%	100.0%

表7は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（通勤通学の便）のクロス表である。「通学の便」が理由で戸田市に住む人は、子どもがいない人で22.3%、子どもが9歳以下の人

は 29.1%、10～15 歳以下は 16.2%、16 歳以上は 18.9%であった。「通勤通学の便」が理由で戸田市に住む人は、子どもが 9 歳以下の人が多いが、子どもの有無で結果に大差は見られなかった。

表 8 は、子どもの有無と「戸田市に住む理由」（生まれてからずっと住んでいる）のクロス表である。「生まれてからずっと住んでいる」人で子どもがいない人は 29.0%、子どもが 9 歳以下の方は 13.3%、10～15 歳以下は 18.9%、16 歳以上は 18.9%であった。「生まれてからずっと住んでいる」人は子どもがいない人の方が多い結果となった。また、戸田市に「生まれてからずっと住んでいる」と回答した人は全体で 21.0%であった。

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	159	65	224
%	71.0%	29.0%	100.0%
9歳以下	137	21	158
%	86.7%	13.3%	100.0%
10-15歳以下	60	14	74
%	81.1%	18.9%	100.0%
16歳以上	167	39	206
%	81.1%	18.9%	100.0%
合計	523	139	662
%	79.0%	21.0%	100.0%

表 8 子どもの有無と「戸田市に住む理由」（生まれてからずっと住んでいる）

### 3. 子どもの有無と「転居理由」

表 9 子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（子どもの入学・進学）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	222	3	225
%	98.7%	1.3%	100.0%
9歳以下	137	21	158
%	86.7%	13.3%	100.0%
10-15歳以下	70	4	74
%	94.6%	5.4%	100.0%
16歳以上	208	1	209
%	99.5%	0.5%	100.0%
合計	637	29	666
%	95.6%	4.4%	100.0%

表 9 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（子どもの入学・進学）のクロス表である。「子どもの入学・進学」が理由で戸田市から引っ越すと回答した人は子どもがい

ない人で 1.3%、子どもが 9 歳以下の人で 13.3%、10～15 歳以下は 5.4%、16 歳以上は 0.5%であった。子どもの年齢が低い方が「子どもの入学・進学」で引っ越すと回答する人が多い結果となった。

表 10 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（親との同居・近居）のクロス表である。「親との同居・近居」が理由で戸田市から引っ越すと回答した人は、子どもがいない人で 6.7%、子どもが 9 歳以下の人で 18.4%、10～15 歳以下は 14.9%、16 歳以上は 12.0%であった。子どもの年齢が低い方が「親との同居・近居」が理由で引っ越すと回答した人が多い結果となった。

表 10 子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（親との同居・近居）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	210	15	225
%	93.3%	6.7%	100.0%
9歳以下	129	29	158
%	81.6%	18.4%	100.0%
10-15歳以下	63	11	74
%	85.1%	14.9%	100.0%
16歳以上	184	25	209
%	88.0%	12.0%	100.0%
合計	586	80	666
%	88.0%	12.0%	100.0%

表 11 子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（職業上の理由【就転職・退職】）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	163	62	225
%	72.4%	27.6%	100.0%
9歳以下	110	48	158
%	69.6%	30.4%	100.0%
10-15歳以下	57	17	74
%	77.0%	23.0%	100.0%
16歳以上	185	24	209
%	88.5%	11.5%	100.0%
合計	515	151	666
%	77.3%	22.7%	100.0%

表 11 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（職業上の理由）のクロス表である。「職業上の理由」で戸田市から引っ越すと回答した人は、子どもがいない人で 27.6%、子どもが 9 歳以下の人で 30.4%、10～15 歳以下は 23.0%、16 歳以上は 11.5%であった。子どもの年齢が低い方が「職業上の理由」で引っ越すと回答した人が多い結果となった。

表 12 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（結婚・離婚）のクロス表である。「結婚・離婚」が理由で引っ越すと回答した人は、子どもがいない人で 24.0%、子どもが 9 歳以下の人で 5.7%、10～15 歳以下は 10.8%、16 歳以上は 3.8%であった。子どもがいない人の方が、「結婚・離婚」が理由で引っ越すと回答した人が多い結果となった。

表 12 子ども有無と「戸田市から引っ越す理由」（結婚・離婚）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	171	54	225
%	76.0%	24.0%	100.0%
9歳以下	149	9	158
%	94.3%	5.7%	100.0%
10-15歳以下	66	8	74
%	89.2%	10.8%	100.0%
16歳以上	201	8	209
%	96.2%	3.8%	100.0%
合計	587	79	666
%	88.1%	11.9%	100.0%

表 13 子ども有無と「戸田市から引っ越す理由」（経済的な理由）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	198	27	225
%	88.0%	12.0%	100.0%
9歳以下	141	17	158
%	89.2%	10.8%	100.0%
10-15歳以下	65	9	74
%	87.8%	12.2%	100.0%
16歳以上	189	20	209
%	90.4%	9.6%	100.0%
合計	593	73	666
%	89.0%	11.0%	100.0%

表 13 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（経済的な理由）のクロス表である。「経済的な理由」で引っ越すと回答した人は、子どもがいない人で 12.0%、子どもが 9 歳以下の人で 10.8%、10～15 歳以下は 12.2%、16 歳以上は 9.6%であった。子どもの有無で結果に大差は見られなかった。

表 14 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」（生活環境上の理由）のクロス表

である。「生活環境上の理由」で引っ越すと回答した人は、子どもがいない人で 13.3%、子どもが 9 歳以下の方は 25.3%、10～15 歳以下は 10.8%、16 歳以上は 8.6%であった。子どもの年齢が低い方が「生活環境上の理由」で引っ越すと回答した人が多い結果となった。

表 14 子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」(生活環境上の理由【教育環境など】)

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	195	30	225
%	86.7%	13.3%	100.0%
9歳以下	118	40	158
%	74.7%	25.3%	100.0%
10-15歳以下	66	8	74
%	89.2%	10.8%	100.0%
16歳以上	191	18	209
%	91.4%	8.6%	100.0%
合計	570	96	666
%	85.6%	14.4%	100.0%

表 15 子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」(通勤通学の便)

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	187	38	225
%	83.1%	16.9%	100.0%
9歳以下	150	8	158
%	94.9%	5.1%	100.0%
10-15歳以下	66	8	74
%	89.2%	10.8%	100.0%
16歳以上	207	2	209
%	99.0%	1.0%	100.0%
合計	610	56	666
%	91.6%	8.4%	100.0%

表 15 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」(通勤通学の便) のクロス表である。「通勤通学の便」で引っ越すと回答した人は、子どもがいない人で 16.9%、子どもが 9 歳以下の方は 5.1%、10～15 歳以下は 10.8%、16 歳以上は 1.0%であった。子どもがいない人の方が「通勤通学の便」が理由で引っ越すと回答した人が多い結果となった。

表 16 は、子どもの有無と「戸田市から引っ越す理由」(引っ越す予定はない) のクロス

表である。「引っ越し予定はない」と回答した人は、子どもがいない人で 33.3%、子どもが 9 歳以下の人で 32.9%、10～15 歳以下は 45.9%、16 歳以上は 64.6%であった。子どもの年齢が高い方が「引っ越し予定はない」と回答した人が多い結果となった。また、「引っ越し予定はない」と回答した人は、全体で 44.4%であった。

表 16 子どもの有無と「戸田市から引っ越し理由」（引っ越し予定はない）

	当てはまらない	当てはまる	合計
いない	150	75	225
%	66.7%	33.3%	100.0%
9歳以下	106	52	158
%	67.1%	32.9%	100.0%
10-15歳以下	40	34	74
%	54.1%	45.9%	100.0%
16歳以上	74	135	209
%	35.4%	64.6%	100.0%
合計	370	296	666
%	55.6%	44.4%	100.0%

#### 4. まとめ

本調査の結果を見ると、戸田市は一般的に理解されているように、結婚などを機に転入してくる層が多いこと、通勤通学の便の良さを理由に居住している層が多いことが理解できる。ところで、戸田市は転入も多いが、転出が多いと言われている。そのことに反して、「ずっと戸田市に住んでいる」という層も 8 つの項目の中では割合が高い傾向にあったことも理解できる。

そのことは、「引っ越し予定はない」と答えた層が、全体で 44.4%となっていることから伺える。そのように考えるならば、引っ越し理由として上げられる「職業上の理由」などは決して積極的な理由とは言えないのかもしれない。言い換えれば、戸田市の流入の高さは、決して愛着の低さを意味しているのではなく、ワークスタイルやライフスタイルの変化という若年層ならではのと言える特徴に起因していることを物語っているのかもしれない。



## 第2章 戸田市での生活（1）：親の年代に着目して

### 1. はじめに

本章では、前章とは異なり、親の年代に着目する。戸田市の平均年齢が埼玉県内で最も若いということを踏まえるならば、年代に応じて、「戸田市に住む理由」が異なるのではないだろうか。また、転入人口も多いが、転出人口も多いことを踏まえるならば、「戸田市から引っ越しを考える理由」も年代に応じて異なるのではないだろうか。仮説的には、若年層が転入しやすくなる要因と転出しやすくなる要因とが同時に現れているのが戸田市の特徴ではないかと考えられる。この点を意識しつつ、「戸田市に住む理由」「戸田市から引っ越しを考える理由」を年代別に捉えていきたい。

### 2. 親の年代と「戸田市に住む理由」

以下では、前章と同様に、8つの項目に対する年代の回答の差異を理解していく。

表1 親の年代と「戸田市に住む理由」（子どもの入学・進学）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	88	0	88
%	100.0%	0.0%	100.0%
30代	166	5	171
%	97.1%	2.9%	100.0%
40代以上	376	15	391
%	96.2%	3.8%	100.0%
合計	630	20	650
%	96.9%	3.1%	100.0%

表1は、親の年代と「戸田市に住む理由」（子どもの入学・進学）のクロス表である。子どもの入学・進学が理由で戸田市に住んでいる人は、20代で0%、30代で2.9%、40代以上で3.8%となっており、年代が高いほど「当てはまる」と回答する人が多くなることがわかる。全体では3.1%とかなり低い結果となった。

表2は、親の年代と「戸田市に住む理由」（親との同居・近居）のクロス表である。親との同居・近居が理由で戸田市に住んでいる人は、20代で25%、30代で16.4%、40代以上で14.1%となっており、年代が低いほど「当てはまる」と回答する人が多いことがわかる。



表2 親の年代と「戸田市に住む理由」(親との同居・近居)

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	66	22	88
%	75.0%	25.0%	100.0%
30代	143	28	171
%	83.6%	16.4%	100.0%
40代以上	336	55	391
%	85.9%	14.1%	100.0%
合計	545	105	650
%	83.8%	16.2%	100.0%

表3 親の年代と「戸田市に住む理由」(職業上の理由【就転職・退職など】)

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	79	9	88
%	89.8%	10.2%	100.0%
30代	131	40	171
%	76.6%	23.4%	100.0%
40代以上	313	78	391
%	80.1%	19.9%	100.0%
合計	523	127	650
%	80.5%	19.5%	100.0%

表3は、親の年代と「戸田市に住む理由」(職業上の理由【就転職・退職など】)のクロス表である。職業上の理由で戸田市に住んでいる人は、20代で10.2%、30代で23.4%、40代以上で、19.9%となった。ここからは、戸田市へは、職業上の理由で転入してくる層が多いことが理解できる。

表4は、親の年代と「戸田市に住む理由」(結婚・離婚)のクロス表である。結婚や離婚が原因で戸田市に住んでいる人は、20代で14.8%、30代で35.7%、40代以上で30.2%、全体では29.5%と他の戸田市に住む理由に比べて高いことがわかる。ここからは、戸田市へ転入してくる要因として、「結婚・離婚」が大きな影響力を持っていることが理解できる。

以上の表3、表4から、戸田市の平均年齢の若さの要因が読み取れる。なぜならば、就職や転職、結婚といったライフイベントが生じやすい世代が若年層であるためである。

表 4 親の年代と「戸田市に住む理由」(結婚・離婚)

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	75	13	88
%	85.2%	14.8%	100.0%
30代	110	61	171
%	64.3%	35.7%	100.0%
40代以上	273	118	391
%	69.8%	30.2%	100.0%
合計	458	192	650
%	70.5%	29.5%	100.0%

表 5 親の年代と「戸田市に住む理由」(経済的な理由)

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	85	3	88
%	96.6%	3.4%	100.0%
30代	155	16	171
%	90.6%	9.4%	100.0%
40代以上	369	22	391
%	94.4%	5.6%	100.0%
合計	609	41	650
%	93.7%	6.3%	100.0%

表 5 は、親の年代と「戸田市に住む理由」(経済的な理由) のクロス表である。経済的な理由で、戸田市に住んでいる人は、20代で3.4%、30代で9.4%、40代以上で5.6%となっており、経済的な理由で戸田市に住んでいる人はあまり多くないことがわかる。

表 6 は、親の年代と「戸田市に住む理由」(生活環境上の理由【教育環境など】) のクロス表である。生活環境上の理由で戸田市に住んでいる人は、20代で8.0%、30代で13.5%、40代以上で7.2%となり、30代は他の年代に比べて、生活環境上の理由で戸田市に住んでいる人の割合が高いことがわかる。

表 7 は、親の年代と「戸田市に住む理由」(通勤通学の便) のクロス表である。通勤通学の便が理由で戸田市に住んでいる人は20代で14.8%、30代で27.5%、40代以上で21.7%となり、戸田市に住む理由として、比較的高い傾向にあることがわかる。通勤通学の便が良いことが「戸田市に住む理由」となっていることもまた、戸田市の特徴を表していると言えるだろう。

表 6 親の年代と「戸田市に住む理由」(生活環境上の理由【教育環境など】)

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	81	7	88
%	92.0%	8.0%	100.0%
30代	148	23	171
%	86.5%	13.5%	100.0%
40代以上	363	28	391
%	92.8%	7.2%	100.0%
合計	592	58	650
%	91.1%	8.9%	100.0%

表 7 親の年代と「戸田市に住む理由」(通勤通学の便)

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	75	13	88
%	85.2%	14.8%	100.0%
30代	124	47	171
%	72.5%	27.5%	100.0%
40代以上	306	85	391
%	78.3%	21.7%	100.0%
合計	505	145	650
%	77.7%	22.3%	100.0%

表 8 親の年代と「戸田市に住む理由」(生まれてからずっと住んでいる)

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	52	36	88
%	59.1%	40.9%	100.0%
30代	146	25	171
%	85.4%	14.6%	100.0%
40代以上	317	74	391
%	81.1%	18.9%	100.0%
合計	515	135	650
%	79.2%	20.8%	100.0%

表 8 は親の年代と「戸田市に住む理由」（生まれてからずっと住んでいる）のクロス表である。生まれてからずっと戸田市に住んでいる人の割合は20代で40.9%、30代で14.6%、40代以上で18.9%となり、30代以上で「当てはまる」と回答した人は20代に比べて大幅に減少した。

### 3. 親の年代と「転居理由」

本節では、戸田市から外部へ転出するプッシュ要因について年代別に検討する。

表 9 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（子どもの入学・進学）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	88	1	89
%	98.9%	1.1%	100.0%
30代	154	17	171
%	90.1%	9.9%	100.0%
40代以上	384	10	394
%	97.5%	2.5%	100.0%
合計	626	28	654
%	95.7%	4.3%	100.0%

表 9 は、親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（子どもの入学・進学）のクロス表である。子どもの入学や進学が理由で、戸田市から引っ越す人の割合は、20代で1.1%、30代で9.9%、40代以上で2.5%となり、30代の「当てはまる」と回答した割合は他の年代に比べて多いことがわかる。

表 10 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（親との同居・近居）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	83	6	89
%	93.3%	6.7%	100.0%
30代	146	25	171
%	85.4%	14.6%	100.0%
40代以上	347	47	394
%	88.1%	11.9%	100.0%
合計	576	78	654
%	88.1%	11.9%	100.0%

表 10 は、親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（親との同居・近居）のクロス表である。親との同居や近居が理由で、戸田市から引っ越す人の割合は 20 代で 6.7%、30 代で 14.6%、40 代以上で 11.9%となった。

表 11 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（職業上の理由【就転職・退職】）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	62	27	89
%	69.7%	30.3%	100.0%
30代	115	56	171
%	67.3%	32.7%	100.0%
40代以上	327	67	394
%	83.0%	17.0%	100.0%
合計	504	150	654
%	77.1%	22.9%	100.0%

表 11 は、親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（職業上の理由【就転職・退職】）のクロス表である。職業上の理由で戸田市から引っ越す人の割合は、20 代で 30.3%、30 代で 32.7%、40 代以上で 17.0%となり、20 代、30 代が「当てはまる」と回答した割合は比較的多くなった。この結果は、戸田市へ職業上の理由で転入して来る人も多いが、同時に職業上の理由で転出する人が多い現実を示していると考えられる。

表 12 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（結婚・離婚）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	62	27	89
%	69.7%	30.3%	100.0%
30代	141	30	171
%	82.5%	17.5%	100.0%
40代以上	373	21	394
%	94.7%	5.3%	100.0%
合計	576	78	654
%	88.1%	11.9%	100.0%

表 12 は、親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（結婚・離婚）のクロス表である。結婚や離婚が理由で、戸田市から引っ越す人の割合は、20 代で 30.3%、30 代で 17.5%、40

代で5.3%となり、20代の、戸田市から引っ越す理由として、結婚や離婚は比較的高い割合であることがわかる。とはいえ、結婚や離婚を理由として戸田市に住んでいる人と比較するならば、その割合は全体としてみるならば低い傾向にある。重要なのは、20代の30.3%という値である。この世代の転出をどのようにして減らしていくことができるのかが、今後の戸田市の大きな課題であろう。

表 13 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（経済的な理由）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	84	5	89
%	94.4%	5.6%	100.0%
30代	151	20	171
%	88.3%	11.7%	100.0%
40代以上	350	44	394
%	88.8%	11.2%	100.0%
合計	585	69	654
%	89.4%	10.6%	100.0%

表 13 は親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（経済的な理由）のクロス表である。経済的な理由で戸田市から引っ越す人の割合は、20代で5.6%、30代で11.7%、40代以上で11.2%となり、あまり多くないことがわかる。

表 14 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（生活環境上の理由【教育環境など】）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	78	11	89
%	87.6%	12.4%	100.0%
30代	138	33	171
%	80.7%	19.3%	100.0%
40代以上	344	50	394
%	87.3%	12.7%	100.0%
合計	560	94	654
%	85.6%	14.4%	100.0%

表 14 は、親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（生活環境上の理由【教育環境など】）

のクロス表である。教育環境などの理由で戸田市から引っ越す人の割合は、20代で12.4%、30代で19.3%、40代以上で12.7%となり、30代が教育環境などの理由で戸田市から引っ越す割合は、他の年代よりも若干多いことがわかる。

表15は、親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（通勤通学の便）のクロス表である。通勤通学の便が理由で戸田市から引っ越す人の割合は20代で13.5%、30代で10.5%、40代以上で6.3%となり、年代が低いほど、「当てはまる」と回答した割合が高いことがわかる。通勤通学の便を理由として戸田市に住む人の割合と比較するならば、通勤通学を理由として転出する可能性のある人の割合は低いことが読み取れる。ここからは、戸田市の都心へのアクセスの良さが一番の売りであることが改めて理解できる。

表15 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（通勤通学の便）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	77	12	89
%	86.5%	13.5%	100.0%
30代	153	18	171
%	89.5%	10.5%	100.0%
40代以上	369	25	394
%	93.7%	6.3%	100.0%
合計	599	55	654
%	91.6%	8.4%	100.0%

表16 親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（引っ越す予定はない）

	当てはまらない	当てはまる	合計
20代	71	18	89
%	79.8%	20.2%	100.0%
30代	122	49	171
%	71.3%	28.7%	100.0%
40代以上	168	226	394
%	42.6%	57.4%	100.0%
合計	361	293	654
%	55.2%	44.8%	100.0%

表16は、親の年代と「戸田市から引っ越す理由」（引っ越す予定はない）のクロス表で

ある。戸田市から引っ越す予定はないと回答した人の割合は、20代で20.2%、30代で28.7%、40代以上で57.4%となった。40代以上の半数以上は戸田市から引っ越す予定はないことがわかる。ここから理解できることは、若年層の方が、引っ越す可能性が高いという現実である。戸田市に転入してくる理由は、若年層にとって新生活を始めるのに都合の良いこと（アクセス、生活環境など）であることはたびたび指摘されるが、そのことがコインの裏のように転出する可能性の高さともつながっている。戸田市の今後を長期的に考えるならば、若年層の転出をいかにして食い止めることができるのかを考える必要があるだろう。

#### 4. まとめ

以上より、たびたび指摘される戸田市の特徴を追尾することができた。本調査にとって重要なことは、戸田市の居心地のよさを単純に語るのではなく、そのことによって普段は表に出てこない、戸田市が抱えている今後の課題を考えることであろう。そのために本調査では、若年層にとって重要な要因となりうる「子どもの居場所づくり」に着目している。しかし、「子どもの居場所」を考える際に、現在「子育て中」の人のみを対象としているのは、近年社会問題化される「子どもの騒音」問題のような、年長世代やまだ子どもを持たない層からの批判を強めてしまう可能性がある。本調査で、幅広い年代に照準しているのは、「子どもの居場所」であっても、それをまなざす多様な年代の人たちであることを踏まえ、「子ども」を優先する際に、何が問題となるかを理解するためでもある。以上を踏まえ、第4章以降では、「子どもの居場所」として想定される「学童保育室」と「公園」を軸に考察を行っていく。





### 第3章 戸田市での生活 (3) : 居住地区に着目して

#### 1. はじめに

本章では、居住地区に着目して、「戸田市に住む理由」「戸田市から引っ越しを考える理由」を考察する。地区に着目する理由は、歴史的背景、地理的背景などはもちろんのこと、交通の便の差異、商業施設へのアクセス、教育環境、そして本調査で着目する「子どもの居場所」についても捉え方の差異があると考えられるためである。

以下、前章までと同様に8つの項目から、「戸田市に住む理由」「戸田市から引っ越しを考える理由」を考察していく。

#### 2. 居住地区と「戸田市に住む理由」

本節では、「戸田市に住む理由」が居住地区によってどのように異なるのかを理解することを目的とする。

表1 居住地区と「戸田市に住む理由」(子どもの入学・進学)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	204	6	210
%	97.1%	2.9%	100.0%
上戸田地区	161	4	165
%	97.6%	2.4%	100.0%
新曽地区	134	3	137
%	97.8%	2.2%	100.0%
笹目地区	92	4	96
%	95.8%	4.2%	100.0%
美女木地区	49	2	51
%	96.1%	3.9%	100.0%
合計	640	19	659
%	97.1%	2.9%	100.0%

表1は、戸田市に住む理由として、「子どもの入学・進学」をあげている人の割合を地区事に示したものである。この結果からも理解できるように、「当てはまる」と回答した人は全体でも2.9%であり、総じて、「子どもの入学・進学」を契機に戸田市に住むようになったという人はどの地区でも低い傾向にあることが理解できる。

表2は、居住地区と「戸田市に住む理由」として「親との同居・近居」をあげた人とのクロス表である。全体で見ると「当てはまる」という回答は15.9%であるが、地区事を見ると全体よりも高い割合を示しているのは、下戸田地区(17.1%)、美女木地区(19.6%)

となっており、地区に応じて傾向に差異があることが読み取れる。

表2 居住地区と「戸田市に住む理由」(親との同居・近居)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	174	36	210
%	82.9%	17.1%	100.0%
上戸田地区	140	25	165
%	84.8%	15.2%	100.0%
新曽地区	117	20	137
%	85.4%	14.6%	100.0%
笹目地区	82	14	96
%	85.4%	14.6%	100.0%
美女木地区	41	10	51
%	80.4%	19.6%	100.0%
合計	554	105	659
%	84.1%	15.9%	100.0%

表3 居住地区と「戸田市に住む理由」(職業上の理由【就転職・退職など】)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	181	29	210
%	86.2%	13.8%	100.0%
上戸田地区	126	39	165
%	76.4%	23.6%	100.0%
新曽地区	105	32	137
%	76.6%	23.4%	100.0%
笹目地区	80	16	96
%	83.3%	16.7%	100.0%
美女木地区	40	11	51
%	78.4%	21.6%	100.0%
合計	532	127	659
%	80.7%	19.3%	100.0%

表3は、居住地区と「戸田市に住む理由」として「職業上の理由」をあげた人のクロス表である。全体で見れば、「当てはまる」と回答した人の割合は、19.3%であるが、その値を大きく下回るのは下戸田地区(13.8%)、笹目地区(16.7%)の2つの地区であった。対照的に、上戸田地区、新曽地区、美女木地区は20%を越える割合の人が「当てはまる」と回答している。このことは、新築マンションの建築など、居住環境の整備や駅へのアクセ

スなどとの関連を示唆しているように思われる。

表 4 居住地区と「戸田市に住む理由」(結婚・離婚)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	154	56	210
%	73.3%	26.7%	100.0%
上戸田地区	115	50	165
%	69.7%	30.3%	100.0%
新曽地区	96	41	137
%	70.1%	29.9%	100.0%
笹目地区	69	27	96
%	71.9%	28.1%	100.0%
美女木地区	30	21	51
%	58.8%	41.2%	100.0%
合計	464	195	659
%	70.4%	29.6%	100.0%

表 4 は、「戸田市に住む理由」として「結婚・離婚」をあげた人の割合を示している。全体で見ると、29.6%であるが、美女木地区だけが41.2%と大きく上回っていることが特徴的である。上戸田地区は、「職業上の理由」「結婚・離婚」ともに全体の平均よりも上回っている点の特徴的である。

表 5 居住地区と「戸田市に住む理由」(経済的な理由)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	195	15	210
%	92.9%	7.1%	100.0%
上戸田地区	153	12	165
%	92.7%	7.3%	100.0%
新曽地区	131	6	137
%	95.6%	4.4%	100.0%
笹目地区	91	5	96
%	94.8%	5.2%	100.0%
美女木地区	46	5	51
%	90.2%	9.8%	100.0%
合計	616	43	659
%	93.5%	6.5%	100.0%

表 5 は、居住地区と「戸田市に住む理由」として「経済的な理由」と回答した人のクロス

表である。「経済的な理由」には市内における家賃や地価という比較軸や東京都内との比較、隣接市町村との比較などさまざまな軸があるため、考察は難しいが、新曽地区、笹目地区は全体よりも低い値を示している。

表 6 居住地区と「戸田市に住む理由」(生活環境上の理由【教育環境など】)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	186	24	210
%	88.6%	11.4%	100.0%
上戸田地区	147	18	165
%	89.1%	10.9%	100.0%
新曽地区	126	11	137
%	92.0%	8.0%	100.0%
笹目地区	92	4	96
%	95.8%	4.2%	100.0%
美女木地区	49	2	51
%	96.1%	3.9%	100.0%
合計	600	59	659
%	91.0%	9.0%	100.0%

表 7 居住地区と「戸田市に住む理由」(通勤通学の便)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	158	52	210
%	75.2%	24.8%	100.0%
上戸田地区	115	50	165
%	69.7%	30.3%	100.0%
新曽地区	111	26	137
%	81.0%	19.0%	100.0%
笹目地区	83	13	96
%	86.5%	13.5%	100.0%
美女木地区	47	4	51
%	92.2%	7.8%	100.0%
合計	514	145	659
%	78.0%	22.0%	100.0%

表 6 は、居住地区と「戸田市に住む理由」として「生活環境上の理由」と回答した人のクロス表である。ここから理解できることは、下戸田地区、上戸田地区、新曽地区と笹目地区、美女木地区の間にある分断線の強さである。この結果が、教育環境を直接意味しているのか、生活に関わる諸問題を意味しているのかは断定できないが、この視点を深く考

察することで戸田市内に潜む問題が明らかにできる可能性を秘めている。

表 7 は、戸田市の特徴とも言える「通勤通学の便」を地区ごとに示したものである。結果から見てわかる通り、鉄道駅への近さと「当てはまる」と回答した人の割合が関連していることが理解できる。

表 8 居住地区と「戸田市に住む理由」(生まれてからずっと住んでいる)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	170	40	210
%	81.0%	19.0%	100.0%
上戸田地区	137	28	165
%	83.0%	17.0%	100.0%
新曽地区	109	28	137
%	79.6%	20.4%	100.0%
笹目地区	65	31	96
%	67.7%	32.3%	100.0%
美女木地区	40	11	51
%	78.4%	21.6%	100.0%
合計	521	138	659
%	79.1%	20.9%	100.0%

表 8 は、地区ごとにみた「生まれてからずっと戸田市に住んでいる」と回答した人の割合を示している。ここから理解できるのは、笹目地区、美女木地区の「当てはまる」と回答した人の割合の高さである。

以上の結果から、戸田市内においても JR 埼京線へのアクセスの度合いによって、人口の流動性に差異があることが理解できる。それは、笹目地区、美女木地区がどこか定住志向が高い結果を意味しているように見えるが、一方で「結婚・離婚」を機に戸田市に住むようになった人の割合が美女木地区では高いという、相反する結果が生じている。このことは長期的に戸田市内の地区を捉えた時と、短期的に捉えた際で特徴に変化が生じていることを物語っているのだろうか。

### 3. 居住地区と「転居理由」

前節では、「戸田市に住む理由」を見てきたが、本節では、逆に戸田市から外へ出て行くと想定した際の理由を地区ごとに見ていく。この結果から、同じ戸田市内であっても、特徴に差異があることが理解できるはずである。同時に、戸田市内の地区には様々な特徴があり、一重に戸田と語ることの難しさも理解できるはずである。

表 9 は、「戸田市から引っ越す理由」として「子どもの入学・進学」をあげた人の割合である。ここから理解できることは、全体の割合が 4.4%なのに対して、新曽地区だけが

8.0%となっている点である。この結果は、現在の住まいの手狭さなどに起因しているのだろうか。同時に、単身世帯や子どもがいない世帯が多く新曽地区に居住していることを示唆していると考えられる。

表9 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」(子どもの入学・進学)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	208	5	213
%	97.7%	2.3%	100.0%
上戸田地区	158	8	166
%	95.2%	4.8%	100.0%
新曽地区	126	11	137
%	92.0%	8.0%	100.0%
笹目地区	93	3	96
%	96.9%	3.1%	100.0%
美女木地区	49	2	51
%	96.1%	3.9%	100.0%
合計	634	29	663
%	95.6%	4.4%	100.0%

表10 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」(親との同居・近居)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	188	25	213
%	88.3%	11.7%	100.0%
上戸田地区	144	22	166
%	86.7%	13.3%	100.0%
新曽地区	119	18	137
%	86.9%	13.1%	100.0%
笹目地区	88	8	96
%	91.7%	8.3%	100.0%
美女木地区	45	6	51
%	88.2%	11.8%	100.0%
合計	584	79	663
%	88.1%	11.9%	100.0%

表10は、「戸田市から引っ越す理由」として、「親との同居・近居」をあげた人の割合を示している。ここからも、全体が11.9%であるのに対して、上戸田地区(13.3%)、新曽

地区（13.1%）となっている点が特徴的である。ここからもまた戸田市の特徴である若年層がこの地区に転入し、そして転出していることが示唆される。

表 11 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」（職業上の理由【就転職・退職】）

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	173	40	213
%	81.2%	18.8%	100.0%
上戸田地区	120	46	166
%	72.3%	27.7%	100.0%
新曽地区	98	39	137
%	71.5%	28.5%	100.0%
笹目地区	81	15	96
%	84.4%	15.6%	100.0%
美女木地区	41	10	51
%	80.4%	19.6%	100.0%
合計	513	150	663
%	77.4%	22.6%	100.0%

表 12 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」（結婚・離婚）

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	185	28	213
%	86.9%	13.1%	100.0%
上戸田地区	147	19	166
%	88.6%	11.4%	100.0%
新曽地区	123	14	137
%	89.8%	10.2%	100.0%
笹目地区	83	13	96
%	86.5%	13.5%	100.0%
美女木地区	48	3	51
%	94.1%	5.9%	100.0%
合計	586	77	663
%	88.4%	11.6%	100.0%

表 11 は、居住地区と「戸田市から引っ越す理由」として「職業上の理由」をあげた人のクロス表である。この結果からもまた、上戸田地区（27.7%）、新曽地区（28.5%）の2つが全体の結果（22.6%）を上回っていることが理解できる。



表 12 は、居住地区と「戸田市から引っ越す理由」として「結婚・離婚」をあげた人のクロス表である。最も回答の割合が高いのが、笹目地区で 13.5%、次いで下戸田地区が 13.1%である。全体の値が、11.6%であるのに対して、美女木地区は大きくその割合が低いことが特徴的である。

表 13 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」(経済的な理由)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	185	28	213
%	86.9%	13.1%	100.0%
上戸田地区	150	16	166
%	90.4%	9.6%	100.0%
新曽地区	122	15	137
%	89.1%	10.9%	100.0%
笹目地区	86	10	96
%	89.6%	10.4%	100.0%
美女木地区	47	4	51
%	92.2%	7.8%	100.0%
合計	590	73	663
%	89.0%	11.0%	100.0%

表 14 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」(生活環境上の理由【教育環境など】)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	182	31	213
%	85.4%	14.6%	100.0%
上戸田地区	132	34	166
%	79.5%	20.5%	100.0%
新曽地区	122	15	137
%	89.1%	10.9%	100.0%
笹目地区	88	8	96
%	91.7%	8.3%	100.0%
美女木地区	45	6	51
%	88.2%	11.8%	100.0%
合計	569	94	663
%	85.8%	14.2%	100.0%

表 13 は、居住地区と「戸田市から引っ越す理由」として「経済的な理由」をあげた人の割合を示したクロス表である。最もその割合が高いのは下戸田地区の 13.1%であり、唯一、全体の値である 11.0%を上回っている。

表 14 は、居住地区と「戸田市から引っ越す理由」として「生活環境上の理由」をあげた人の割合を示したクロス表である。全体の値は、14.2%であるが、上戸田地区はその値を大きく上回り、20.5%となっている。この結果は、便利であることと安全や環境の問題が反比例することを示唆しているのかもしれない。

表 15 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」(通勤通学の便)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	195	18	213
%	91.5%	8.5%	100.0%
上戸田地区	153	13	166
%	92.2%	7.8%	100.0%
新曽地区	126	11	137
%	92.0%	8.0%	100.0%
笹目地区	89	7	96
%	92.7%	7.3%	100.0%
美女木地区	44	7	51
%	86.3%	13.7%	100.0%
合計	607	56	663
%	91.6%	8.4%	100.0%

表 16 居住地区と「戸田市から引っ越す理由」(引っ越す予定はない)

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	116	97	213
%	54.5%	45.5%	100.0%
上戸田地区	100	66	166
%	60.2%	39.8%	100.0%
新曽地区	79	58	137
%	57.7%	42.3%	100.0%
笹目地区	47	49	96
%	49.0%	51.0%	100.0%
美女木地区	26	25	51
%	51.0%	49.0%	100.0%
合計	368	295	663
%	55.5%	44.5%	100.0%

表 15 は、居住地区と「戸田市から引っ越す理由」として「通勤通学の便」をあげた人のクロス表である。全体の結果が、8.4%であることは、戸田市全体の特徴を顕著に示して

いる。ところが、美女木地区だけが13.7%となっている点が戸田市内の特徴を示している。すなわち、ここでもまた JR 埼京線へのアクセスという問題が同一の市内であっても、回答に差異をもたらしていると考えられる。

表 16 は、居住地区と「戸田市から引っ越す理由」として「引っ越す予定はない」と回答した人のクロス表である。全体として44.5%の人が「引っ越す予定はない」と回答している。その中でも、笹目地区、美女木地区は、全体を上回る値を示している（それぞれ、51.0%、49.0%）点特徴的である。ここからも戸田市内における生活や価値意識において、地区による差異が理解できる。すなわち、JR 埼京線の開通とともに発展を遂げて来た戸田市において、その影響を受け、現在の戸田市の特徴を示している地区と、それとは異なる旧来の戸田市の特徴を示している地区という2つが混在しているのが現在の戸田市の特徴であると言えるだろう。ただ、この結果は、どちらが正しいというものではないことに注意が必要である。なぜならば、地元志向という点を評価するのであれば、この結果の見方はどちらかポジティブに映るかは大きく異なるためである。

#### 4. まとめ

本章では、戸田市内の地区に着目して「戸田市に住む理由」「引っ越す理由」を見てきた。その結果から理解できることは、戸田市内を貫く JR 埼京線へのアクセスの度合いとの関連で回答に差異が生じることである。ここからは、古くから戸田市に定住している人が多いと思われる地区（美女木地区など）と、交通の便に起因して流動性が高い地区（上戸田地区など）があることが理解できる。だが、回答の結果からは、戸田市内に住む人は決して「便利さ」だけを求めているわけではないことも読み取れる。であるならば、戸田市内での交通のアクセスなどを改善していくことが求められているのであろう。

## 第4章 学童保育に対する不安と「望ましい子育て」

### 1. 問題意識

近年、不景気による共働き、核家族化などによって子どもを預ける場所が必要とされている。小学生の放課後の居場所の一つとして「学童保育室」がある。朝日新聞（2014年11月8日）によると、学童保育室の数は2万2084カ所で前年より602カ所（3%）増えた。ところが、利用児童数も前年より4万7247人（5%）増え、受け入れが追いついておらず、待機児童が9900人に増加している現状がある。ここからも、学童保育室は高いニーズにあることがわかる。

一方で、相次ぐ学童保育室の不祥事などにより子どもを持つ親は学童保育室に子どもを預けることに不安を感じていると指摘されることもある。だが、保育所とは違い、施設や職員配置の最低基準、財政措置が設けられておらず、施設・設備、開設日・時間、サービス内容、保護者の負担など、「働く親が、放課後および学校休業日に、安心して子どもの生活を託すことができる」とは言いがたい」（伊部，2013）と言われている。

以上を踏まえて本章では、学童保育室の必要性と不安な点を明らかにすることを目的とする。以下、節をあらため、問題意識を明らかにするための仮説を提示し（2節）、3節以下で検証していく。

### 2. 分析のねらいと仮説

学童保育室に対する不安は子どもを預けている人（預けていた人、預けたい人）、預けていない人によって異なると考えられる。そこで本章では、以下のような仮説を立てた。

- I 学童保育室に子どもを預けている人（預けていた人、預けたい人）の方が学童保育室に対する不安が少ない。
- II 学童保育室に子どもを預けている人の方が、学童保育室に預けるのが望ましいと考えている

### 3. 使用する変数と基礎集計

本章で使用する変数は、問9「学童保育室に子どもを預けているか」、問10「学童保育室に子どもを預けた理由」、問11「学童保育室に対する不安」、問12「子どもを預ける場所について」、問18「回答者の年齢」である。

以下、独立変数として設定する変数と従属変数として設定する変数のそれぞれについての説明と基礎集計を提示する。

### 3-1. 独立変数の基礎集計

独立変数は問9「学童保育室に子どもを預けているか」、問18「回答者の年齢」とする。

表1 学童保育室に子どもを預けているか

	人数	%
預けている	218	32.3
預けていない	439	65
無回答	18	2.7
総計	675	100.0

この設問は、「学童保育室に子どもを預けていますか（預けていましたか）。また預けたいと思いますか」となっている。以下も同様であるが、表として提示する際には、「預けている」には「預けていた」「預けたい」という回答が含まれている点に留意されたい。このような設問とすることで、実際に「預けている人」だけを抽出することは難しくなる側面はあるが、過去に「預けていた人」や将来的に「預けたい人」など、子育てを卒業した人や将来世代の意識も理解することを本調査では重視したのである。表1より、学童保育室に子どもを「預けている（預けていた、預けたい人を含む）」は32.3%となった。「預けていない（預けていなかった、預けたくない人を含む）」は65%で過半数を占めた。

表2 回答者の年齢

年齢	人数	%
20代	89	13.2
30代	172	25.5
40代	174	25.8
50代	104	15.4
60代以上	116	17.2
無回答	20	3.0
総計	675	100.0

表3 回答者の年齢（大分類）

年齢	人数	%
20～30代	261	38.7
40代以上	394	58.4
無回答	20	3.0
総計	675	100.0

回答者の年齢は20代が13.2%、30代が25.5%、40代が25.8%、50代が15.4%、60代以上は17.2%となった。

また、回答者の年代を、現役の子育て世代が多いと思われる20～30代とそれ以上の年代（40代以上）の2つに分けると、その分布は、20～30代の若い世代の人たちが38.7%、40代以上の人が58.4%となった。

表 4 学童保育室に子どもを預けている人の年齢

年齢	人数	%
20代	26	11.9
30代	75	34.4
40代	60	27.5
50代	29	13.3
60代以上	27	12.4
無回答	1	0.5
総計	218	100.0

現在「預けている」のか、過去に「預けていた」のか、これから「預けたい」のかの詳細は明らかに出来ないが、学童保育に子どもを「預けている人（預けていた、預けたいを含む）」の分布は、30代が34.4%、40代が27.5%と半数以上が30代、40代であることがわかる。20代は11.9%、50代は13.3%、60代は12.4%だった。子どもの年齢が小学生くらいと推測される30代がもっとも高く、次いで40代となっている。

表 5 学童保育室に子どもを預けていない人の年齢

年齢	人数	%
20代	62	14.1
30代	97	22.1
40代	114	26.0
50代	74	16.9
60代以上	87	19.8
無回答	5	1.1
総計	439	100.0

「預けていない人」も30代が22.1%、40代が26%と30代、40代が半数以上を占めている。20代が14.4%、50代が16.9%、60代以上が19.8%となった。注意する必要があるのは、20代の「預けていない」と50代、60代の「預けていない」とでは、前者が単純に「預けていない」、もしくは「預けたくない」という可能性があるのに対して、後者は、「預けていなかった」という可能性があるという点である。

### 3-2. 従属変数の基礎集計

従属変数は問10「子どもを学童保育室に預ける理由」、問11「学童保育室に対する不安」、問12「子どもを預ける場所について」である。それぞれについて基礎集計を提示していく。

表 6 子どもを学童保育室に預ける理由

	人数	%
カギを持たせるのが不安	50	22.9
きょうだいがいない	24	11.0
子どもだけで家にいるのは危ない	131	60.1
子どもだけで家にいるのはかわいそう	90	41.3
勉強や宿題をして欲しい	43	19.7
子どもが友達と遊びたがっている	38	17.4
親や親戚に預かってもらえない	45	20.6
就労のため	150	68.8
その他	6	2.8

子どもを学童保育室に預ける理由は、「就労のため」が68.8%と最も多かった。次に多いものは「子どもだけで家にいるのは危ない」で60.1%だった。「カギを持たせるのが不安」は22.9%、「きょうだいがいない」は11.0%、「子どもだけで家にいるのはかわいそう」は41.3%、「勉強や宿題をしてほしい」は19.7%、「子どもが友達と遊びたがっている」は17.4%、「親や親戚に預かってもらえない」は20.6%、「その他」は2.8%となった。

表 7 学童保育室に対する不安

	人数	%
家から遠い	46	6.8
時間が合わない	83	12.3
指導員の対応	250	37.0
乱暴な子の影響を受けないか	189	28.0
ケガをしないか	64	9.5
いじめに合わないか	155	23.0
他の子にケガをさせないか	89	13.2
他の子に迷惑をかけないか	129	19.1
不安はない	118	17.5
その他	37	5.5

最も不安を感じる人が多いのは「指導員の対応」で37.0%であった。次に多いものは「乱暴なこの影響を受けないか」で28.0%であった。「家から遠い」は6.8%、「時間が合わない」は12.3%、「ケガをしないか」は9.5%、「いじめに合わないか」は23.0%、「他の子にケガをさせないか」は13.2%、「他の子に迷惑をかけないか」は19.1%、「その他」は5.5%となった。「不安はない」は17.5%であった。

表 8 子どもを預けるのに望ましい場所について

	学童保育室		知人・友人		祖父母などの親類		自宅	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
そう思う	220	32.6	6	0.9	184	27.3	313	46.4
どちらかといえばそう思う	290	43.0	89	13.2	318	47.1	253	37.5
どちらかといえばそう思わない	93	13.8	286	42.4	91	13.5	53	7.9
そう思わない	35	5.2	246	36.4	39	5.8	20	3
無回答	37	5.5	48	7.1	43	6.4	36	5.3
総計	675	100.0	675	100.0	675	100.0	675	100.0

表 8 は問 12「子どもを預ける場所について」の基礎集計である。学童保育室に預けるのが望ましいと答えた人は「そう思う」32.6%、「どちらかといえばそう思う」43.0%であった。知人・友人に預けるのが望ましいと答えた人は「そう思う」0.9%、「どちらかといえばそう思う」13.2%と少なかった。祖父母などの親類に預けるのが望ましいと答えた人は「そう思う」27.3%、「どちらかといえばそう思う」47.1%であった。自宅で面倒を見るのが望ましいと答えた人は「そう思う」46.4%、「どちらかといえばそう思う」37.5%であった。ここから推測されるのは、子育てに関して、外部化（学童保育室）と内部化（家庭）という望ましさの規範が存在しているということである。

以下、ここまでの基礎集計を踏まえて、前述した仮説に添えていく。

#### 4. 仮説 I の検証

ここでは仮説 I 「学童保育室に子どもを預けている人（預けていた人、預けたい人）の方が学童保育室に対する不安が少ない」を検証する。

##### 4-1. 学童保育室に子どもを預けているかどうかと不安

問 9「子どもを学童保育室に預けているか」と問 11「学童保育室に対する不安」の選択肢「他の子にケガをさせないか」「他の子に迷惑をかけないか」との関連を示したものが表 9、表 10 である。

「他の子にケガをさせないか」と回答した人は、学童保育室に子どもを預けている人で 80.2%、預けていない人で 87.2%であった。学童保育室に子どもを預けている人で「いいえ」は 19.8%、預けていない人は 12.8%で、預けている人の方が他の子にケガをさせる不安が少し少ないことがわかる。預けている、預けていないに関わらず他の子にケガをさせないか、不安を感じる人は多いものの、預けていない人の方が「他の子にケガをさせないか」と回答する傾向にあった。カイ二乗検定の結果、5%水準で統計的な有意差がみられた（表 9）。



表 9 問 9 学童保育室に子どもを預けているか×問 11-7「他の子にケガをさせないか」

	当てはまる	当てはまらない	総計
子どもを預けている	146	36	182
%	80.2	19.8	100.0
子どもを預けていない	360	53	413
%	87.2	12.8	100.0
総計	506	89	595
%	85.0	15.0	100.0

カイ二乗検定の p 値 0.028、 $p < 0.05$  (5%水準)、Cramer の  $V=0.089$

表 10 問 9 学童保育室に子どもを預けているか×問 11-8「他の子に迷惑をかけないか」

	当てはまる	当てはまらない	総計
子どもを預けている	134	48	182
%	73.6	26.4	100.0
子どもを預けていない	332	81	413
%	80.4	19.6	100.0
総計	466	129	595
%	78.3	21.7	100.0

カイ二乗検定の p 値 0.065、 $p < 0.10$  (10%水準)、Cramer の  $V=0.075$

「他の子に迷惑をかけないか」と回答した人は、学童保育室に子どもを「預けている人」で 73.6%、「預けていない人」で 80.4%であった。学童保育室に子どもを預けている人で「いいえ」は 26.4%、預けていない人は 19.6%で、学童保育室に子どもを預けている人の方が他の子に迷惑をかけないかという不安が少し少ないことがわかる。預けている、預けていないにかかわらず他の子に迷惑をかけないか、不安を感じる人が多いものの、預けていない人の方が「他の子に迷惑をかけないか」と回答する傾向にあった。カイ二乗検定の結果、10%水準で統計的な有意差がみられた (表 10)。

ここまでの分析から「子どもを預けていない人」の方が、学童保育室に対して不安が高いことが示唆される。その不安は、自分の子どもが、他の子どもとの間でトラブルを起こすかもしれないという点にあることが読み取れる。そこで、「子どもを預けていない人」に絞って分析をする。

#### 4-2. 回答者の年齢による分析

次に問 9 学童保育室に「預けていない」人の年齢と問 11 の選択肢「時間が合わない」「他の子にケガをさせないか」「他の子に迷惑をかけないか」でクロス表を作成し、カイ二乗検定をかけた結果、有意な関連がみられたのは「他の子にケガをさせないか」(表 11)であった。

表 11 預けていない人の年齢×問 11-7「他の子にケガをさせないか」

	該当しない	該当する	総計
20～30代	132	23	155
%	85.2	14.8	100.0
40代以上	224	20	244
%	91.8	8.2	100.0
総計	356	43	399
%	89.2	10.8	100.0

カイ二乗検定の p 値 0.037、 $p < 0.05$  (5%水準)、Cramer の  $V=0.104$

学童保育室に子どもを預けていない 20～30 代の人で「該当しない人」は 85.2%、40 代以上の人は 91.8%、それぞれ「該当する人」は 14.8%、8.2%と「他の子にケガをさせる不安はない」と回答した人の割合が多かった。カイ二乗検定の結果、5%水準で統計的な有意差がみられた (表 11)。

4-1.より、仮説 I 「学童保育室に子どもを預けている人 (預けていた人、預けたい人)の方が学童保育室に対する不安が少ない」に関しては、預けている人も預けていない人も不安はたかいものの、預けている人の方が不安は少ないという点は支持された。逆に言えば、この結果は、学童保育に子どもを「預けていない人」の不安の高さを物語っている。その点に着目し、「預けていない人」に焦点を当てたのが 4.2.の分析であった。

その結果、「子どもを預けていない人」に焦点をあて、親の年齢による違いを見てみると有意な関連があったのは「他の子にケガをさせないか」だけで、親の年齢が低い方が「不安」を感じる傾向にあったことがわかる。

多くの人不安に感じているのは、他の子に対することであった。また、学童保育室に対して一番不安を感じているのは、学童保育室に子どもを預けていない若い人であった。

学童保育利用児の母親にみられる学童保育観による学童保育の入会理由による分析では、家に大人がいない、母親が仕事を続けるため、放課後の事故の心配といわゆる託児所の意味合いの強い理由が上位を占めた (小杉・木村, 1992)。このような不安は、学童保育室に子どもを預けることで解決できるので、子どもを預けている人たちの方が不安は少ないと考えられる。

## 5. 仮説 II の検証

ここでは仮説 II 「学童保育室に子どもを預けている人の方が、学童保育室に預けるのが望ましいと考えている」を検証する。

問 9「学童保育室に子どもを預けているかどうか」と問 12「子どもを預ける場所について」の関連を示したものが表 12 から表 14 である。問 12 の選択肢「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を「望ましい」、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を

「望ましくない」と分けた。

表 12 問 9 学童保育室に子どもを預けているかどうか×問 12-1 学童保育室に預けるのが望ましい

	望ましい	望ましくない	総計
子どもを預けている	199	18	217
%	91.7	8.3	100.0
子どもを預けていない	310	110	420
%	73.8	26.2	100.0
総計	509	128	637
%	79.9	20.1	100.0

カイ二乗検定の p 値 0.000、 $p < 0.01$  (1%水準)、Cramer の  $V=0.211$

総計 637 人のうち「学童保育室に預けるのが望ましい」と回答した人は 79.9%であったのに対し、学童保育室に子どもを預けていて、子どもを「学童保育室に預けるのが望ましい」と回答した人は 91.7%と全体よりも多くなった。学童保育室に子どもを預けていない人で「学童保育室に預けるのが望ましい」と回答した人は 73.8%で全体よりも割合が少なくなった。「学童保育室に預けるのが望ましくない」と回答した人は、学童保育室に子どもを「預けている人」で 8.3%、「預けていない人」で 26.2%となった。カイ二乗検定の結果、1%水準で統計的な有意差がみられた (表 12)。

表 13 問 9 学童保育室に子どもを預けているかどうか×問 12-3 祖父母などの親類に預けるのが望ましい

	望ましい	望ましくない	総計
子どもを預けている	155	56	211
%	73.5	26.5	100.0
子どもを預けていない	346	74	420
%	82.4	17.6	100.0
総計	501	130	631
%	79.4	20.6	100.0

カイ二乗検定の p 値 0.008、 $p < 0.01$  (1%水準)、Cramer の  $V=0.104$

「祖父母などの親類に預けるのが望ましい」と回答した人は総計 631 人のうち 79.4%、学童保育室に子どもを「預けている人」では 73.5%、「預けていない人」では 82.4%となった。学童保育室に子どもを「預けていない人」のほうが、「祖父母などの親類に預けるのが望ましい」と回答した人が多かった。「祖父母などの親類に預けるのが望ましくない」と回答した人は学童保育室に子どもを「預けている人」で 26.5%、「預けていない人」で 17.6%となった。カイ二乗検定の結果、1%水準で統計的な有意差がみられた (表 13)。

表 14 問 9 学童保育室に子どもを預けているかどうか×問 12-4 自宅で面倒を見るのが望ましい

	望ましい	望ましくない	総計
子どもを預けている	172	37	209
%	82.3	17.7	100.0
子どもを預けていない	393	36	429
%	91.6	8.4	100.0
総計	565	73	638
%	88.6	11.4	100.0

カイ二乗検定の p 値 0.000、 $p < 0.01$  (1%水準)、Cramer の  $V=0.137$

「自宅で面倒を見るのが望ましい」と回答した人は、学童保育室に子どもを「預けている人」で 82.3%、「預けていない人」で 91.6%となった。学童保育室に子どもを「預けていない人」のほうが、「自宅で面倒を見るのが望ましい」と回答する人が多かった。「自宅で面倒を見るのが望ましくない」と回答した人は、学童保育室に子どもを「預けている人」で 17.7%、「預けていない人」で 8.4%となった。カイ二乗検定の結果、1%水準で統計的な有意差がみられた (表 14)。

学童保育室に子どもを「預けている人」の方が祖父母などの親類に預けたり、自宅で面倒を見るよりも「学童保育室に預けるのが望ましい」と回答した割合が高かったため、仮説Ⅱ「学童保育室に子どもを預けている人の方が、学童保育室に預けるのが望ましいと考えている」は支持されたと考えられる。また、表 13、14 から子どもを「預けていない人」の方が、子どもは家庭で面倒を見たり、親族で育てるべきだという価値観があることが読み取れる。

松木 (2013) によれば、1980 年代までは、子どもの養育は家庭で母親によって行われるという原則が存在していた。1990 年代以降は、「子育ては家庭と社会のパートナーシップ」という考え方への転換が果たされたという。しかし、松木は、現在の日本社会では、子育ての内実や責任を部分的にではあれ家族の外部へ移行することの必要性が盛んに語られたり現実化されたりするその一方で、政策レベルにおいても、そして、社会の成員であるわれわれの多くにとっても、子育ての責任をなお家族、とりわけ母親へと帰属する論理が効力は失ってはいないと指摘している。本節の分析から得られたこともまた、この子育ての家族、母親へと帰属する論理の強さを物語っていると考えられる。

## 6. まとめ

本章の目的は、学童保育室の必要性和不安な点を明らかにすることであった。そのため 2 節では仮説を提示し、3 節では基礎集計、4 節では不安の感じ方について、5 節では学童保育室を必要としている人について分析した。

本章の分析から得られた知見は2つある。第1に子どもを預けている人も預けていない人も、学童保育室を必要としていることだ。学童保育室に子どもを預けている人の中には、祖父母などの親類に預けたい人や、自宅で面倒を見たい人もいたが、就労のためにやむを得ず学童保育室に子どもを預けている人もいることがわかった。

もう1つは学童保育室に子どもを預けている、預けていないに関わらず不安を抱えている人が多いことである。学童保育室の設備や指導員、自分の子どもの不安よりも他の子に対する不安を感じている人が多いことが分かった。不安はあるものの、子どもを自宅に1人にさせるよりは、学童保育室で友達や指導員と過ごす方が安心で、子どもの寂しいという気持ちも軽減できるのであろう。

今後の課題としてあげられるものも2つある。1つは不安を少しでも解消するために、どのような対策を取っていくかを考えていくことである。もう1つは、戸田市以外の地域でも同様の結果が得られるか調査することである。今後も学童保育室を安心・安全な場所にするために、定期的に調査をすることが必要である。

#### 【参考文献】

伊部恭子, 2010, 「学童保育における子育て・家族支援の課題」, 『佛教大学社会福祉学部論集』6: 1-18.

小杉洋子・木村敬子, 1992, 「学童保育利用児の母親にみられる学童保育観」『聖徳大学研究紀要 短期大学部 (I)』25: 31-42.

松木洋人, 2013, 『子育て支援の社会学』, 新泉社.

匿名記事, 2014, 「学童保育、待機9900人に増加」『朝日新聞』(2014年11月8日).

## 第5章 学童保育室に対するニーズの在処

### 1. はじめに

本章では、子どもの居場所に対する「親」のニーズとして、学童保育室を取り上げる。近年、各地の行政施策として、待機児童の問題から派生した保育園の充実に加えて、小学生中学年以降の子どもたちの放課後の居場所づくりとして、「学童保育室」の対象年齢引き上げやサービスの改善などが着目されている。そのような背景を踏まえて、本章では戸田市における20代～60代の人々を対象とした調査結果の中で、「学童保育室」がどのように理解されているのかという点に目を向ける。

本調査の自由記述の中には、「子どもがいる人を対象とするべき」という声もあったが、あえて10～15歳の子どもがいない人を対象とした理由をここでも触れておこう。その理由の一つは、施策が動き出す時に「子ども」がいる人を対象としてニーズを把握するのは当然のことであるが、学童保育室が展開されるのはさまざまな年代の人が暮らす「まち」にあるためである。つまり、「子ども」を持たない人、対象年齢とは異なる「子ども」を持つ人なども、「学童保育室」を目にすることはある。そのような人たちがどう捉えているのかは、何か問題が発生した時に、一つの異議申し立ての形式を理解することにつながるのではないかと考えられるためである。

もう一つの理由は、対象年齢よりも上の世代を持つ親、対象年齢の子どもを持つ親、対象年齢以下の子どもを持つ親といった様々な世代の声を視野に入れることで、「過去」の子どもへのまなざし、「現在」の子どもへのまなざし、「未来」の子どもへのまなざしが理解できるのではないかと考えられるためである。

### 2. 本章で扱うデータの基礎

本調査の概要を繰り返しておく、調査票配布数は、戸田市内の20代～60代を対象とした1500通であり、回収率は、675通（45%）である。その内訳は、以下の表1、2を参照されたい。

表1 年代

	度数	パーセント
20代	89	13.2
30代	172	25.5
40代	174	25.8
50代	104	15.4
60代	116	17.2
無回答	20	3.0
合計	675	100.0

表2 性別

	度数	パーセント
男性	287	42.5
女性	372	55.1
無回答	16	2.4
合計	675	100.0

回収された 675 通のなかで、子どもの有無について、まとめたのが表 3 である。表 3 では、複数の子どもを持つ人について、下の子を基準とする表記とした。その中で、「子どもがいない」人は、225 人 (33.3%)、9 歳以下が 159 人 (23.6%)、10-15 歳が 74 人 (11.0%)、16 歳以上が 209 人 (31.0%) となっている。ただし、表 3 からは、親の年齢と子どもの年齢がどのような関係になっているのかは理解できない。そこで、親の年齢と子どもの年齢の関連を理解するために示したのが表 4 である。表 4 をみると、20 代では、「子どもがいない」層が最も多く、30 代では、「9 歳以下」が最も多く、40 代以上では「16 歳以上」が最も多くなっている。そこで、以下では、20 代・30 代を一つにまとめ、子どもの有無・年齢と掛け合わせたグループを作り、分析を行うこととする。

表 3 子どもの年齢（下の子基準）

	度数	パーセント
いない	225	33.3
9歳以下	159	23.6
10-15歳以下	74	11.0
16歳以上	209	31.0
無回答	8	1.2
合計	675	100.0

表 4 親の年齢×子どもの年齢（下の子基準）

	子どもの有無(下の子基準)				合計
	いない	9歳以下	10-15歳以下	16歳以上	
20代	73	16	0	0	89
%	82.0%	18.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30代	59	99	12	0	170
%	34.7%	58.2%	7.1%	0.0%	100.0%
40代以上	85	40	61	205	391
%	21.7%	10.2%	15.6%	52.4%	100.0%
合計	217	155	73	205	650
%	33.4%	23.8%	11.2%	31.5%	100.0%

## 2-1. 子どもの年齢区分と戸田市の政策

子どもの年齢区分 戸田市では2014年度から学童保育室の預かり年齢を小学校4年生までに引き上げている（10歳まで）。そのため、本調査の年齢区分は、学童保育室の対象年齢とは完全には合致していない。だが逆に、そのことで、拡大された対象年齢である10歳の子どもたちを持つ、親にとっての学童保育室の位置づけが理解できるとも考えられる。

先に示したように、20代では、10歳以上の子どもをもつ人はいないが、その他の年代

では、子どもの年齢（下の子）は多様である。つまり、親の年齢だけに注目して分析すると、子どもの年齢の多様性を捉えきれなくなるという問題があり、逆に子どもの年齢だけに注目すると、親の年齢の多様性を捉えきれなくなる問題がある。そこで、本調査の分析にあたっては、親の年齢と子どもの年齢の2つの軸を使い、①20代・30代で子どもがいない人（132人）、②20代・30代で下の子が9歳以下の人（115人）、③20代・30代で下の子が10～15歳の人（12人）、④40代以上で子どもがいない人（85人）、⑤40代以上で下の子が9歳以下の人（40人）、⑥40代以上で下の子が10～15歳の人（61人）、⑦40代以上で下の子が16歳以上の人（205人）のグループに分けて、分析を行う（20代・30代で下の子が16歳以上の人はいない）。

その狙いは、①親の年代が同じであっても回答に分布が生じるかどうかを確認することで、**子どもの年代による意見の差異**、②子どもの年代が同じであっても回答に分布が生じるかどうかを確認することで、**親の年代による意見の差異**を理解するところにある。

表5 親の年代×子どもの年齢（下の子基準）の分布

	度数	パーセント
20代・30代で子どもがいない	132	19.6
20代・30代で9歳以下	115	17.0
20代・30代で10-15歳	12	1.8
40代以上で子どもがいない	85	12.6
40代以上で9歳以下	40	5.9
40代以上で10-15歳	61	9.0
40代以上で16歳以上	205	30.4
無回答	25	3.7
合計	675	100.0

### 3. 学童保育室をめぐるさまざまな考え方

以下、上記の7グループについて、各質問の得点の平均値をもとに、その値を偏差値に置き換えたものを用いて、結果の概要を提示する。各グループの偏差値を算出し、偏差値50から、+2ポイント以上の差があるものは斜体（青字）、-2ポイント以上差があるものには下線（赤字）を付した。特徴的な項目についてのみ述べることとする。

#### 3-1. 学童保育に子どもを預けている（預けた、預けたい）理由

問9 あなたはお子さんを学童保育に預けていますか（預けていましたか）。または預けたいと思いますか。

問10 問9で「1. はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるもの**すべてに**○をつけてください。（問9の結果、回答者数は215となっている） \*○がつくと1点



表7 学童保育室へ子どもを預ける（預けたい、預けた）理由

	カギをもたせるのが不安	きょうだいがいない	子どもだけで家にいるのは危ない	子どもだけで家にいるのはかわいそう
20代・30代で子どもがいない	48.6	46.5	51.4	48.8
20代・30代で9歳以下	50.7	53.8	49.6	52.6
20代・30代で10-15歳	53.8	50.6	50.6	49.4
40代以上で子どもがいない	48.6	46.5	50.0	49.0
40代以上で9歳以下	51.0	50.6	48.4	50.4
40代以上で10-15歳	50.2	51.3	47.1	51.0
40代以上で16歳以上	50.5	50.6	50.4	49.0

	勉強や宿題をしてほしい	子どもが友達と遊びたがっている	親や親戚に預かってもらえない	就労のため
20代・30代で子どもがいない	48.5	49.0	48.3	46.1
20代・30代で9歳以下	49.3	50.3	52.0	52.6
20代・30代で10-15歳	51.2	48.7	54.2	54.7
40代以上で子どもがいない	52.0	47.4	47.8	49.8
40代以上で9歳以下	51.5	53.1	53.4	51.1
40代以上で10-15歳	52.7	51.3	46.8	53.5
40代以上で16歳以上	49.5	50.0	49.3	49.1

学童保育に過去、子どもを預けていた人、現在預けている人、将来預けたいと考えている人は、問9の結果、215人となった。この215人を対象とし、学童保育に子どもを預ける理由を尋ねた結果が、表7である。

ここから理解できることをまとめよう。「カギをもたせるのが不安」であるため子どもを学童保育室に預けているという回答は、20代・30代では子どもが「10～15歳」の児童から生徒への転換期であることが理解できる。この結果は、親の「就労」との関連を示唆している。次いで、「きょうだいがいない」については、親の年代を問わず、「子どもがいない」場合に回答する割合は低い。「子どもだけで家にいるのは危ない」という理由は、親の年代が40代以上で、子どもが「10～15歳」の時に割合が低下する。ここからは、児童から生徒への転換期において、「子ども」への信頼が高まることが伺える。また、「子どもだけで家にいるのはかわいそう」という理由は、若年層で子どもの年齢が低い時に回答する傾向にあることが読み取れる。

「勉強や宿題をしてほしい」という回答については、どちらかと言えば40代以上の方がその要望が強いことが伺える。「子どもが友達と遊びたがっている」という回答については、40代以上で子どもがいる場合にその傾向が高いことが理解できる。また、子どもの年齢が低く、かつ親の年齢が低い方が、「親や親戚に預かってもらえない」ため、学童保育に預けると回答する傾向にある。最後に、親の年齢が低い方が「就労のため」に学童保育室を活用する傾向にあることが読み取れる。

ここからは、親の世代によって学童保育室を利用する目的の差異が読み取れると同時に、若年層において、旧来型の子育て規範（子どもは家で育てるべき、親や親族で育てるべき）

が薄れていることを示唆している。親の年齢や子どもの年齢によって目的は変わるものの、子育て機能を外部化する機関として学童保育室は機能していると言えるだろう。

学童保育室が、親の就労を支援するという意味で子育て支援であると捉えるのであれば、本調査の結果から、そのニーズへの貢献は果たしていると言えるだろう。

### 3-2. 学童保育に対する不安

問 11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

表 6 学童保育室への不安

	家から遠い	時間が合わない	指導員の対応	乱暴な子の影響を受けないか
20代・30代で子どもがいない	52.2	51.1	51.2	49.1
20代・30代で9歳以下	50.7	49.1	49.4	51.5
20代・30代で10-15歳	47.0	50.9	48.2	46.8
40代以上で子どもがいない	48.5	51.7	48.8	48.5
40代以上で9歳以下	50.7	47.4	48.2	51.9
40代以上で10-15歳	50.4	49.1	51.2	50.4
40代以上で16歳以上	48.5	50.0	50.2	49.8

	ケガをしないか	いじめに合わないか	他の子にケガをさせないか	他の子に迷惑をかけないか
20代・30代で子どもがいない	49.0	51.1	49.4	49.3
20代・30代で9歳以下	51.9	51.1	52.8	52.2
20代・30代で10-15歳	49.0	49.8	45.8	46.8
40代以上で子どもがいない	48.7	49.5	50.0	50.0
40代以上で9歳以下	52.2	48.9	48.6	48.5
40代以上で10-15歳	49.4	49.3	49.7	48.3
40代以上で16歳以上	49.7	49.3	49.7	50.7

表 6 は、学童保育室に対する不安を年代・子どもの有無で分類した 8 つのグループによる結果を偏差値化して表したものである。この結果で、注目すべき点は、「他の子にケガをさせないか」「他の子に迷惑をかけないか」という回答である。それは、親の年齢が 20 代・30 代において、この 2 つの理由の回答が、子どもの年齢によって大きく異なるためである。

具体的に言えば、子どもが 9 歳以下の場合、「他の子にケガをさせないか」「他の子に迷惑をかけないか」と回答する傾向があり、逆に子どもが 10～15 歳の場合、「他の子にケガをさせないか」「他の子に迷惑をかけないか」と回答する傾向が低くなる、という点である。

この結果が、子育てそれ自体にたいする不安や学童保育室に対する慣れに起因するのか、

「子ども」に対する心配、周りの保護者との関わりの薄さに起因するのかは不明であるが、20代・30代においては、子どもの年齢が低いほどに、他者に対する迷惑に敏感となっていることは理解できる。この点は、20代・30代の人々が結婚を機に戸田市に転入して来たため、子どもの同年代の知人が少ないことと関連しているのかもしれない。であるならば、学童保育室がどういう空間なのか、どのように問題を対処することができるのか、といった点をより明確にしていく必要があると考えられる。

### 3-3. 子育てに関する「規範」

問 12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの 1つに ○をつけてください。

\* 偏差値が高いほど「望ましい」という回答にするため、「そう思う」を4点、…「そう思わない」を1点とした。

表 8 子育てに関する「規範」

	学童保育室が望ましい	知人・友人が望ましい	祖父母などの親類が望ましい	自宅で面倒を見るのが望ましい
20代・30代で子どもがいない	53.1	50.3	47.6	48.9
20代・30代で9歳以下	49.8	49.9	48.5	48.8
20代・30代で10-15歳	47.0	49.2	56.3	51.3
40代以上で子どもがいない	51.5	49.7	48.9	50.3
40代以上で9歳以下	46.0	48.3	52.8	54.0
40代以上で10-15歳	48.6	48.8	49.3	49.7
40代以上で16歳以上	48.7	50.7	52.1	50.5

表 8 からは、4 章でも示唆したような、伝統的な子育てに関する「規範」の強さを理解することができる。すなわち、「子育ては、家庭で行うべき」という規範である。そのように見て行くと、親の年代が 40 代の方が、よりその規範の影響を受けていると考えられる（とりわけ、本調査の結果からは、40 代以上で子どもが 9 歳以下の層）。

ところが、興味深いのは、20 代・30 代で子どもがいない層である。この結果から見えて来るのは、親の世代によって、子育て規範の影響が異なり、親の年代が下がるほどに、子どもを家庭ではなく、学童保育室に預けたいと考える傾向にある点である。

そのように見て行くと、子どもが 10～15 歳の場合には、20 代・30 代で、子どもが 9 歳以下の場合には、40 代以上で、ポイントが低い点は奇妙である。この点をどのように解釈するかが重要である。つまり、この結果を、学童保育室が不要であると捉えるのではなく、認知度の低さ、とりわけ対象年齢の変更など（子どもが 10～15 歳）、学童保育室が安全であること（家庭に代替する機能を有していること）の PR の不足として捉えて行くこ

とが、肝要であろう。それは、20代・30代で子どもがいない場合には、高いニーズを有しているのであるためである。

結果を要約すれば、伝統的な子育て規範は、20代・30代では子どもの年齢が上がるほど強まり、40代以上になると、子どもの年齢が低い場合に強まる。他方で、40代で子どもの年齢が16歳以上の場合は、過去の経験と照らして旧来型の子育て規範が強い傾向にある。「子どもがいない」という層にも多様な立場があることを自覚しつつも、その層を「将来世代」と捉えるならば、学童保育室の充実は、今後の戸田市にとって重要な意味を持っていることが示唆される。

#### 4. まとめ

本章では、親の年代と子どもの年齢を重ねて、多様なグループによる価値観の差異を考察することを目的とした。詳細はここでは述べないが、学童保育室をどのように捉えるのかは、就労しているかどうか、あるいは伝統的な子育て規範との関係によって大きく異なると考えられる。学童保育室の充実は、共働き世帯への支援として機能するとしても、すべての人が共働き世帯ではない。それゆえに、子どもを預けて就労したいという意欲を持った人にとっては、「良い」施策だとしても、そこを強調しすぎることは、それとは異なる価値観を抱く層を排除する構図になってしまう可能性もある。であるならば、「学童保育室」の充実を図ることと同時に、家庭で子育てすることを希望する人をどのように支援して行くべきかを考えていく必要もあるだろう。それは、決して、学童保育室に対するニーズが低いとか不要であるということの意味するわけではない。そうではなく、学童保育室ではなく、家庭で子どもを育てたいと考える層の存在を把握し、施策を議論して行くことが今後の大きな課題となるだろう。



## 第6章 地区別にみた子どもの居場所としての学童保育室

### 1. はじめに

本章では、第4章、第5章に引き続き、戸田市における学童保育室に対するニーズに着目する。前章までと異なるのは、居住地区を起点として学童保育室に対する考え方を捉えようとする点である。それは、同じ戸市内であっても、JR 埼京線の付近とそうではない地区、あるいは学校以外に子どもの遊び場がある地区とそうではない地区など多様な姿があるはずだからである。以下では、クロス表を用いた分析を行うことにするが、このような基礎的な調査結果から、今後の戸田市の学童保育室をどのように充実して行くべきかの一端が明らかにできればと考えている。

### 2. 居住地区別にみる学童保育室の利用

表1 居住地区と学童保育室利用のクロス表

	はい	いいえ	合計
下戸田地区	78	129	207
%	37.7%	62.3%	100.0%
上戸田地区	55	109	164
%	33.5%	66.5%	100.0%
新曽地区	40	92	132
%	30.3%	69.7%	100.0%
笹目地区	27	67	94
%	28.7%	71.3%	100.0%
美女木地区	13	38	51
%	25.5%	74.5%	100.0%
合計	213	435	648
%	32.9%	67.1%	100.0%

p=0.332

本節では、以降の考察に向けた予備作業として、居住地区別に学童保育室の利用状況を見ていくことにする。表1は、居住地区と学童保育室の利用状況のクロス表である。居住地区と学童保育室との間に有意な関連はみられないが (p=0.332)、地区によって学童保育室の利用状況に差異があることは読み取れる。

結果を見て行くと、全体では32.9%が学童保育室を過去に利用したことがある、現在利用している、将来利用したいと回答していることがわかる。前章までで示したように子どもを持っている人は、回答者675人のうち、無回答票を除き、451人である。子どもがい

る人のうちで、42.2%が学童保育室に対するニーズを有している。

さて、地区ごとに結果をみていくと、全体の値を上回っているのは、下戸田地区(37.7%)、上戸田地区(33.5%)の2つである。一方で、全体の値を下回っているのは、新曽地区(30.3%)、笹目地区(28.7%)、美女木地区(25.5%)の3つであった。地区による利用状況の差があることの背景はここからは読み取ることにはできないが、それが学童保育室の数や質の問題なのか、それとも地区によってライフスタイルや学童保育質に頼る必要のない施設があるのか、といった点は、これからの学童保育室の充実を考える上で重要な点となるだろう。

### 3. 居住地区別にみる学童保育室で充実すべきこと

表2 居住地区と「学童保育室で充実すべきこと」のクロス表

	開室時間の延長	日曜・祝日の開室	学童保育室の数	民間の学童保育室の数	指導員の質	活動内容	おやつ提供	その他	合計
下戸田地区	48	29	51	7	41	8	0	3	187
%	25.7%	15.5%	27.3%	3.7%	21.9%	4.3%	0.0%	1.6%	100.0%
上戸田地区	44	12	38	8	34	8	0	2	146
%	30.1%	8.2%	26.0%	5.5%	23.3%	5.5%	0.0%	1.4%	100.0%
新曽地区	27	16	34	6	19	10	2	4	118
%	22.9%	13.6%	28.8%	5.1%	16.1%	8.5%	1.7%	3.4%	100.0%
笹目地区	25	22	13	4	17	5	1	1	88
%	28.4%	25.0%	14.8%	4.5%	19.3%	5.7%	1.1%	1.1%	100.0%
美女木地区	10	4	7	1	13	8	0	2	45
%	22.2%	8.9%	15.6%	2.2%	28.9%	17.8%	0.0%	4.4%	100.0%
合計	154	83	143	26	124	39	3	12	584
%	26.4%	14.2%	24.5%	4.5%	21.2%	6.7%	0.5%	2.1%	100.0%

表2は、「学童保育室で充実すべきこと」を居住地区ごとにみたクロス表である。ここでは、全体の回答率が10%を越える「開室時間の延長」「日曜・祝日の開室」「学童保育室の数」「指導員の質」に限定して結果を見ていくことにする。

まずは、学童保育室の量的側面についてである。充実すべきこととして「学童保育室の数」をあげた割合は全体で、24.5%であり、それを上回るのは、下戸田地区(27.3%)、上戸田地区(26.3%)、新曽地区(28.8%)であり、これらの地区では、学童保育室の量が必要とされていると考えられる。

ついで、学童保育室の質的側面についてである。「開室時間の延長」については全体が26.4%であるのに対して、それを上回るのは、上戸田地区(30.1%)、笹目地区(28.4%)であった。次に「日曜・祝日の開室」は、全体で14.2%であるが、それを上回るのは、下戸田地区(15.5%)、笹目地区(25.0%)である。最後に「指導員の質」は全体で21.2%であるのに対して、それを上回るのは、下戸田地区(21.9%)、上戸田地区(23.3%)、美女木地区(28.9%)であった。

以上より、学童保育室の量と質いずれも充実させることを望んでいる傾向にあるのは、上戸田地区、下戸田地区、質を求めているのは、笹目地区、美女木地区であることが推察

される。今後の課題としては、笹目地区、美女木地区で学童保育室の数よりも質が重要視されていることの背景が、どこにあるのかを理解して行くことにあると言えるだろう。

#### 4. 居住地区別にみる学童保育室を利用する理由

本節では、学童保育室を利用すると回答した人を対象に、学童保育室を利用する理由を居住地区事に見て行く。結果を先に示しておけば、居住地区と学童保育室を利用する理由のクロス表でカイ二乗検定の結果、有意な関連を示したのは、「宿題や勉強をしてほしい」「就労のため」の2つのみであった。以下、それぞれを見て行こう。

表3 居住地区と学童保育室利用（カギを持たせるのが不安）のクロス表

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	62	16	78
%	79.5%	20.5%	100.0%
上戸田地区	40	15	55
%	72.7%	27.3%	100.0%
新曽地区	33	7	40
%	82.5%	17.5%	100.0%
笹目地区	21	7	28
%	75.0%	25.0%	100.0%
美女木地区	10	3	13
%	76.9%	23.1%	100.0%
合計	166	48	214
%	77.6%	22.4%	100.0%

$p=0.813$

表3は、学童保育室を利用する理由として「カギを持たせるのが不安」と回答した人と居住地区のクロス表である。「当てはまる」という回答は全体で、22.4%であり、それを上回るのは、上戸田地区（27.3%）、笹目地区（25.0%）の2つであった。地区ごとにみると「上戸田地区」と「新曽地区」の間には、10ポイント近くの差が見られた。

表4は、学童保育室を利用する理由として「きょうだいがいない」と回答した人と居住地区のクロス表である。「当てはまる」という回答は全体で、11.2%となっており、これを理由にする傾向はあまりないことが理解できる。だが、地区ごとにみると、最も高い回答率となっている新曽地区が15.0%となっているのに対して、美女木地区では0.0%と大きな差がある点には注目したい。



表 4 居住地区と学童保育室利用（きょうだいがいない）のクロス表

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	71	7	78
%	91.0%	9.0%	100.0%
上戸田地区	47	8	55
%	85.5%	14.5%	100.0%
新曽地区	34	6	40
%	85.0%	15.0%	100.0%
笹目地区	25	3	28
%	89.3%	10.7%	100.0%
美女木地区	13	0	13
%	100.0%	0.0%	100.0%
合計	190	24	214
%	88.8%	11.2%	100.0%

p=0.520

表 5 居住地区と学童保育利用（子どもだけで家にいるのは危ない）

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	36	42	78
%	46.2%	53.8%	100.0%
上戸田地区	20	35	55
%	36.4%	63.6%	100.0%
新曽地区	14	26	40
%	35.0%	65.0%	100.0%
笹目地区	9	19	28
%	32.1%	67.9%	100.0%
美女木地区	7	6	13
%	53.8%	46.2%	100.0%
合計	86	128	214
%	40.2%	59.8%	100.0%

p=0.448

表 5 は、学童保育室を利用する理由として「子どもだけで家にいるのは危ない」と回答した人と居住地区のクロス表である。全体で「当てはまる」と回答した人は 59.8%と 8つの理由の中で、2 番目に高い値を示している。地区別にみると、いずれも他の理由と比べて回答率は高い傾向にあるが、全体の結果を上回っているのは、上戸田地区（63.6%）、新曽地区（65.0%）、笹目地区（67.9%）の 3つであった。一方で、美女木地区は 46.2%と 5つの地区の中で最も低い割合にある。美女木地区がこのような結果を示す背景が、きょうだいがいることなのか、そもそも家に子どもが一人になることが少ないのか、といった家

庭環境に起因しているのか、それとも家庭外の環境要因に起因しているのかは、今後理解して行く必要があるだろう。

表 6 居住地区と学童保育室利用（子どもだけで家にいるのはかわいそう）のクロス表

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	45	33	78
%	57.7%	42.3%	100.0%
上戸田地区	34	21	55
%	61.8%	38.2%	100.0%
新曽地区	25	15	40
%	62.5%	37.5%	100.0%
笹目地区	14	14	28
%	50.0%	50.0%	100.0%
美女木地区	8	5	13
%	61.5%	38.5%	100.0%
合計	126	88	214
%	58.9%	41.1%	100.0%

p=0.843

表 6 は、学童保育室を利用する理由として「子どもだけで家にいるのはかわいそう」と回答した人と居住地区とのクロス表である。全体では、41.1%の人が「当てはまる」と回答しており、8つの理由の中で、3番目に高い結果となっている。地区ごとにみていくと、全体を上回るのは、下戸田地区（42.3%）、笹目地区（50.0%）の2つの地区であった。美女木地区は、「子どもだけで家にいるのはかわいそう」という回答も全体よりも低い傾向にあり、他の地区とはやや異なる特徴を有していることが浮かび上がってくる。

表 7 は、学童保育室を利用する理由として「宿題や勉強をしてほしい」と回答した人と居住地区とのクロス表である。全体で「当てはまる」と回答した人の割合は、19.6%であるが、地区ごとにみると、カイ二乗検定の結果、5%水準で有意な結果となっている。

この結果をみると、「宿題や勉強をしてほしい」というニーズが高いのは「下戸田地区」「新曽地区」「笹目地区」の3つであり、地区別に学童保育室のサービス内容に応じて行くのであれば、きわめて重要な結果を示していると考えられる。

表 7 居住地区と学童保育室利用（宿題や勉強をしてほしい）のクロス表

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	59	19	78
%	75.6%	24.4%	100.0%
上戸田地区	51	4	55
%	92.7%	7.3%	100.0%
新曽地区	31	9	40
%	77.5%	22.5%	100.0%
笹目地区	19	9	28
%	67.9%	32.1%	100.0%
美女木地区	12	1	13
%	92.3%	7.7%	100.0%
合計	172	42	214
%	80.4%	19.6%	100.0%

p=0.032

表 8 居住地区と学童保育室利用（子どもが友だちと遊びたがっている）のクロス表

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	63	15	78
%	80.8%	19.2%	100.0%
上戸田地区	47	8	55
%	85.5%	14.5%	100.0%
新曽地区	34	6	40
%	85.0%	15.0%	100.0%
笹目地区	24	4	28
%	85.7%	14.3%	100.0%
美女木地区	10	3	13
%	76.9%	23.1%	100.0%
合計	178	36	214
%	83.2%	16.8%	100.0%

p=0.892

表 8 は、学童保育室を利用する理由として「子どもが友だちと遊びたがっている」と回答した人と居住地区とのクロス表である。全体としては 16.8%となっており、回答する割合は高くないものの、この結果においては、美女木地区が 23.1%となっている点が特徴的である。美女木地区では、家庭環境よりも、子どもの友人関係とのつながりで学童保育室を利用する傾向にあると考えることもできる。

表 9 居住地区と学童保育室利用（親や親戚に預かってもらえない）のクロス表

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	67	11	78
%	85.9%	14.1%	100.0%
上戸田地区	38	17	55
%	69.1%	30.9%	100.0%
新曽地区	33	7	40
%	82.5%	17.5%	100.0%
笹目地区	20	8	28
%	71.4%	28.6%	100.0%
美女木地区	11	2	13
%	84.6%	15.4%	100.0%
合計	169	45	214
%	79.0%	21.0%	100.0%

p=0.136

表 9 は、学童保育室を利用する理由として「親や親戚に預かってもらえない」と回答した人と居住地区とのクロス表である。全体では 21.0%であり、それを上回るのは上戸田地区（30.9%）、笹目地区（28.6%）の 2 つの地区である。この結果もまた、5 章で指摘した子育て規範の影響力と関連づけて考えると、子どもの世話を親族へ頼むという傾向が全体としては低い傾向にあると考えられる。その中でも、地区によって差異が生じているのは、居住形態によるのか、価値観によるのか、といった点をあらためて考えていくことの重要性を示唆しているだろう。

表 10 居住地区と学童保育室利用（就労のため）のクロス表

	当てはまらない	当てはまる	合計
下戸田地区	19	59	78
%	24.4%	75.6%	100.0%
上戸田地区	21	34	55
%	38.2%	61.8%	100.0%
新曽地区	11	29	40
%	27.5%	72.5%	100.0%
笹目地区	12	16	28
%	42.9%	57.1%	100.0%
美女木地区	1	12	13
%	7.7%	92.3%	100.0%
合計	64	150	214
%	29.9%	70.1%	100.0%

p=0.079

表 10 は、居住地区と学童保育室を利用する理由として「就労のため」と答えた人のクロス表である。全体的な結果は、70.1%と 8 つの理由の中で最も高い割合を示している。ここから、学童保育室は、基本的には「就労に出る」親世代に高いニーズを持っていることが理解できる。地区別にみると、全体を上回るのは、下戸田地区 (75.6%)、新曽地区 (72.5%)、美女木地区 (92.3%) の 3 つの地区であった。美女木地区についての回答結果は、回答数の関係上、精査が必要であるが、他の理由よりも「就労」が大きなニーズとなっていると考えることができる。

## 5. まとめ

本節では、居住地区ごとに学童保育室に対するニーズを理解してきた。その結果、明らかになるのは、同じ戸田市内であっても、学童保育室に求めるニーズが地区によって異なるという当たり前の事実である。行政サービスとして、地区によってサービスの質を変えて行くことは難しいかもしれないが、学童保育室の効果を向上させて行くためには、地区のニーズに即したサービス内容の充実が求められていると考えることもできるだろう。また、地区による差異と親の世代や子どもの年齢を掛け合わせた、より精緻な分析結果を行って行くことも今後の課題であろう。

これらの点を総合的に把握して行くために、多様な立場、考え方をを持った人の声に耳を傾け、議論を重ね、戸田市の実情に即した学童保育室を充実して行くことが今後の課題であると言える。

## 第7章 子どもの外遊びに対する不安の一考察 ：公園を対象として

### 1. 問題意識

近年、技術の進歩や地域の開発がどんどん進み、テレビゲーム、携帯ゲームの発展や、公園のあり方などが問題視され、子どもの遊び場や居場所を取り巻く環境は時代とともに大きく変化をしていると言われる（高久、2014）。

子どもたちが、外で遊ばず、家でゲームばかりしている、外で遊んでいるかと思えば公園で携帯ゲーム機を持ち寄って遊んでいるという声をよく聞く。確かに、自分が見た限りでもそういった子どもたちも居た。しかし、公園では危険だからボールで遊んではいけない、子どもの声がうるさいなどと言われる現実もある<sup>1</sup>。では、一体、外で遊べと言われた子どもたちは公園でなにをして過ごしたら良いのだろうか。

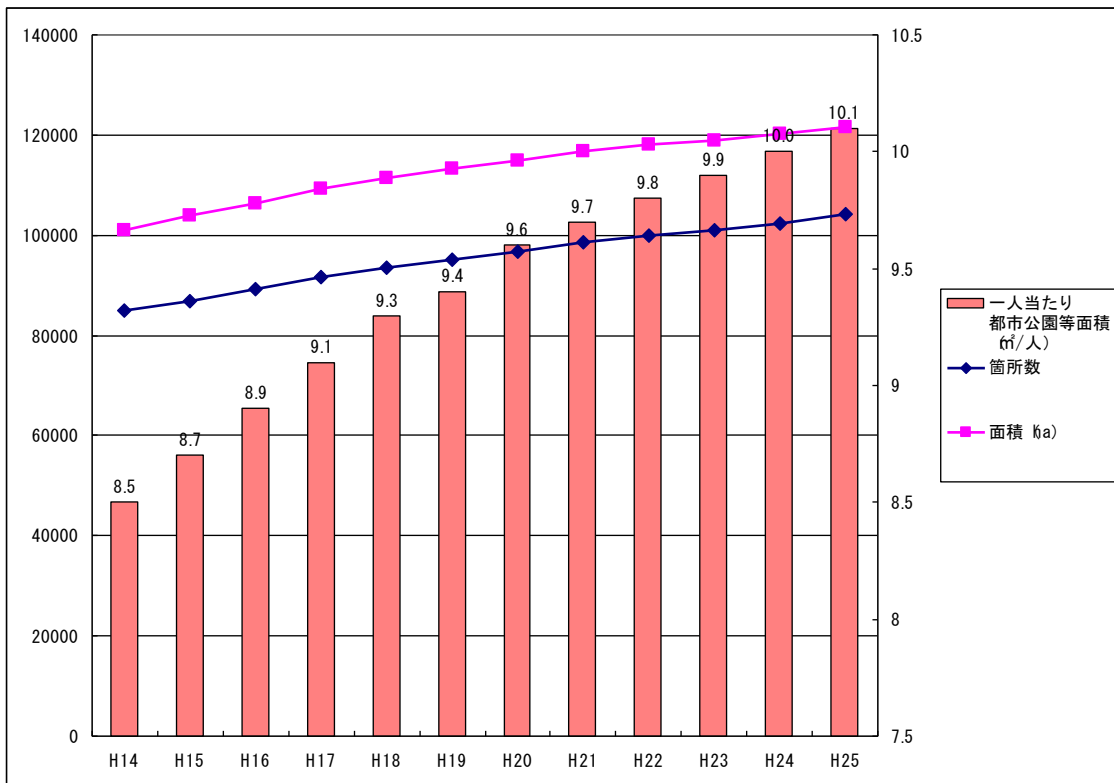
ところで、子どもたちが遊ぶ場所である公園自体が減っていると指摘されることも多々ある。だが、図1に示したように、国土交通省の統計データによると「平成25年度末の全国の都市公園等の整備量（ストック）は、平成24年度末と比較し、面積は約120,217haから約121,473haと約1,256ha増加、箇所数は102,393箇所から104,499箇所と1,706箇所増加、一人当たり都市公園等面積は、約10.0 m<sup>2</sup>/人から約10.1 m<sup>2</sup>/人に上昇」（平成25年度末都市公園等整備及び緑地保全・緑化の取組の現況（速報値）について）とあり、一人あたりの公園の面積は増加しているにもかかわらず、実際にそう感じることはあまり無いように思える。

この要因は、子どもの遊びの変化もさることながら、子どもを遊ばせる親の心理的要因も関係しているのではないだろうか。すなわち、子どもを外で遊ばせることへの不安である。では、不審者や事件が多い今、子どもを持つ親は公園で遊ばせることにどんな不安を感じているのだろうか。

---

<sup>1</sup> 「保育園の子どもがうるさい」と近所に住む男性が提訴 神戸、  
([http://www.huffingtonpost.jp/2014/09/06/nursery-school\\_n\\_5776160.html](http://www.huffingtonpost.jp/2014/09/06/nursery-school_n_5776160.html) 最終アクセス日 2015/02/14)

図1 都市公園等の現況及び推移



## 2. 分析の狙いと仮説

公園は子どもたちにとって大切な居場所であり、親にとっても子どもたちを遊ばせる場所として必要不可欠な場所であるが、自由な場所であるゆえに一方で不安なこともあるだろう。そこで、子どもの年齢や、親の年齢によって、公園を利用する際の意識に違いがあると考え、それを明らかにするために次の仮説を考えた。

仮説Ⅰ 10歳から15歳の子どもを持つ親は、公園は自由に遊べるほうが良いと思うはずである。

仮説Ⅱ 9歳以下の子どもを持つ親は(子どもの年齢が低いほうが)、怪我をしないために、ある程度制限を設けたほうが良いと思うはずである。

仮説Ⅲ 子育ても終わり、仕事も退職して、昼間家にいるような高齢者は(親の年齢が高いほうが)、子どもの騒ぐ声などをうるさいと感じている割合が多いはずである。

## 3. 使用する変数と基礎集計

### 3-1. 独立変数の基礎集計

問 18 の「年齢」を、子どもを持つ 20～30 代、40～50 代、60 代以上に分けた。その結果、子どもを持つ 20～30 代の親の数が 120 人で 32%、40～50 代の親が 160 人で 43%、60 代以上の親が 95 人で 25%となった。

表 1 親の年齢

親の年齢層	人数	%
20～30代	120	32%
40～50代	160	43%
60代以上	95	25%
総計	375	100%

本章では、問 22 の「子どもの年齢」をそれぞれの年齢区分のみの子どもがいる人に限定する。それは、表 2 で示したように、子どもがいる人全体で、子どもの年齢区分を見ると、二種以上の年齢区分にまたがる人は少なく、子どもの数は平均して 1.5 人程度で、各年齢区分でも 2 人は超えなかったためである。

表 2 子どもの数の平均

全体の子どもの数の平均	1.573614
9歳以下の子どもの数の平均	1.36478
10～15歳の子どもの数の平均	1.219298
16歳以上の子どもの数の平均	1.868

そこで、それぞれの年齢区分のみに子どもがいる人に限定をかけて、その分布を見てみると、表 3 に示すように、9 歳以下の子どものみを持つ親の数は 113 人で 29%、10～15 歳の子どものみを持つ親の数は 70 人で 18%、16 歳以上の子どものみを持つ親の数は 201 人で 52%となった。

表 3 子どもの年齢

子どもの年齢区分	人数	%
9歳以下の子どものみ	113	29%
10～15歳の子どものみ	70	18%
16歳以上の子どものみ	201	52%
総計	384	100%

### 3-2. 従属変数の基礎集計

問 5 の「公園の利用などについてどう思うか」という項目を従属変数とした。

その回答分布を示したのが表 4 である。その結果、「公園は自由に遊べたほうがいい」



という設問に対しては、「そう思う」と答えた人が57%となった。「けがをすると危ないので、ある程度の利用制限を設けるべき」という設問で一番多かった回答は、「どちらかと言えばそう思う」で42%となった。その次に多いものは「どちらかといえばそう思わない」で、31%だった。「こどもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべき」という質問で一番多かった回答は「どちらかと言えばそう思わない」で、40%だった。その次に多いものは「そう思わない」で、37%だった。「子どもだけで遊ばないほうが良い」という設問に対して一番多かった回答は、「どちらかと言えばそう思う」で、35%となり、その次に多いものは、「どちらかと言えばそう思わない」で、30%となった。

以下、ここまでの基礎集計を踏まえて、前述した仮説に添えていく。

表4 公園の利用などについてどう思うか

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	総計
公園は自由に遊ぶことが できたほうがよい %	372 57%	250 38%	27 4%	8 1%	657 100%
けがをすると危ないので、 ある程度利用制限を設けるべき %	72 11%	275 42%	200 31%	107 16%	654 100%
子どもの声がうるさいので、 ある程度利用制限を設けるべき %	21 3%	129 20%	262 40%	240 37%	652 100%
子どもだけで遊ばないほうが良い %	91 14%	229 35%	197 30%	140 21%	657 100%

#### 4-1. 仮説の検証（子どもの年齢と、公園の利用などについて）

ここでは、「子どもの年齢」と「公園の利用などについてどう思うか」の2つをクロス表で分析し、仮説I「10歳から15歳の子どもを持つ親は、公園は自由に遊べるほうが良いと思うはずである。」と仮説II「9歳以下の子どもを持つ親は（子どもの年齢が低いほうが）、怪我をしないために、ある程度制限を設けたほうが良いと思うはずである。」を検証する。

表5は、「子どもの年齢」と「公園は自由に遊べたほうが良いのか」のクロス表である。9歳以下の子どものみと10～15歳の子どものみを持つ親はどちらも、「そう思う」が60%を超えた。また、16歳以上の子どものみを持つ親はほかと比べると、「そう思う」と回答した人の割合が少し低く、46%だった。以上より、子どもの年齢が低い方が、公園は自由に

遊べた方が良いとする傾向があることがわかる。カイ二乗検定の結果、1%水準で有意性が見られ、クラメールのVは0.306だった。

表5 子どもの年齢と公園は自由に遊べたほうが良いか

	どちらかとい えそう思 う	どちらかとい えばそう思 わない	どちらかとい えばそう思 わない	そう思わ ない	総計
9歳以下の子どものみ	73	32	4	2	111
%	66%	29%	4%	2%	100%
10～15歳の子どものみ	44	24	1	1	70
%	63%	34%	1%	1%	100%
16歳以上の子どものみ	88	87	15	1	191
%	46%	46%	8%	1%	100%
総計	205	143	20	4	372
%	55%	38%	5%	1%	100%

P 値 0.00793 p<0.01 Cramer V=0.306

表6 子どもの年齢と、けがをすると危ないのである程度の利用制限を設けるべきか

	どちらかとい えそう思 う	どちらかとい えばそう思 わない	どちらかとい えばそう思 わない	そう思わ ない	総計
9歳以下の子どものみ	16	45	34	16	111
%	14%	41%	31%	14%	100%
10～15歳の子どものみ	6	31	17	16	70
%	9%	44%	24%	23%	100%
16歳以上の子どものみ	20	89	56	26	191
%	10%	47%	29%	14%	100%
総計	42	165	107	58	372
%	11%	44%	29%	16%	100%

p 値 0.45721 p<0.50 Cramer V=0.175

表6は「子どもの年齢」と「けがをするとあぶないのである程度の利用制限を設けるべきか」のクロス表である。

子どもの年齢とけがをすると危ない為利用制限を設けるべきかどうかは、あまり関連がなく、全体的に「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が44%で一番多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」と回答した割合が29%、「そう思わない」が16%、「そう思う」が11%という結果になった。以上より、子どもの年齢層に関係なく、意見は分か

れ、どちらかと言えば制限が必要と考える親がやや多い傾向にあることがわかる。カイ二乗検定の結果、あまり有意性は見られず、クラメールのVも0.175と表4に比べて低い。

表7 子どもの年齢と、子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか

	どちらかとい えそう思 う	どちらかとい えばそう思 う	どちらかとい えばそう思 わない	どちらかとい えばそう思 わない	総計
9歳以下の子どものみ	6	13	44	47	110
%	5%	12%	40%	43%	100%
10～15歳の子どものみ	2	11	26	31	70
%	3%	16%	37%	44%	100%
16歳以上の子どものみ	8	45	81	55	189
%	4%	24%	43%	29%	100%
総計	16	69	151	133	369
%	4%	19%	41%	36%	100%

p 値 0.060119036      p<0.10      Cramer V=0.256

表7は「子どもの年齢」と「子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか」のクロス表である。16歳以上の子どものみを持つ親は、他の年代の子どもを持つ親に比べて、「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合が2倍近く24%だった。以上より、16歳以上の子どもを持つ親は他の年齢層の親よりも公園で遊ぶ子どもの声をうるさいと感じている傾向があることがわかる。カイ二乗検定の結果、10%水準で有意性が見られ、クラメールのVは0.256だった。

表8 子どもの年齢と、子どもだけで遊ばないほうが良いか

	どちらかとい えそう思 う	どちらかとい えばそう思 う	どちらかとい えばそう思 わない	どちらかとい えばそう思 わない	総計
9歳以下の子どものみ	14	40	34	22	110
%	13%	36%	31%	20%	100%
10～15歳の子どものみ	2	17	27	24	70
%	3%	24%	39%	34%	100%
16歳以上の子どものみ	37	66	56	34	193
%	19%	34%	29%	18%	100%
総計	53	123	117	80	373
%	14%	33%	31%	21%	100%

p 値 0.002500314      p<0.01      Cramer V=0.330

表 8 は「子どもの年齢」と「子どもだけで遊ばないほうが良いか」のクロス表である。

10～15 歳の子どものみを持つ親が、「そう思う」と回答した割合が 3%と他の年代に比べて著しく低い。以上のことから、10～15 歳の子どものみを持つ親は他の年代に比べて、子どもだけで公園で遊ぶことに肯定的な傾向が強いことがわかる。

カイ二乗検定の結果 1%水準で有意性が見られ、クラメールの V も 0.330 と他に比べて関連が強い。

#### 4-2. まとめ

「子どもの年齢」との分析で有意な関連が見られたものは、「公園は自由に遊べたほうが良いか」と「子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか」と「子どもだけで遊ばないほうが良いか」の 3 つだった。

しかし、「けがをすると危ないのである程度利用制限を設けるべきか」という設問に関しては有意な関連は見られなかった。

「公園は自由に遊べたほうが良いか」という設問に対しては子どもの年齢が低いほど「そう思う」と答えた割合が高く、「けがをすると危ないのである程度利用制限を設けるべきか」と「子どもの年齢」との分析に有意な関連が見られなかった。このことから、年齢の低い子どもを持つ親は年齢が低いからといって、けがをすることに対する心配が強いということも無く、子どもにのびのびと自由に遊ばせたいと考えているため、このような結果になったと考えられる。また、以上のことから、仮説 I 「10 歳から 15 歳の子どものみを持つ親は、公園は自由に遊べるほうが良いと思うはずである。」はある程度認められ、仮説 II 「9 歳以下の子どもを持つ親は（子どもの年齢が低いほうが）、怪我をしないために、ある程度制限を設けたほうが良いと思うはずである。」は棄却された。

「子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか」という設問に対して、16 歳以上の子どもを持つ親は他の層に比べて、「どちらかと言えばそう思う」と答えた割合が 2 倍近くになったのは、あまり自身の子どものみで公園を利用しない年齢のため、このような結果になったと考えられる。

「子どもだけで遊ばないほうが良いか」という設問に対して、10～15 歳の子どものみを持つ親が、「そう思う」と回答した割合が著しく低い結果になったのはその年代の子どものみで公園で遊ぶ場合、親がついていくことは少なく、16 歳以上の親にとっては、他の家庭の子どもが親と一緒にいないのは不安であるからであると考えられる。

次に、親の年齢に注目して分析してみる。子どもの年齢での分析に加え、親本人の年齢での分析を行うことによって親が子どもに対してどのようなまなざしで見ているのかを分析し理解を深めていく。

#### 5. 仮説の検証（親の年齢層と公園の利用などについて）

本節では、「親の年齢層」と「公園の利用などについて」の2つをクロス表で分析し、仮説Ⅲ「子育ても終わり、仕事も退職して、昼間家にいるような高齢者は（親の年齢が高いほうが）、子どもの騒ぐ声などをうるさいと感じている割合が多いはずである。」を検証する。

先にも述べたが、子どもの年齢による分析をした上で、親の年齢層に注目することで、子どもの年齢だけでは見えてこなかった親の、子どもに対する意識の違いを明らかにしていく。

表9 子どもを持つ親の年齢と、公園は自由に遊ぶことができたほうが良いか

	どちらかとい え ば そう 思 う	どちらかとい え ば そう 思 う な い	どちらかとい え ば そう 思 わ な い	総計
20～30代	76	36	5	118
%	64%	31%	4%	100%
40～50代	82	68	5	158
%	52%	43%	3%	100%
60代以上	41	37	10	88
%	47%	42%	11%	100%
総計	199	141	20	364
%	55%	39%	5%	100%

p 値 0.01512    p < 0.10    Cramer V = 0.294

表10 子どもを持つ親の年齢と、けがをすると危ないのである程度利用制限を設けるべきか

	どちらかとい え ば そう 思 う	どちらかとい え ば そう 思 う な い	どちらかとい え ば そう 思 わ な い	総計
20～30代	18	47	33	119
%	15%	39%	28%	100%
40～50代	14	70	52	157
%	9%	45%	33%	100%
60代以上	10	45	20	89
%	11%	51%	22%	100%
総計	42	162	105	365
%	12%	44%	29%	100%

p 値 0.33933    p < 0.40    Cramer V = 0.193

表9は「子どもを持つ親の年齢」と「公園は自由に遊ぶことができたほうが良いか」のクロス表である。

「そう思う」と回答した割合は、20～30代が64%、40～50代が52%、60代以上が47%

となった。また、60代以上の親は「どちらかと言えばそう思わない」と回答した割合が他の年代に比べて多い。以上より、若い年代の親ほど、公園は自由に遊ぶことができたほうが良いとする傾向があることがわかる。カイ二乗検定の結果、5%水準で有意性が見られ、クラメールのVは0.294だった。

表10は「子どもを持つ親の年齢」と「けがをすると危ないのである程度利用制限を設けるべきか」のクロス表である。けがに関しては、年齢にはあまり関係なく意見が割れ、全体的には「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合が一番多く、44%になった。

次いで、「どちらかといえばそう思わない」が29%、「そう思わない」が15%、「そう思う」が12%という結果になった。以上より、親の年齢層に関係なく、意見は分かれ、どちらかと言えば制限が必要と考える親がやや多い傾向にあることがわかる。カイ二乗検定の結果あまり関連性は見られず、クラメールのVは、0.193だった。

表11 子どもを持つ親の年齢と、子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	総計
20～30代	7	15	41	55	118
%	6%	13%	35%	47%	100%
40～50代	6	32	74	45	157
%	4%	20%	47%	29%	100%
60代以上	3	21	33	30	87
%	3%	24%	38%	34%	100%
総計	16	68	148	130	362
%	4%	19%	41%	36%	100%

p 値 0.03365    p < 0.10    Cramer V = 0.275

表11は「子どもを持つ親の年齢」と「子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか」のクロス表である。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」という回答が多数であったが、親の年齢が高いほど「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が高かった。以上より、年齢層が高いほど、子どもの声をうるさいと感じている傾向があることがわかる。カイ二乗検定の結果、5%水準で有意性が見られ、クラメールのVは0.278だった。

表12は「子どもを持つ親の年齢」と「子どもだけで遊ばないほうが良いかどうか」のクロス表である。「そう思う」と回答した割合は、20～30代が11%、40～50代が10%なのに対して60代以上は24%と他の年代の2倍以上であった。以上より、60代以上の人

は子どもだけで遊ばないほうが良いと感じている傾向があることがわかる。カイ二乗検定の結果、5%水準で有意性が見られ、クラメールのVは0.277だった。

表 12 子どもを持つ親の年齢と、子どもだけで遊ばないほうが良いかどうか

	どちらかとい え ば そう 思 う	どちらかとい え ば そう 思 わ ない	どちらかとい え ば そう 思 わ ない	総計
20～30代	13	39	37	118
%	11%	33%	31%	100%
40～50代	16	50	58	158
%	10%	32%	37%	100%
60代以上	21	33	20	89
%	24%	37%	22%	100%
総計	50	122	115	365
%	14%	33%	32%	100%

p 値 0.02911    p<0.10    Cramer V=0.277

### 5-1. まとめ

「親の年齢層」との分析で有意な関連が見られたものは、「子どもの年齢」との分析と同じで、「公園は自由に遊べたほうが良いか」と「子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか」と「子どもだけで遊ばないほうが良いか」の3つで、有意な関連が見られなかったものは「けがをすると危ないのである程度利用制限を設けるべきか」だった。

「公園は自由に遊べたほうが良いか」という設問にそう思うと回答した割合が「子どもの年齢」で分析した時以上に若い年齢層のほうが、高くなる傾向がより顕著に表れた。

「子どもの声がうるさいので、ある程度利用制限を設けるべきか」という設問には、ほとんどが「そう思わない」か「どちらかといえばそう思わない」と答えたが、「どちらかといえばそう思う」と回答した人たちも全体で19%いて、年齢層が高くなるにつれて、割合が高くなる結果となった。これは、多少は子どもたちの遊ぶ声がうるさいと感じている人もいて、すでに自身の子育てが終わっている為、他人の家庭の子どもの声がうるさいと感じているのではないかと考えられる。以上より、仮説Ⅲ「子育ても終わり、仕事も退職して、屋間家にいるような高齢者は（親の年齢が高いほうが）、子どもの騒ぐ声などをうるさいと感じている割合が多いはずである。」は認められた。

「子どもだけで遊ばないほうが良いか」という設問に「そう思う」と回答した割合は他の年齢層に比べ60代以上が圧倒的に多く、これは親がちゃんと子どもが騒ぎ過ぎないように見ていたほうが良いという意識があるのではないかと考えられる。また60代以上の

人たちには孫がいる人も多いと思うので、小さい子どもにはしっかりと親がついていた方がいいという意識があるのではないかと考えられる。

このような世代による「子どもへのまなざし」の違いは、特段珍しいことではない。たとえば、子どもがどのような空間で遊ぶのが望ましいのかをめぐってもさまざまな意見が対立するという（高久，2014）。そこで示されるのは、

県内の小中学校の運動場はどこも「土」のようです。わが家では、子育ての期間中、庭に芝生を張りました。芝生の上であれば、子どもがいくら転げ回っても汚れることなく、土ぼこりも立ちませんでした。小学校の運動場に、芝生を張ってはどうか（『朝日新聞』「運動場を緑の芝生にしよう」2001年4月24日 夕刊）

私は校庭を芝生にするのは反対です。子供がどろんこになって土で遊んだり、石を拾ったりすることで学ぶことがあるのではないのでしょうか。自分自身、汚れることは楽しかった……私は子供が真っ黒になるほど土とふれあってほしいし、そうなれる校庭を望みます（『朝日新聞』「子供の成長に土の校庭必要」2001年5月2日 朝刊）

といったように、自身の経験や記憶に応じて、「望ましい空間」が異なるという事実である。本章で得られた結果もまた、このような「子ども」に対する「親」の「まなざし」の不安定さを示していると考えられる。

## 6. 結論

本章の目的は子どもの年齢や、親の年齢によって、公園の利用などについてどんな意識の違いがあるのかを明らかにすることであった。

そのために4節では、子どもの年齢と、公園の利用などについて、クロス表を用いて分析を行った。続いて5節では親の年齢と、公園の利用などについて、クロス表を用いて分析を行った。

本章の分析から得られた知見は3つある。

第一に、子どもの年齢や親の年齢にかかわらず、子どもに対して「ケガをして成長するものだ」「ケガをしない安全な環境で成長するべきだ」といったような、子どもの成長に関しでの「望ましさ」について、意見の対立が生じるということだ。

予想では、年齢の低い子をもつ親や若い親のほうが、子どもの怪我に対する不安が大きく、「子どもはケガをして成長するものだ」といったような考えは、年代の高い人達に多い意見だと考えていた。しかし今回の結果で、どの年齢層の子どもがいるか、どの年代にかかわらず、3~4割程度の割合で「子どもはケガをして成長するものだ」といったような考えを持った人が存在することが明らかになった。

第二に、公園などの外遊びの空間に対する意見の対立は、「親の子どもへのまなざしの違



い」によって、起こるとのことだ。

現在だけでなく、どの時代も外遊びを取り巻く空間や、環境はめまぐるしく変わってきた。そのため、親自身の経験や記憶に応じて、「望ましい空間」は異なり、それによって、それぞれの親が、子どもに少しでも良い環境を提供しようと意見の対立が起こることが明らかになった。

第三に、すでに子育てを終え、公園などの外で遊ぶ子どもたちの声などを迷惑と感じている人たちもいることである。

## 7. 今後の課題

本章の分析から得られた課題は2つある。

第一に、今回「親の年齢」「子どもの年齢」と「公園の利用などについて」の意識とを検証したが、親や子どもの年齢によって、公園に対して望むことが正反対であることも少なくいことがわかった。そのため、公園を作る前に、丁寧に細やかな周辺への調査を徹底し意見の違いを埋めていくことが課題となるだろう。

第二に、今回行った調査よりも、公園の利用などに対してより具体的な質問をすることで、少しでもより良い公園づくりのヒントを得ることが出来たのではないかと考えた。

### 【参考文献】

高久聡司，2014，『子どものいない校庭：都市戦略にゆらぐ学校空間』，勁草書房。

「保育園の子どもの声がうるさい」と近所に住む男性が提訴 神戸，

([http://www.huffingtonpost.jp/2014/09/06/nursery-school\\_n\\_5776160.html](http://www.huffingtonpost.jp/2014/09/06/nursery-school_n_5776160.html) 最終アクセス日 2015/02/14)

国土交通省 「平成 25 年度末都市公園等整備及び緑地保全・緑化の取組の現況（速報値）について」 <http://www.mlit.go.jp/common/001063502.pdf>

『朝日新聞』「運動場を緑の芝生にしよう」2001年4月24日 夕刊

『朝日新聞』「子供の成長に土の校庭必要」2001年5月2日 朝刊

## 第8章 子どもの居場所に対するニーズ：子どもと大人の考えの齟齬

### 1. 本章の目的

近年、子どもを取り巻く環境は大きく変容を遂げている。たとえば、都市化、情報化社会の進展などによって、子どもの遊び場が消失するばかりか、遊び場でできることが制限されるなど、子どもが外遊びへ誘引されにくくなったなどが指摘され続けている。さらに、公園などで子どもの遊ぶ声が「騒音」とされ、地域の問題となることもある。

こうした現状を鑑みた時に、果たして、子どもたちの居場所はどこに求められ、何が問題とされているのかを理解し、新たな空間づくりへと繋げていくことはきわめて有効であろう。とはいえ、「子ども」と向き合う「大人」といっても、その要求は様々である。そこで、本調査では、子どもの有無（年齢）と親の年齢という2つの軸から、意見の重なりと齟齬を明らかにし、何か新しい空間を創出する際に想定される論争の構図を理解し、新たな空間づくりに対する示唆を提示することを目的とした。その調査の中から本発表では、学校に通う子どもたち、とりわけ、若干親の手から離れだした、小学校高学年から中学生までの子どもに焦点を置き、彼／彼女らが過ごすであろう、公園という空間を対象とした調査結果について報告する。

### 2. 調査の対象と特徴

#### 2-1. 調査結果の基礎集計

##### ○調査設計上の注意点

- ・ 本調査で設定した「子どもの年齢区分」について。
- ・ 戸田市では2014年度から学童保育室の預かり年齢を小学校4年生までに引き上げている（10歳まで）
- ・ そのため、本調査の年齢区分は、学童保育室の対象年齢とは完全には合致していない。
- ・ だが逆に、そのことで、拡大された対象年齢である10歳の子どもたちを持つ、親にとっての学童保育室の位置づけを理解したい。

##### ○分析の上での注意点

- ・ 配偶者の有無や現在の立場、居住地区などさまざまな背景を鑑みる必要がある。
- ・ その意味では、本発表の分析は限定的ではある。
- ・ 子どもを対象とした調査や「子ども」をめぐる議論において、重要なファクターとなる「回答者の年齢」と「子どもの有無（年齢）」に照準する。それは、草森紳一が以下のように指摘するように、私たちが「子ども」の問題を考える時、「大人」である私たちが「子ども時代の記憶」に頼らざるを得ず、その上で、〈今-ここ〉の「子ども」と向き合いながら、意見を表明するためである。

(子どもにとっての学校という) 問題を考えるにあたって、その考える自分の位置、すなわち視座をはっきりしておかなくてはならない。私自身は、制度的には、どうしてもなく大人であることは、免れえない……子供の位置に戻すことができるとしたら、自らの子供時代の記憶しかない(草森 1975 : 115-116 ; 括弧内は筆者)

表 1 回答者の年代

	度数	パーセント
20代	89	13.2
30代	172	25.5
40代	174	25.8
50代	104	15.4
60代	116	17.2
無回答	20	3.0
合計	675	100.0

表 2 回答者の性別

	度数	パーセント
男性	287	42.5
女性	372	55.1
無回答	16	2.4
合計	675	100.0

表 3 子どもの年齢 (下の子基準)

	度数	パーセント
いない	225	33.3
9歳以下	159	23.6
10-15歳以下	74	11.0
16歳以上	209	31.0
無回答	8	1.2
合計	675	100.0

#### ○本調査の基礎集計の提示

- 回答者の年代 (表 1) 20代が 13.2%、30代が 25.5%、40代が 25.8%、50代が 15.4%、60代が 17.2%となっている。
- 回答者の性別 (表 2) 男性 42.5%、女性 55.1%となっている。「子ども」をめぐる問題を考える時、どこか「母親」を対象としがちであるが、異議申し立ての可能性は、決して性別に左右されるわけではない。その点を射程に入れている。

#### ○本調査の特徴

- ・ 幅広い世代から「子ども」をめぐる問題を明らかにしようとする点。
- ・ このような設定をした理由は、ある事柄が「子どものため」になるとしても、必ずしも「善い」とされるわけではないためである(高久, 2014)。
- ・ それは、子どもが遊べるようにと創出した空間における「子どもの声」が騒音とされる事例が今日散見していることから理解できるだろう。

○本章の分析の軸

■回答者（親）の年代と子どもの年齢（下の子基準）のクロス表（表4）。

- ・ 20代では、10歳以上の子どもをもつ人はいないが、その他の年代では、子どもの年齢（下の子）は多様。
- ・ つまり、親の年齢だけに注目して分析すると、子どもの年齢の多様性を捉えきれなくなるという問題があり、逆に子どもの年齢だけに注目すると、親の年齢の多様性を捉えきれなくなる問題がある。

表4 親の年齢×子どもの年齢（下の子基準）のクロス表

	子どもの有無(下の子基準)				合計
	いない	9歳以下	10-15歳以下	16歳以上	
20代	73	16	0	0	89
%	82.0%	18.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30代	59	99	12	0	170
%	34.7%	58.2%	7.1%	0.0%	100.0%
40代以上	85	40	61	205	391
%	21.7%	10.2%	15.6%	52.4%	100.0%
合計	217	155	73	205	650
%	33.4%	23.8%	11.2%	31.5%	100.0%

2-2. 子どもを対象とした調査との比較

表5 公園に設置して欲しい遊具（子ども調査）

	度数	%
砂場	0	0.0
滑り台	1	2.9
鉄棒	2	5.9
ブランコ	15	44.1
ジャングルジム	5	14.7
その他	8	23.5
特に必要な遊具はない	3	8.8
合計	34	100.0

表6 公園に設置して欲しい遊具

	度数	%
砂場	37	5.8
滑り台	101	15.9
鉄棒	53	8.3
ブランコ	106	16.7
ジャングルジム	45	7.1
高齢者向けの健康遊具	128	20.2
その他	30	4.7
特に必要な遊具はない	135	21.3
合計	635	100.0

○「子ども調査」の活用

- ・ 本発表においては、「子どもの居場所等に関する調査」に加えて、戸田市子ども会育成連合会主催の「子ども会リーダー研修会」（2014年8月10日）に参加した小学校5年生32名を対象とした、アンケート調査の結果を比較対象として提示していく。
- ・ 尚、子ども向けの調査の主な設問項目は、公園にほしい遊具や公園利用での不安点な

ど公園利用に関すること、外遊びやボール遊び、放課後の過ごし方など遊び場に関することである。

- ・ この子ども向け調査は、サンプル数などの問題で一般化することはできない点には注意が必要である。しかし、「大人」の回答傾向との齟齬がどの程度あるのかを予測することはできるだろう。
- ・ たとえば、表5、表6は「公園に設置して欲しい遊具」の回答を示しているが、「子ども」と「大人」では回答傾向に差異があることが理解できる。このこともまた、草森紳一の言葉が示唆的である。

大人目からみて、どのように失敗した味気のない空間であろうと、子供は「そういう場所」として受容し、その中を工夫し、生きるのであるから、善悪というものはない(草森, 1975: 117)

#### ○本発表の狙いの再確認と注意点

- ・ 大人が望ましいと思うことと子どもが望ましいと思うことの齟齬に着目しつつ、新たな空間創出に向けた検討を行うための視座を提示したい。
- ・ 尚、本調査では、学童保育室に関する設問も設定してあるが、「子ども」の声との比較を行うことを踏まえ、本発表では割愛する。学童保育室に関する調査結果は、2014年度末に刊行予定の報告書を参照されたい。

### 2-3. 調査結果の分析にあたって

#### ○親の年齢と子どもの年齢の2つの軸にもとづくグループの平均値による比較

①20代・30代で子どもがいない人(132人)、②20代・30代で下の子が9歳以下の人(115人)、③20代・30代で下の子が10～15歳の人(12人)、④40代以上で子どもがいない人(85人)、⑤40代以上で下の子が9歳以下の人(40人)、⑥40代以上で下の子が10～15歳の人(61人)、⑦40代以上で下の子が16歳以上の人(205人)の7グループ(20代・30代で下の子が16歳以上の人はいない)。

#### ○グループによる平均値による比較の意図

- ①親の年代が同じであっても回答に分布が生じるかどうかを確認することで、**子どもの年代による意見の差異、の理解。**
- ②第二に子どもの年代が同じであっても回答に分布が生じるかどうかを確認することで、**親の年代による意見の差異、の理解。**

表 7 親の年代×子どもの年齢（下の子基準）の分布

	度数	パーセント
20代・30代で子どもがいない	132	19.6
20代・30代で9歳以下	115	17.0
20代・30代で10-15歳	12	1.8
40代以上で子どもがいない	85	12.6
40代以上で9歳以下	40	5.9
40代以上で10-15歳	61	9.0
40代以上で16歳以上	205	30.4
無回答	25	3.7
合計	675	100.0

### 3. 「子どもの居場所」をめぐって

以下、「子ども」調査と本調査の結果を比較した上で、上記の7グループについて、各質問の得点の平均値をもとに、その値から算出した偏差値を用いて、結果の概要を提示する。各グループの偏差値を算出し、偏差値 50 から、+2 ポイント以上の差があるものは斜体、-2 ポイント以上差があるものには下線を付した。

#### 3-1. 子育てに関する「規範」

問 12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの 1つに○ をつけてください。

\*偏差値が高いほど「望ましい」とするため、「そう思う」を4点、...「そう思わない」を1点とした。

#### (1) グループ別の偏差値による比較（表 8、図 1~4）

表 8 子どもを預けるのに望ましい場所（偏差値）

	学童保育室が望ましい	知人・友人が望ましい	祖父母などの親類が望ましい	自宅で面倒を見るのが望ましい
20代・30代で子どもがいない	<u>46.9</u>	49.7	<u>52.4</u>	51.1
20代・30代で9歳以下	50.2	50.1	51.5	51.2
20代・30代で10-15歳	<u>53.0</u>	50.8	<u>43.7</u>	48.7
40代以上で子どもがいない	48.5	50.3	51.1	49.7
40代以上で9歳以下	<u>54.0</u>	51.7	<u>47.2</u>	<u>46.0</u>
40代以上で10-15歳	51.4	51.2	50.7	50.3
40代以上で16歳以上	51.3	49.3	<u>47.9</u>	49.5
平均値	3.08	1.77	3.02	3.35
標準偏差	0.84	0.72	0.82	0.76

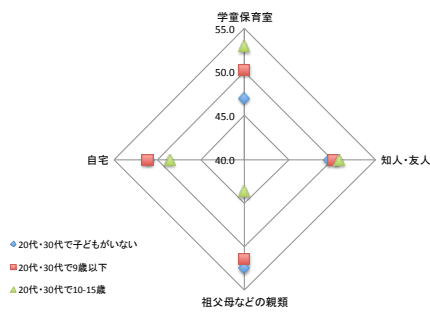


図1 子どもを預けるのに望ましい場所（20代・30代）

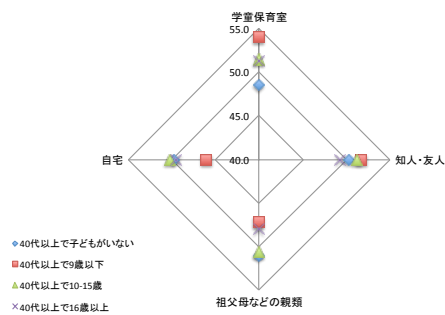


図2 子どもを預けるのに望ましい場所（40代以上）

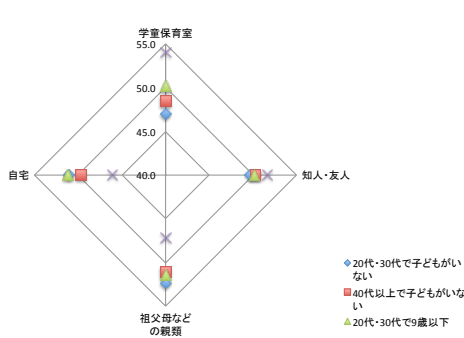


図3 子どもを預けるのに望ましい場所（9歳以下）

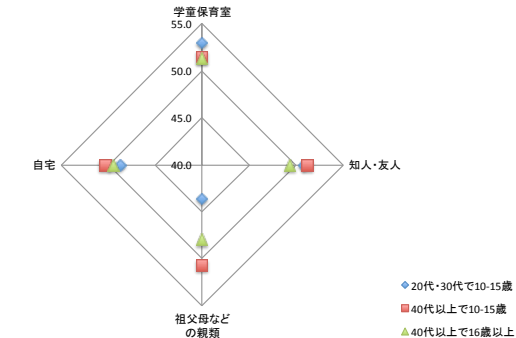


図4 子どもを預けるのに望ましい場所（10歳以上）

【議論の背景：子育てに関する伝統的な規範（松木，2013）】

- ・ 1980年代までは、子どもの養育は家庭で母親によって行われるという原則の存在。
- ・ 1990年代以降は、「子育ては家庭と社会のパートナーシップで」という考え方への転換が果たされたという。
- ・ 松木は、現在の日本社会では、子育ての内実や責任を部分的にはあれ家族の外部へ移行することの必要性が盛んに語られたり現実化されたりするその一方で、政策レベルにおいても、そして、社会の成員であるわれわれの多くにとっても、子育ての責任をなお家族、とりわけ母親へと帰属する論理が効力は失っていない。

【本調査の結果】

- ・ 表8は、松木が提示するような「子育てに対する規範」を示している。
- ・ 「望ましい」とする回答が高い順に記すと「自宅」（平均値 3.35）、「学童保育室」（平均値 3.08）、「祖父母など親類」（平均値 3.02）、「知人・友人」（平均値 1.77）となる。
- ・ ここで重要となるのは、平均値が 1.77 と低くなっている「知人・友人」を除く、3つの場所が、回答者の属性によってどのように異なるのかという点である。

【特徴的な点】

- ・ 「20代・30代で子どもがいない」（グループ①）は、「学童保育室」を望ましいと捉

えない傾向にある。

- ・ 逆に「20代・30代で子どもが10-15歳」（グループ③）は、「学童保育室」を望ましいと捉える傾向にある。
- ・ 40代以上になると、「学童保育室」は「望ましい場所」と認識されるようになる。
- ・ この結果は、「学童保育室に子どもを預ける（預けたい、預けた）理由」を尋ねた本調査の問10で、「子どもがいない」グループは、年代を問わず、偏差値が低いものの、それ以外では「就労のため」と回答する傾向が強いこととも関連している。旧来型の子育て規範は、20代・30代では子どもの年齢が低いほど強まる傾向にある。

**【ポイント・示唆されること】**

- ・ 「子どもがいない」という層にも多様な立場がある（子どもを持たない、持ちたいなど）
- ・ 仮想的にその層を「将来世代」と捉えるならば、学童保育室の充実は、今後の戸田市にとって重要な意味を持っていることが示唆される。

**3-2. 公園の利用に制限をかけるべきか**

問5 公園の利用などについてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

\* 偏差値が高いほど、利用制限に賛成とするため、「自由に遊ぶことができた方がよい」以外は、「そう思う」を4点、...「そう思わない」を1点とした。

\* 「自由に遊ぶことができた方がよい」は「自由に遊ぶことができない方がよい」となる。

**(1) 子どもの考え方との相違（表9、10）**

**表9 公園の利用制限に対する考え方（子ども調査）**

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	合計
自由に遊びたい %	24 70.6	10 29.4	0 0.0	0 0.0	34 100.0
ケガをすると危ないので、ある程度 のルールが必要 %	12 35.3	18 52.9	2 5.9	2 5.9	34 100.0
子どもだけで遊ばない方がよい %	3 9.1	3 9.1	9 27.3	18 54.5	33 100.0

**【ポイント】**

- ・ 直接比較できるのは、「自由に遊ぶことが出来た方がよい」「子どもだけで遊ばない方がよい」である。
- ・ ここで注目すべきは、「大人」は、子どもが自由に遊べた方がよいとしつつも、何らか



の意味での制限をつけることにも賛同する傾向があることである。

- ここからも、「子どものため」という意見の二重性が読み取れる。
- それゆえに、何かを新しく行う際には、賛成の背後に潜む部分否定の存在に目を向けなければならないことが示唆される。

表 10 公園の利用制限に対する考え方

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	合計
自由に遊ぶことができた方がよい %	372 56.6	250 38.1	27 4.1	8 1.2	657 100.0
ケガをすると危ないので、ある程度 の利用制限を設けるべき %	72 11.0	275 42.0	200 30.6	107 16.4	654 100.0
子どもの声が騒がしいので、ある程 度の利用制限を設けるべき %	21 3.2	129 19.8	262 40.2	240 36.8	652 100.0
子どもだけで遊ばない方がよい %	91 13.9	229 34.9	197 30.0	140 21.3	657 100.0

(2) グループ別の偏差値による比較 (表 11、図 5~8)

表 11 公園の利用制限に対する考え方 (偏差値)

	自由に遊ぶことが できない方がよい	ケガをすると危ないので、ある程度 の利用制限を設けるべき	子どもの声が騒がしい ので、ある程度 の利用制限を設けるべき	子どもだけで遊ば ない方がよい
20代・30代で子どもがいない	48.9	49.8	49.9	51.3
20代・30代で9歳以下	48.9	50.1	48.2	49.2
20代・30代で10-15歳	48.9	51.0	53.3	45.0
40代以上で子どもがいない	50.2	49.4	50.0	50.9
40代以上で9歳以下	48.6	50.0	49.6	47.2
40代以上で10-15歳	49.0	49.4	47.2	45.7
40代以上で16歳以上	52.2	50.6	51.7	51.6
平均値	1.49	2.49	1.90	2.40
標準偏差	0.62	0.89	0.83	0.97

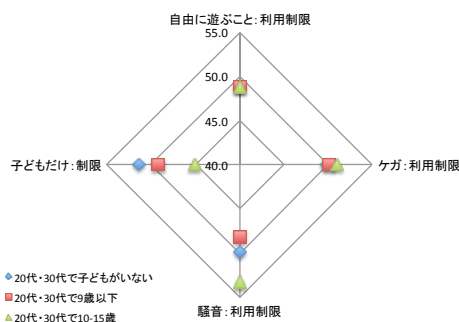


図 5 公園の利用制限に対する考え方 (20代・30代)

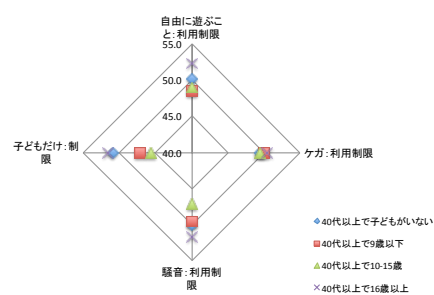


図 6 公園の利用制限に対する考え方 (40代以上)

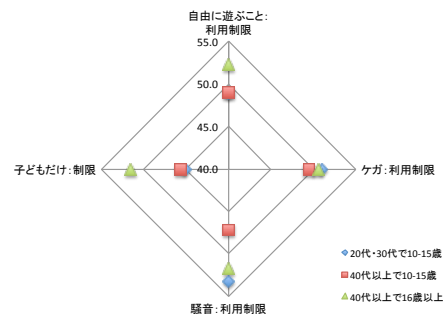
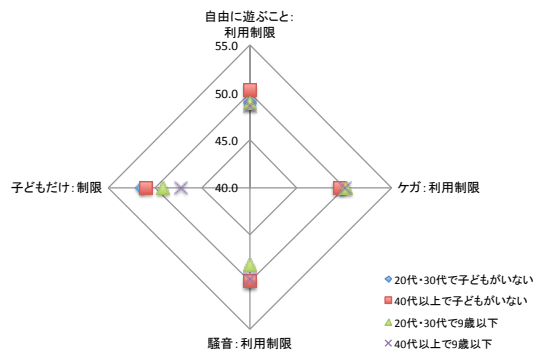


図7 公園の利用制限に対する考え方（9歳以下）

図8 公園の利用制限に対する考え方（10歳以上）

### 【特徴的な点】

- ・ 「自由な遊びへの制限」：40代以上で16歳の子どもの持つグループ以外は、偏差値が50前後で、平均点も1.49と低く、基本的には、子どもは「自由に遊ぶことが望ましい」と考える傾向にある。
- ・ 他方で、子どもの年齢が同じ「10～15歳」であっても、親の年代によって、「子どもの声」を騒音と捉えるかどうかは異なる。
- ・ このように「利用制限」をめぐっても子細に見ていくと、一見すれば、誰もが「子どもは自由に遊ぶべき」と考えているように見えるが、実は意見の対立が生じやすいという事実が潜んでいる。

### 【ポイント・示唆されること】

- ・ 「子どもの年齢」のみならず、「親の年代」によっても様々な反応が見られることが示唆される。
- ・ 近年、社会問題化される「子どもの騒音」問題は、このような価値観の対立によって引き起こされていると考えられる。

### 3-3. 公園で子どもを遊ばせることに対する不安

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください（○が付くと1点）

#### (1) 子どもの考え方との相違（表12、13）

### 【ポイント】

- ・ 「子ども」と「大人」で共通するのは、「ケガをしないか」「他の人に迷惑をかけないか」に「当てはまる」とする割合が高いことである。

- ・ところが、「大人」においては、「事件に巻き込まれないか」に「当てはまる」とする割合が高い。
- ・「子どもを守る存在」としての「大人」という意識の現れ。

表 12 公園に対する不安（子ども調査）

	当てはまらない	当てはまる	合計
ケガをしないか	22	11	33
%	66.7	33.3	100.0
いじめられないか	32	1	33
%	97.0	3.0	100.0
事件に巻き込まれないか	28	5	33
%	84.8	15.2	100.0
他の人から迷惑を受けないか	31	2	33
%	93.9	6.1	100.0
他の人に迷惑をかけないか	23	10	33
%	69.7	30.3	100.0
不安はない	16	17	33
%	48.5	51.5	100.0
その他	32	1	33
%	97.0	3.0	100.0

表 13 公園に対する不安

	当てはまらない	当てはまる	合計
ケガをしないか	383	269	652
%	58.7	41.3	100.0
いじめられないか	542	110	652
%	83.1	16.9	100.0
事件に巻き込まれないか	231	421	652
%	35.4	64.6	100.0
他の人から迷惑を受けないか	526	126	652
%	80.7	19.3	100.0
他の人に迷惑をかけないか	351	301	652
%	53.8	46.2	100.0
不安はない	596	56	652
%	91.4	8.6	100.0
その他	622	30	652
%	95.4	4.6	100.0

(2) グループ別の偏差値による比較（表 14、図 9～12）

表 14 公園に対する不安（偏差値）

	ケガをしないか	いじめられないか	事件に巻き込まれないか	他人から迷惑を受けないか	他人へ迷惑をかけないか
20代・30代で子どもがいない	50.8	50.3	50.8	49.7	49.4
20代・30代で9歳以下	51.8	51.1	52.5	51.8	51.4
20代・30代で10-15歳	48.2	47.6	46.9	51.3	54.0
40代以上で子どもがいない	47.4	49.2	46.7	48.0	47.0
40代以上で9歳以下	53.0	50.3	52.7	51.3	50.6
40代以上で10-15歳	48.8	48.4	49.4	52.8	53.0
40代以上で16歳以上	49.2	50.3	49.0	48.7	49.2
平均値	0.42	0.17	0.65	0.20	0.47
標準偏差	0.49	0.38	0.48	0.40	0.50

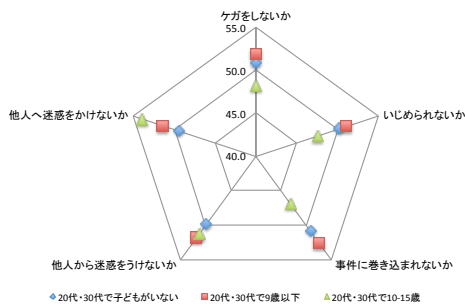


図9 公園に対する不安（20代・30代）

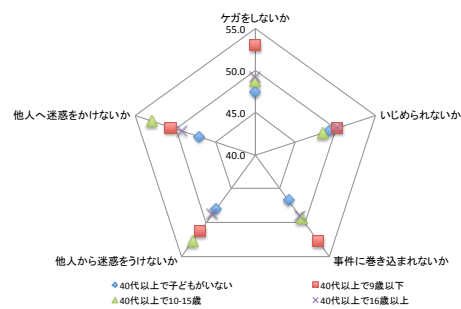


図10 公園に対する不安（40代以上）

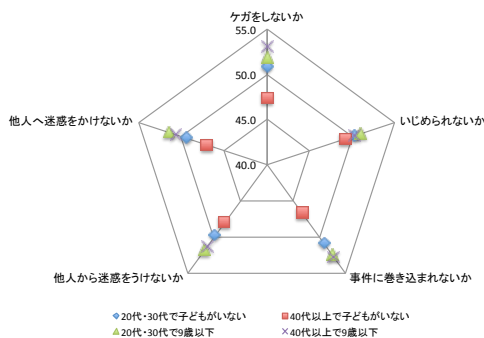


図11 公園に対する不安（9歳以下）

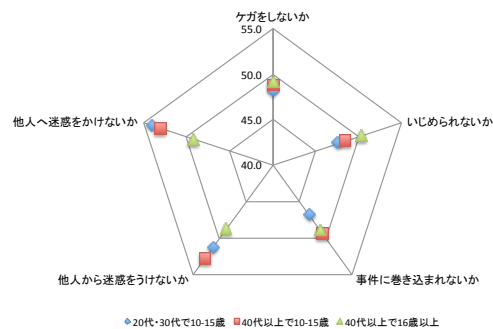


図12 公園に対する不安（10歳以上）

【特徴的な点】

- ・ 「ケガをしないか」「いじめられないか」「事件に巻き込まれないか」といった点は、子どもの年齢が低いほど、不安を感じる傾向にある。
- ・ 「他人へ迷惑をかけないか」は、活発な動きをすると予想される「10～15歳」の子どもを持つ親にとって、不安を感じる傾向がある。

【ポイント・示唆されること】

- ・ 子どもの年齢が低い場合は、周りからの被害が不安に感じ、子どもの年齢が上がると周りへ与える影響を不安に感じる傾向にあることである。
- ・ このことは、子どもの年齢に応じて「安全」な空間の意味内容に差異があることを示唆している。
- ・ すなわち、「子ども」を「守ってもらえる空間」であるかを重視する層と監督者の存在によって子どもの行動を抑制し、「安全」を担保することを重要とする層とである。
- ・ 「安全」は、何によって担保できるのか、という問題。

3-4. 遊ぶ環境の変化（問題点）

問13 あなたは、ご自身の子どもの頃と比較して、今の子どもの外遊びの環境はどのような感じと感じますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

問 14 問 13 で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけてください（問 13 の結果、回答数は 466 となっている）。 \*○が付くと 1 点

(1) 子どもの考え方との相違（表 15、16）

表 15 遊ぶ環境の問題点（子ども調査）

	当てはまらない	当てはまる	合計
外遊びできる時間が少ない	22	12	34
%	64.7	35.3	100.0
自由に遊べる場所が少ない	28	6	34
%	82.4	17.6	100.0
ボール遊びなどができる場所が少ない	24	10	34
%	70.6	29.4	100.0
同年代の友達が少ない	31	3	34
%	91.2	8.8	100.0
親子で遊ぶ機会が少ない	28	6	34
%	82.4	17.6	100.0
寝転んだりできる場所（芝生広場）などがない	19	15	34
%	55.9	44.1	100.0
雨の日でも遊べる場所が少ない	16	18	34
%	47.1	52.9	100.0
遊具などが古くて危ない	26	8	34
%	76.5	23.5	100.0
外で遊ぶのは危ない	34	0	34
%	100.0	0.0	100.0
その他	26	8	34
%	76.5	23.5	100.0

表 16 遊ぶ環境の変化

	当てはまらない	当てはまる	合計
外遊びできる時間が少なくなった	287	186	473
%	60.7	39.3	100.0
自由に遊べる場所が少なくなった	148	325	473
%	31.3	68.7	100.0
ボール遊びなどができる場所が少なくなった	170	303	473
%	35.9	64.1	100.0
同年代の友達が少なくなった	393	80	473
%	83.1	16.9	100.0
親子で遊ぶ機会が少なくなった	411	62	473
%	86.9	13.1	100.0
寝転んだりできる場所（芝生広場）などが少なくなった	316	157	473
%	66.8	33.2	100.0
雨の日でも遊べる場所が少ない	402	71	473
%	85.0	15.0	100.0
遊具などが古くて危ない	428	45	473
%	90.5	9.5	100.0
不審者などで危険が増加した	112	361	473
%	23.7	76.3	100.0
その他	443	30	473
%	93.7	6.3	100.0

【ポイント】

- ・ 「子ども」は、現在感じる問題点、「大人」は自分の子どもの頃と比較した変化を尋ねているため、直接的な比較は難しい。
- ・ 外遊びできる時間の減少、ボール遊びできる場所の減少、寝転んだりできる場所の減少は、共通した問題点となっている。
- ・ 「子ども」：「雨の日の遊び場が少ない」「遊具が古くて危険」と感じている。
- ・ 「大人」：「自由に遊べる場所が少なくなった」と感じているが、これは「ボール遊び」に代表されるような、公園の利用制限の増加とも重なっている。
- ・ 「大人」：「不審者などで危険が増加した」と感じていることである。このことは、様々な社会問題のみならず、戸田市における「治安」の問題とも関連しているはずである。「安全」な空間を担保しつつ、監視になりすぎない程度に「自由な空間」を創出するという難しい課題が浮かび上がってくる。

(2) グループ別の偏差値による比較（表 17、図 13～16）

【特徴的な点】

- ・ 基本的に、自分の子どもの頃との比較であるため、40 代以上の方が、「少なくなった」を感じる傾向にある（ただし、「遊具の老朽化」など施設、「不審者」などは除く）。
- ・ 子どもが「10～15 歳」の場合、「ボール遊びなどできる場所が少なくなった」と感じて

おり、これは親の年代を問わない傾向にある。

- ・ 子どもが「9歳以下」の場合、「寝転んだりできる場所（芝生広場）などが少なくなった」、「雨の日でも遊べる場所が少ない」と感じており、これも親の年代を問わない傾向にある。

【ポイント・示唆されること】

- ・ 何を問題とするかは、子どもの年齢に依存する傾向がある。
- ・ 新たな空間を創出する際には、どのような利用者を想定としているのか、周辺の子どもの年齢および将来予測を明確にする必要がある。
- ・ たとえば、「寝転んだりできる場所（芝生広場）」を設け、かつ利用時間帯を区分する、あるいは利用空間を分離するなどして「ボール遊びができる空間」を提供すれば、子どもの成長段階に応じた幅広い層の利用が見込まれるのかもしれない。
- ・ これらは、「ボール公園」に対するニーズの強さを物語っている。

表 17 遊ぶ環境の変化（偏差値）

	外遊びできる時間が少なくなった	自由に遊べるスペースが少なくなった	ボール遊びなどができる場所が少なくなった	同年代の友だちが少なくなった	親子で遊ぶ機会が少なくなった
20代・30代で子どもがいない	47.3	49.8	49.6	48.7	50.0
20代・30代で9歳以下	47.3	47.7	48.7	48.1	47.9
20代・30代で10-15歳	53.3	50.8	53.8	45.5	48.8
40代以上で子どもがいない	51.4	50.8	51.0	48.7	49.7
40代以上で9歳以下	50.0	48.3	50.2	51.6	47.9
40代以上で10-15歳	52.9	53.0	52.7	49.5	48.5
40代以上で16歳以上	51.2	50.0	49.4	52.4	51.8
平均値	0.39	0.69	0.64	0.17	0.13
標準偏差	0.49	0.47	0.48	0.38	0.33

	寝転んだりできる場所(芝生広場)などが少なくなった	雨の日でも遊べる場所が少ない	遊具などが老朽化していて危ない	不審者などで危険が増した
20代・30代で子どもがいない	49.6	47.5	50.7	50.0
20代・30代で9歳以下	52.3	52.8	51.0	51.7
20代・30代で10-15歳	50.6	50.8	46.6	49.1
40代以上で子どもがいない	51.3	48.0	50.7	46.9
40代以上で9歳以下	52.5	54.7	47.6	51.7
40代以上で10-15歳	48.3	50.6	49.3	51.4
40代以上で16歳以上	48.7	49.4	49.7	49.5
平均値	0.33	0.15	0.10	0.77
標準偏差	0.47	0.36	0.30	0.42

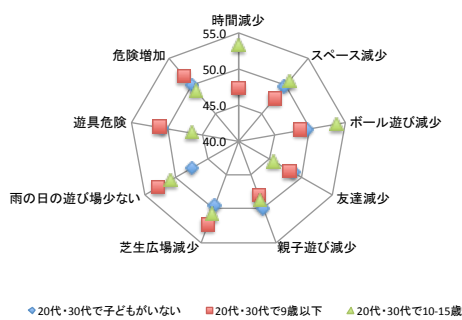


図 13 遊ぶ環境の変化 (20代・30代)

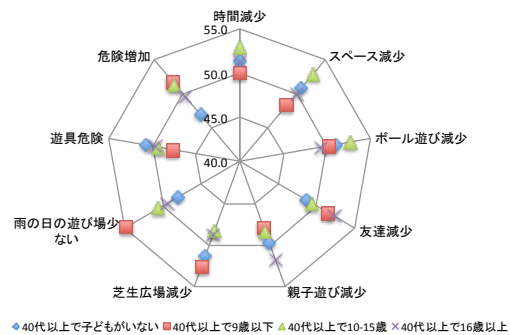


図 14 遊ぶ環境の変化 (40代以上)

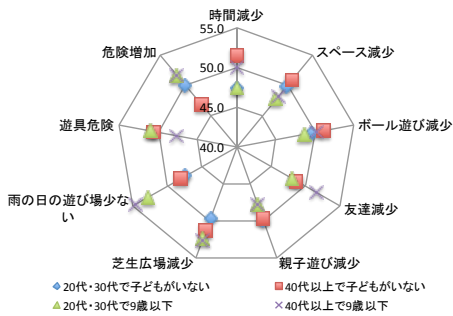


図 15 遊ぶ環境の変化 (9歳以下)

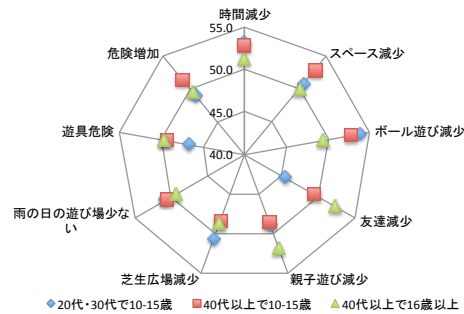


図 16 遊ぶ環境の変化 (10歳以上)

### 3-5. 放課後など学校以外の子どもの居場所

問 15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの 1つ に○をつけてください (小学生のお子さんがある人のみ)

\* 「なし」を0点、週に1日を1点、以降順に加算し、ほぼ毎日を5点として算出。

#### (1) 子どもの考え方との相違 (表 18、19)

##### 【特徴的な点】

- ・ 「放課後など学校以外の子どもの居場所」は、「子ども」と「大人」の回答で大きな差異は見られない。
- ・ この点は、「大人」が「子ども」の行動を把握していることを意味している。
- ・ 「自宅」「塾・習い事」「友達の家」といった屋内にいる以外の居場所としては、「公園」が重要な位置を占めている。

##### 【ポイント・示唆されること】

- ・ 3-4. と照らしても「外遊びの環境」整備が重要となることが理解できる。それは、子

子どもが外遊びをしなくなったということだけではなく、子どもを外遊びに誘引する何か  
が失われたことを示唆している。

表 18 放課後など学校以外の居場所（子ども調査）

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	ほぼ毎日	合計
公園	8	9	9	3	1	1	31
%	25.8	29.0	29.0	9.7	3.2	3.2	100.0
学童保育室	31	0	0	0	0	0	31
%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
塾・習い事	3	7	12	6	2	3	33
%	9.1	21.2	36.4	18.2	6.1	9.1	100.0
自宅	2	7	3	2	5	14	33
%	6.1	21.2	9.1	6.1	15.2	42.4	100.0
友達の家	15	7	5	2	0	2	31
%	48.4	22.6	16.1	6.5	0.0	6.5	100.0
学校	21	6	1	1	0	2	31
%	67.7	19.4	3.2	3.2	0.0	6.5	100.0
児童センター・公民館	20	8	2	0	0	0	30
%	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	100.0

表 19 放課後など学校以外の子どもの居場所

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	ほぼ毎日	合計
公園	35	42	42	15	6	2	142
%	24.6	29.6	29.6	10.6	4.2	1.4	100.0
学童保育室	111	3	3	4	15	2	138
%	80.4	2.2	2.2	2.9	10.9	1.4	100.0
塾・習い事	27	33	59	16	8	4	147
%	18.4	22.4	40.1	10.9	5.4	2.7	100.0
自宅	8	22	40	30	8	37	145
%	5.5	15.2	27.6	20.7	5.5	25.5	100.0
友達の家	64	58	15	3	2	0	142
%	45.1	40.8	10.6	2.1	1.4	0.0	100.0
学校	92	27	8	7	4	2	140
%	65.7	19.3	5.7	5.0	2.9	1.4	100.0
児童センター・公民館	112	20	8	0	0	0	140
%	80.0	14.3	5.7	0.0	0.0	0.0	100.0

(2) グループ別の偏差値による比較（表 20、図 17）

【特徴的な点】

- ・ 「公園」：20代・30代>40代以上
- ・ 「学童保育室」：40代以上で子どもが10~15歳の場合、少ない傾向
- ・ 「塾・習い事」：40代以上>20代・30代
- ・ 「自宅」：子どもが9歳以下は、少ない傾向
- ・ 「友達の家」：子どもが10~15歳>9歳以下



- ・ 「学校」：子どもが10～15歳 > 9歳以下
- ・ 「児童センター」：20代・30代で子どもが10～15歳の場合、多い傾向。

【ポイント・示唆されること】

- ・ 親の年代に左右される空間... 「公園」「塾・習い事」
- ・ 子どもの年齢に左右される空間... 「自宅」「友達の家」「学校」
- ・ 「公園」の整備：「遊ぶ環境の変化」と重ねるならば、子どもの年齢に応じた整備を検討する必要がある。
- ・ 「学童保育室」：小学校4年生まで引き上げたのが2014年度であることを踏まえるならば、その引き上げの効果は見て取れる。

表 20 放課後など学校以外の子どもの居場所

	公園	学童保育室	塾・習い事	自宅	友達の家	学校	児童センター
20代・30代で9歳以下	54.0	51.9	44.3	45.7	46.8	45.2	49.0
20代・30代で10-15歳	53.6	53.9	46.5	57.7	55.3	56.1	58.2
40代以上で9歳以下	50.8	52.8	52.0	45.5	43.5	45.0	47.9
40代以上で10-15歳	41.6	41.4	57.2	51.1	54.4	53.7	44.8
平均値	1.40	0.64	1.73	3.08	0.72	0.67	0.33
標準偏差	0.44	0.65	0.47	1.19	0.33	0.55	0.55

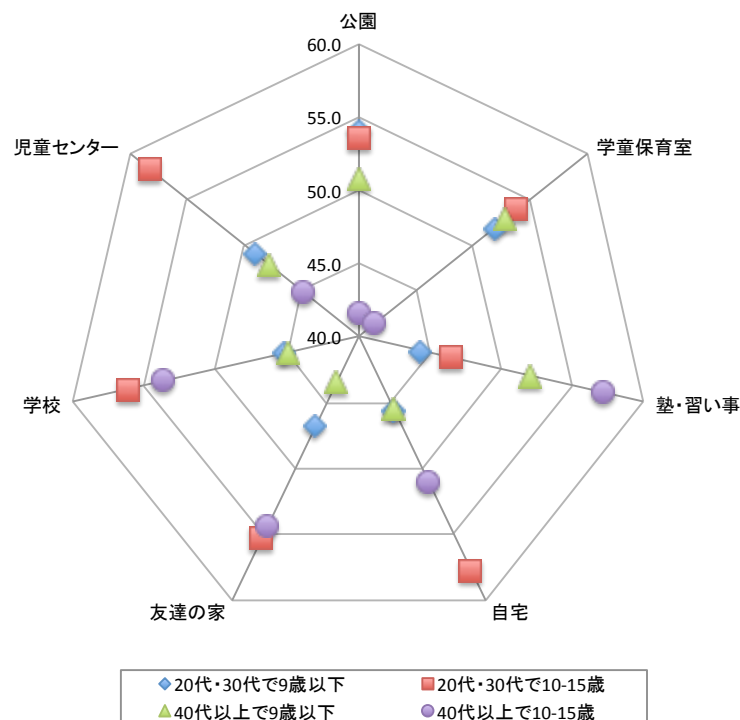


図 17 放課後など学校以外の子どもの居場所

#### 4. 終わりに

本調査から得られた知見に対する、補助線は、1996年の『環境白書』の「遊びの時間と場所」への言及に見出すことが出来る。そこでは、都市化による空間的再編成と情報化という問題が指摘されている。前者は、「遊び場」の減少それ自体を問題とし、1970年代前後には高度経済成長、1990年代前後には地価の高騰を要因として「遊び場」が都市の中から消失したことが示され、「遊び場」の必要性を提示している。だが、ここで重要なことは、**子どもが外で遊びたいと欲しなければその訴えは無力である**、ということである。後者はその点に照準し、情報化社会の到来によるTVやTVゲームの普及、少子化に伴う集団遊びの減少、学歴社会に関連しての受験戦争や塾通いなどによる生活の変容から、**子どもを屋外へ誘引する動機が失われ、屋内遊びが増加した**と指摘し、子どもたちを外へ誘引する何かの必要性を論じている。

さらに、3-4.とも関連するが、内閣府による「体力・スポーツに関する世論調査」では「自分の子どもときと比較して、今の子どものスポーツや外遊びの環境が悪くなった理由」について、1979年以降、**場所よりも時間の欠如**を回答する割合が高くなっていったが、1997年調査で「子どもが自由に遊べる空き地や生活道路が少なくなった」を挙げた者の割合が71.6%と最も高く、以下「スポーツや外遊びができる時間が少なくなった」(49.5%)、「スポーツや外遊びをする仲間(友達)が少ない」(44.3%)と**場所への関心**が逆転した。また、2009年に東京都が行った「スポーツ・運動に関する世論調査」では、「子供のスポーツや遊びの環境を充実させるために必要なこと」を尋ねており、その結果、「子供が体を動かしたくなる場の充実(校庭芝生化)など」が54.5%と最も高い回答結果となっていたことから理解できる。戸田市の現状も、このような社会変化を反映している。

高久(2014)でも指摘したように、1990年代後半から芽生えた都市の中の「子ども」をめぐる問題意識は、ただ単に「遊び空間」の整備を求めるのではなく、「**遊び空間**」の質の重要性を認識させている。それは、とりわけ都市部において生じた**子どもたちが身体を動かしたくなるような空間の創出に対する市民の欲望**と言い換えることができる。そのためにも、「子ども」と彼/彼女らをまなざす「大人」という構図のみならず、「大人」の多様性も射程に収め、新たな空間の「意味」を共有する「場」を設け、合意形成を図っていくことが強く求められている。それは、「〇〇が善い」と聞いたから戸田市でも、という動きではなく、<今-ここ>の戸田市が抱えている問題やニーズと改めて向き合うことの必要性を意味している。

#### 【参考文献】

環境省、『環境白書』1996年版。

草森紳一、1975、『子供の場所』晶文社。

松木洋人、2013、『子育て支援の社会学』新泉社。

内閣府, 「体力・スポーツに関する世論調査」各年版.

高久聡司, 2014, 『子どものいない校庭：都市戦略にゆらぐ学校空間』勁草書房.

東京都生活文化スポーツ局の報道発表 (2009年10月1日) 「「スポーツ・運動に関する世論調査」結果」(<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2009/10/60ja1100.htm> 最終アクセス日 2012年2月14日 \*現在は閲覧できない)

## 第9章 地区別にみた子どもの居場所

### 1. はじめに

第7章では、子どもの外遊びに限定した分析、第8章では、①子どもを対象とした調査を用いて、大人の考えと子どもの考えの齟齬、②親の年代と子どもの年齢とを掛け合わせたグループを用いた、大人の価値観の齟齬に焦点を置いて、「子どもの居場所」を検討してきた。以上の分析から浮かび上がったのは、「ボール遊びのできる場所」「雨の日でも遊べる場所」「寝転んだりできる芝生広場」などに対するニーズであった。だが、これらのニーズがあるとはいえ、場所を設置するのは、具体的な空間が必要となる。そうであるならば、その空間の周囲に生活する人々がどのように反応するのかを見極めなければ、「子ども」をめぐる価値観の対立が生じてしまう。たとえ「子どものため」の空間であっても、大人の「生活環境を優先する論理」の前には、問題のある空間として異議申し立てが生じることは、近年の「公園」をめぐる社会問題からも理解できるだろう。

そこで、本章では、居住地区ごとにみた公園や子どもの居場所に対する価値観の差異を理解し、どのような場所に、どのような空間を創出するのが戸田市において望まれているのかの一端を明らかにし、今後の政策展開に寄与することを目的としたい。

### 2. 居住地区ごとにみる「公園に設置して欲しい遊具」

表1は、居住地区と「公園に設置して欲しい遊具」のクロス表である。各地区において設置して欲しいとされる遊具の割合が行パーセントで示されている。本節では、以下の9つの項目のうち、「設置して欲しい」という回答が10%を越える、「滑り台」「ブランコ」「高齢者向けの健康遊具」「特に必要な遊具はない」の4つに着目し、地区ごとの特徴を探ることとする。

まず、最も回答の割合の高い「特に必要な遊具はない」(21.4%)に着目すると、全体の21.4%よりも高い結果を示しているのは、「新曽地区」「笹目地区」「美女木地区」の3つである。次に、「高齢者向けの健康遊具」については、全体の結果が19.6%であるのに対して、全体的に大きな差はないものの、全体の結果を上回るのは笹目地区の24.7%であった。この「高齢者向けの健康遊具」に対する結果は、公園が決して「子どものため」の空間ではなく、文字通り、誰にでも開かれた空間であることを意味している。すなわち、公園を「子どものため」の空間として安易に捉えてしまうと、別の世代からの異議申し立てが生じうるという現実をこの結果は示している。

次いで、「ブランコ」は、全体で16.9%であり、その結果を上回るのは上戸田地区(21.1%)、笹目地区(20.2%)の2つであった。一方で、美女木地区では8.5%と他の地区と大きな差が見られる。最後に、「滑り台」については、全体の結果が15.9%であるが、ここでは美女木地区が21.3%と他の地区よりも高いニーズを示している。

以上の結果から、地区の特徴を引き出すことは難しいが、地区によって、望ましいとさ

れる遊具には差異が見られることは読み取れる。それは、現状の公園に設置されている遊具との関係があるのかもしれないが、新しい空間を設置する際に、「誰が使うのか」「使う人たちは何を求めているのか」は、一定ではない、という「当たり前」の現実を示唆している。

表 1 居住地区と「公園に設置して欲しい遊具」のクロス表

	砂場	滑り台	鉄棒	ブランコ	ジャングルジム	高齢者向けの健康遊具	その他	特に必要な遊具はない	合計
下戸田地区	12	36	20	29	17	39	6	42	201
%	6.0%	17.9%	10.0%	14.4%	8.5%	19.4%	3.0%	20.9%	100.0%
上戸田地区	13	25	14	34	12	29	8	26	161
%	8.1%	15.5%	8.7%	21.1%	7.5%	18.0%	5.0%	16.1%	100.0%
新曽地区	7	16	13	21	9	24	6	33	129
%	5.4%	12.4%	10.1%	16.3%	7.0%	18.6%	4.7%	25.6%	100.0%
笹目地区	4	13	3	18	4	22	5	20	89
%	4.5%	14.6%	3.4%	20.2%	4.5%	24.7%	5.6%	22.5%	100.0%
美女木地区	1	10	3	4	3	9	4	13	47
%	2.1%	21.3%	6.4%	8.5%	6.4%	19.1%	8.5%	27.7%	100.0%
合計	37	100	53	106	45	123	29	134	627
%	5.9%	15.9%	8.5%	16.9%	7.2%	19.6%	4.6%	21.4%	100.0%

### 3. 居住地区ごとにみる「公園利用に対する考え方」

本節では、「公園利用に対する考え方」を居住地区ごとに見て行く。結論を先取りすれば、地区と考え方との間に有意な関連が見られたのは、「子どもの声が騒がしいので、ある程度利用制限を設けるべき」のみであった。この「子どもの声の騒音」問題は、戸田市に限らず、近年、至る所で社会問題化されていることもあり、今後の戸田市の空間づくりにおいてもきわめて重要な問題であると考えられる。以下、順に見て行こう。

表 2 居住地区と公園利用に対する考え方（自由に遊ぶべき）のクロス表

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	合計
下戸田地区	107	91	7	1	206
%	51.9%	44.2%	3.4%	0.5%	100.0%
上戸田地区	90	64	7	2	163
%	55.2%	39.3%	4.3%	1.2%	100.0%
新曽地区	82	43	6	3	134
%	61.2%	32.1%	4.5%	2.2%	100.0%
笹目地区	59	31	4	2	96
%	61.5%	32.3%	4.2%	2.1%	100.0%
美女木地区	29	18	3	0	50
%	58.0%	36.0%	6.0%	0.0%	100.0%
合計	367	247	27	8	649
%	56.5%	38.1%	4.2%	1.2%	100.0%

p=0.621

表 2 は、居住地区と公園利用に対する考え方のうち、「自由に遊ぶべき」と回答した人

のクロス表である。結果的に見れば、「自由に遊ぶべき」という回答は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせると肯定的な考え方が、全体では90%を越える。地区別にみても、5つの地区のすべてが90%を越えるように、基本的に公園では子どもたちは「自由に遊ぶべきだ」と考えられていることがわかる。

だが、この結果のみで、大人の考えが統一されていると理解するのは早計である。なぜならば、8章でも見たように「自由に遊ぶべきだ」と基本的には捉えていても、利用制限についての価値観は、異なる結果を生んでしまうためである。続けてみてみよう。

表3 居住地区と公園利用に対する考え方（ケガをすると危ないのである程度の利用制限を設けるべき）のクロス表

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	合計
下戸田地区	21	93	53	37	204
%	10.3%	45.6%	26.0%	18.1%	100.0%
上戸田地区	17	62	60	24	163
%	10.4%	38.0%	36.8%	14.7%	100.0%
新曽地区	17	57	42	17	133
%	12.8%	42.9%	31.6%	12.8%	100.0%
笹目地区	12	34	31	18	95
%	12.6%	35.8%	32.6%	18.9%	100.0%
美女木地区	5	26	12	8	51
%	9.8%	51.0%	23.5%	15.7%	100.0%
合計	72	272	198	104	646
%	11.1%	42.1%	30.7%	16.1%	100.0%

p=0.574

表3は、居住地区と公園利用に対する考え方のうち、「ケガをすると危ないので、ある程度の利用制限を設けるべき」と回答した人のクロス表である。全体の結果を見ると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が53.2%となっており、利用制限を設けるべきかどうかは、価値観がほぼ2つに対立していると言える。それは、地区ごとに見てもほぼ同様の結果となっている。

表4は、居住地区と公園利用に対する考え方のうち、「子どもの声が騒がしいので、ある程度の利用制限を設けるべき」と回答した人のクロス表である。全体では、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と制限に同意する回答は22.9%であり、子どもの声に対しては基本的には寛容であることが理解できる。

だが、地区ごとに見てみると、美女木地区では、制限に同意する回答が32.0%と全体の結果を上回っている。このように、基本的には「子どもは自由に遊ぶべきだ」とみなしていても、条件によっては「子どもの自由を制限する」価値観が浮かび上がってくることが重要である。私たちは、「子どものため」と聞くと、どこか首肯する傾向にある。だが、そ

れは、きわめて不安定であるという現実に向き合う必要がある。たとえ、「子どものため」であってもその論理が跳ね返されてしまう可能性をどのように排除して行くのか、理解してもらおうのかを慎重に考えて行くことが、「子どものための居場所づくり」には求められている。

表 4 居住地区と公園利用に対する考え方（子どもの声が騒がしいのである程度の利用制限を設けるべき）のクロス表

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	合計
下戸田地区	5	27	85	85	202
%	2.5%	13.4%	42.1%	42.1%	100.0%
上戸田地区	6	38	71	49	164
%	3.7%	23.2%	43.3%	29.9%	100.0%
新曽地区	6	25	59	43	133
%	4.5%	18.8%	44.4%	32.3%	100.0%
笹目地区	4	20	33	38	95
%	4.2%	21.1%	34.7%	40.0%	100.0%
美女木地区	0	16	13	21	50
%	0.0%	32.0%	26.0%	42.0%	100.0%
合計	21	126	261	236	644
%	3.3%	19.6%	40.5%	36.6%	100.0%

p=0.044

表 5 居住地区と公園利用に対する考え方（子どもだけで遊ばない方がよい）のクロス表

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	合計
下戸田地区	29	66	59	52	206
%	14.1%	32.0%	28.6%	25.2%	100.0%
上戸田地区	19	57	51	36	163
%	11.7%	35.0%	31.3%	22.1%	100.0%
新曽地区	17	46	47	24	134
%	12.7%	34.3%	35.1%	17.9%	100.0%
笹目地区	15	38	25	17	95
%	15.8%	40.0%	26.3%	17.9%	100.0%
美女木地区	6	19	14	11	50
%	12.0%	38.0%	28.0%	22.0%	100.0%
合計	86	226	196	140	648
%	13.3%	34.9%	30.2%	21.6%	100.0%

p=0.865

表 5 は、居住地区と公園利用に対する考え方のうち、「子どもだけでは遊ばない方がよい」と回答した人のクロス表である。ここからも「子どもは自由に遊ぶべき」という価値

観と「子どもだけでは遊ばない方がよい」という価値観が併存していることが読み取れる。それは、居住地区を問わず、むしろ一定している。私たちは、子どもの外遊びの低下を問題化することがあるが、子どもが外遊びに魅力を感じない空間を創りだしてきた責任が、大人の価値観の対立を回避するようにして創らざるをえない現実にあるのかもしれない。そのことを向き合い、今後の「子どもの居場所」という問題を考えて行く必要があるだろう。

#### 4. 居住地区ごとにみる「学校以外の時間帯の子どもの居場所」

前章までで、戸田市で生活する大人からみても、子どもからみても「ボール遊びのできる空間」「雨の日でも使える空間」「寝転んだりできる芝生広場」に対するニーズが高いことは確認できた。これらの結果から、上記の機能を有する空間を創出することが戸田市の「住みやすさ」を高めると考えることもできる。だが、そのためには、当の子どもたちが現在、どのような場所で過ごしているのか＝居場所を理解する必要があるだろう。なぜならば、全体的な結果とは別に、公園などに対するニーズが生活する空間において合致していないのであれば、異議申し立ての温床となりかねないためである。以下、地区ごとに学校以外の時間帯（放課後など）で、子どもがどこで過ごしているかという回答をみていく。結論的に言えば、地区と居場所の間に有意な関連がみられたのは「公園」「児童センター」の2つであった。尚、この設問への回答は小学校の子どもがいる人のみを対象としているため、回答者の総数は146人となっている（項目によって無回答のケースがあるため、その数は前後している）。

表6 居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所（公園）のクロス表

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	ほぼ毎日	合計
下戸田地区	9	15	7	4	1	0	36
%	25.0%	41.7%	19.4%	11.1%	2.8%	0.0%	100.0%
上戸田地区	8	9	16	2	1	1	37
%	21.6%	24.3%	43.2%	5.4%	2.7%	2.7%	100.0%
新曽地区	13	12	5	1	2	0	33
%	39.4%	36.4%	15.2%	3.0%	6.1%	0.0%	100.0%
笹目地区	3	4	12	3	2	0	24
%	12.5%	16.7%	50.0%	12.5%	8.3%	0.0%	100.0%
美女木地区	2	1	2	5	0	1	11
%	18.2%	9.1%	18.2%	45.5%	0.0%	9.1%	100.0%
合計	35	41	42	15	6	2	141
%	24.8%	29.1%	29.8%	10.6%	4.3%	1.4%	100.0%

p=0.002

表6は、居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所のうち、「公園」と回答した人のクロス表である。先にも示したが、この結果は、地区によって有意な差が見られる。具体的には、笹目地区と美女木地区では、他の地区よりも学校外の時間帯に子どもが「公園」



で過ごしていることが多い傾向にあると言える。ここから、他の地区では、子どもを「公園」に誘引したいニーズがあるのかどうか、笹目地区と美女木地区では「公園」で子どもたちが遊ぶにしても、改善点はないのかを考えて行くことが求められると言えるだろう。

表 7 居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所（学童保育室）のクロス表

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	ほぼ毎日	合計
下戸田地区	28	2	1	3	2	0	36
%	77.8%	5.6%	2.8%	8.3%	5.6%	0.0%	100.0%
上戸田地区	34	0	0	0	3	0	37
%	91.9%	0.0%	0.0%	0.0%	8.1%	0.0%	100.0%
新曽地区	24	0	1	1	4	1	31
%	77.4%	0.0%	3.2%	3.2%	12.9%	3.2%	100.0%
笹目地区	16	1	1	0	4	1	23
%	69.6%	4.3%	4.3%	0.0%	17.4%	4.3%	100.0%
美女木地区	8	0	0	0	2	0	10
%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%
合計	110	3	3	4	15	2	137
%	80.3%	2.2%	2.2%	2.9%	10.9%	1.5%	100.0%

p=0.547

表 7 は、居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所のうち、「学童保育室」と回答した人のクロス表である。この結果からも理解できるように、全体的には学童保育室を利用していないと答えた人は全体の 80%を示している。もちろん、小学生のすべてが学童保育室の対象ではないため、この数字がそのまま学童保育室の利用率を示しているわけでは内転には注意が必要である。しかし、上戸田地区では 91.9%が「なし」と回答している点は、その背景も含めて、精査が必要だと思われる。

表 8 居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所（塾・習い事）のクロス表

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	ほぼ毎日	合計
下戸田地区	6	7	19	5	1	0	38
%	15.8%	18.4%	50.0%	13.2%	2.6%	0.0%	100.0%
上戸田地区	6	6	14	8	2	3	39
%	15.4%	15.4%	35.9%	20.5%	5.1%	7.7%	100.0%
新曽地区	5	9	15	2	3	0	34
%	14.7%	26.5%	44.1%	5.9%	8.8%	0.0%	100.0%
笹目地区	8	8	5	1	2	0	24
%	33.3%	33.3%	20.8%	4.2%	8.3%	0.0%	100.0%
美女木地区	2	2	6	0	0	1	11
%	18.2%	18.2%	54.5%	0.0%	0.0%	9.1%	100.0%
合計	27	32	59	16	8	4	146
%	18.5%	21.9%	40.4%	11.0%	5.5%	2.7%	100.0%

p=0.145

表 8 は、居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所のうち、「塾・習い事」と回答した

人のクロス表である。戸田市全体では、「塾・習い事」は、「週 2～3 日」が最も多い結果となった (40.4%)。しかし、地区ごとにみると、バラツキがあることも理解できる。

表 9 居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所（自宅）のクロス表

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	ほぼ毎日	合計
下戸田地区	3	8	12	8	1	7	39
%	7.7%	20.5%	30.8%	20.5%	2.6%	17.9%	100.0%
上戸田地区	1	7	12	5	2	11	38
%	2.6%	18.4%	31.6%	13.2%	5.3%	28.9%	100.0%
新曽地区	2	4	7	8	2	10	33
%	6.1%	12.1%	21.2%	24.2%	6.1%	30.3%	100.0%
笹目地区	1	1	9	5	1	6	23
%	4.3%	4.3%	39.1%	21.7%	4.3%	26.1%	100.0%
美女木地区	1	2	0	4	2	2	11
%	9.1%	18.2%	0.0%	36.4%	18.2%	18.2%	100.0%
合計	8	22	40	30	8	36	144
%	5.6%	15.3%	27.8%	20.8%	5.6%	25.0%	100.0%

p=0.639

表 9 は、居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所のうち、「自宅」とのクロス表である。この結果から理解できることは、戸田市の子どもたちは、学校外の時間帯を「自宅」で過ごすことが多い傾向にあるということである。

表 10 居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所（友だちの家）のクロス表

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	合計
下戸田地区	12	17	5	1	1	36
%	33.3%	47.2%	13.9%	2.8%	2.8%	100.0%
上戸田地区	16	17	4	0	0	37
%	43.2%	45.9%	10.8%	0.0%	0.0%	100.0%
新曽地区	15	13	3	2	0	33
%	45.5%	39.4%	9.1%	6.1%	0.0%	100.0%
笹目地区	13	7	3	0	1	24
%	54.2%	29.2%	12.5%	0.0%	4.2%	100.0%
美女木地区	7	4	0	0	0	11
%	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	63	58	15	3	2	141
%	44.7%	41.1%	10.6%	2.1%	1.4%	100.0%

p=0.712

表 10 は、居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所のうち、「友だちの家」とのクロス表である。この結果から理解できることは、表 10 で見たように戸田市の子どもたちは、学校外の時間帯を「自宅」で過ごすことが多い傾向にあるためか、「友だちの家」で過ごすことはあまり多くない、ということである。

表 11 居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所（学校）のクロス表

	なし	週に1日	週に2~3日	週に3~4日	週に4~5日	ほぼ毎日	合計
下戸田地区	21	11	0	2	0	1	35
%	60.0%	31.4%	0.0%	5.7%	0.0%	2.9%	100.0%
上戸田地区	28	5	1	0	1	1	36
%	77.8%	13.9%	2.8%	0.0%	2.8%	2.8%	100.0%
新曽地区	16	9	4	3	2	0	34
%	47.1%	26.5%	11.8%	8.8%	5.9%	0.0%	100.0%
笹目地区	18	2	3	1	0	0	24
%	75.0%	8.3%	12.5%	4.2%	0.0%	0.0%	100.0%
美女木地区	9	0	0	1	0	0	10
%	90.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	92	27	8	7	3	2	139
%	66.2%	19.4%	5.8%	5.0%	2.2%	1.4%	100.0%

p=0.119

表 11 は、居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所のうち、「学校」とのクロス表である。この結果から理解できることは、放課後等の時間帯は、「学校」で過ごすことはきわめて少ないということである。学校開放等へのニーズがどれほどあるのかという点を今後掘り下げてみると、学童保育室とは異なる空間として「学校」を位置づけていくこともできる可能性がある。

表 12 居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所（児童センター）のクロス表

	なし	週に1日	週に2~3日	合計
下戸田地区	29	5	2	36
%	80.6%	13.9%	5.6%	100.0%
上戸田地区	37	0	0	37
%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
新曽地区	25	6	1	32
%	78.1%	18.8%	3.1%	100.0%
笹目地区	12	7	5	24
%	50.0%	29.2%	20.8%	100.0%
美女木地区	9	1	0	10
%	90.0%	10.0%	0.0%	100.0%
合計	112	19	8	139
%	80.6%	13.7%	5.8%	100.0%

p=0.001

表 12 は、居住地区と学校外の時間帯の子どもの居場所のうち、「児童センター」とのクロス表である。「児童センター」の利用率は、きわめて少ないことが全体でみた時に、80.6%が「なし」と回答していることから理解できる。だが、笹目地区の結果を見る限り、戸田市立児童センター「プリムローズ」は、周辺の「子どもの居場所」として十分に機能し

ていることが読み取れる。

## 5. 本章および報告書全体のまとめ

本章では、「子どもの居場所」を地区ごとにみてきた。その結果から、浮かび上がるのは、戸田市内において、各地区の特性に応じた空間づくりが求められているという現実である。たとえば、「公園」であれば、「ボール遊びができる公園」に対するニーズが強いとしても、子どもの声を騒がしいとする傾向が高い地区とそうではない地区とで同じ手続きでその空間を創出しても、結果的に問題化される可能性もある。本章の分析から得られた知見は、そういった問題の可能性を予測し、潜在的な可能性を顕在化させないための手続きを構築するための視座を提供するところにあった。

また、学校以外の時間帯の「子どもの居場所」についても同様である。結果的にみれば、「自宅」で過ごす割合が大きかったが、この結果は、「外遊び」をする空間がないためなのか、それとも「外遊び」をするための空間に魅力がないためなのかを考えなければならぬ。これらの現実には、空間を提供することだけではなく、いかにして、ニーズのある空間を創出するかを十分に検討することの重要性を示している。

以上を踏まえ、本報告書全体から読み取れる今後の戸田市の「子どもの居場所」づくりへの提言をして稿を締めたい。要点は大別して3つある。第一に、「子ども」という対象に対する施策は、一見すれば反対は少ないように見えるが、「子どもの年齢」や「親の年齢」に基づく価値観の異同を理解する必要があるという点である。漠然と「子ども」と言っている限りでは見えてこない、それぞれの「子ども観」の対立は、ある時には「善い」とされた施策であっても、あつという間に「否定」してしまう。それは、「子どものため」という論理に巧みに「大人の価値観」を忍び込ませているため、問題化されるまではなかなか認識できない。本調査で、幅広い世代を調査対象としたのは、そのさまざまな価値観を捉えるためである。

第二に、「子どもの居場所」として、「自由に遊べる空間」へのニーズが高いことである。それは、「ボール遊び公園」「芝生広場」などであり、「雨天時に使える空間」へのニーズの高さからも理解できるだろう。だが、重要なことは、大人は、子どもが「自由に遊べること」を望ましいと捉えつつも、「安全」を担保するという点である。それゆえに、「自由に遊ぶこと」への回答の高さと「利用制限」への回答の高さは共存しているのである。ニーズが高いからといって、何も問題が起きないわけではない、という「子どもの居場所」をめぐる課題の大きさを示している。

第三に、「子どもの居場所」へのニーズは、所与の条件として置かれる地理的条件、すなわち「地区」によっても大きく異なるという点である。スペースがあることとそれが望ましいとされるかどうかは齟齬をきたす可能性がある。本調査の結果は、その現実を示している。

以上より導かれることは、戸田市の「子どもの居場所」を考えるにあたって、ソフト面

では、戸田市内の多様性——年代、地区、などによる価値観の多様性、ニーズの多様性を十分に考慮に入れていくための「場」を構築することが重要である、ということである。そういった「場」での議論を踏まえて、ハード面でニーズの高い空間を生み出していくこと、そして、ソフト面での議論とハード面の展開を循環させていくことであろう。それは、「望ましさ」は、常に不安定であるためである。本調査の結果は、今度の戸田市の施策づくりの基礎的データとして位置づけるならば、この結果をもとにインタビュー調査を行い、論点を抽出していくこと、あるいは本調査の中の一部に限定し、より内容を掘り下げたアンケート調査を行っていくための一つの視座を提示している、と信じたい。



# 資料

# 「子どもの居場所等に関する研究調査」 ご協力をお願い

日頃から市政に対しましてご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

戸田市政策研究所は、市政に関する総合的な調査研究を行うことを目的に設置されている機関です。

今年度、本研究所では、子どもが屋外で遊ぶことの重要性を念頭に置いた上で、戸田市の実情に即した子どもの居場所とは何かを研究しております。この調査は、戸田市にお住まいの20歳以上70歳未満の方の中から、1,500人を無作為に選んでお願いしているところです。

ご多用のところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひアンケートにお答えくださいますよう、お願いいたします。

なお、このアンケートに関して個人の意見が公表されることは一切ありません。ぜひ率直なご意見をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成26年8月

戸田市政策研究所長 山田 一彦

## ◆ご記入の前に◆

### 1 回答のしかた

- ・この調査票は、封筒宛名のご本人がご記入ください。
- ・質問は全部で26問です。各質問の説明に従って、回答欄にご記入ください。筆記用具の種類は問いません。
- ・1つの世帯に複数の調査票が送付される場合があります。その場合も、封筒宛名のご本人がそれぞれご記入ください。

### 2 返送のしかた

回答が済みましたら、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、

8月 日( )までに投函してください。封筒や調査票に住所・氏名を記入する必要はありません。

### 3 問合せ

〒335-8588 戸田市上戸田1-18-1

戸田市役所 戸田市政策研究所

電話 048-441-1800 (内線470)

FAX 048-431-6790

E-mail [seisaku@city.toda.saitama.jp](mailto:seisaku@city.toda.saitama.jp)

なお、この調査結果につきましては、戸田市ホームページ等で概要を公表する予定です。



## I. 戸田市での生活についてお尋ねします。

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 子どもの入学・進学	2. 親との同居・近居	3. 職業上の理由 (就転職・退職など)
4. 結婚・離婚	5. 経済的な理由	6. 生活環境上の理由 (教育環境など)
7. 通勤通学の便	8. 生まれてからずっと住んでいる	9. その他 ( )

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 子どもの入学・進学	2. 親との同居・近居	3. 職業上の理由 (就転職・退職など)
4. 結婚・離婚	5. 経済的な理由	6. 生活環境上の理由 (教育環境など)
7. 通勤通学の便	8. 引っ越す予定はない	9. その他 ( )

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

	よく利用する	ときどき 利用する	ほとんど 利用しない	まったく 利用しない
a. テレビ・ラジオ・新聞	1	2	3	4
b. 戸田市の広報紙	1	2	3	4
c. フリーペーパーなどの地域情報誌	1	2	3	4
d. 戸田市のホームページ	1	2	3	4
e. SNS (Facebook など)	1	2	3	4
f. 友人などの口コミ	1	2	3	4

問4 あなたは戸田市の治安に対して不安に思うことはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 犯罪 (空き巣・ピッキング・車上荒らしなど)	2. 警察署がない	3. 街灯が少ない
4. 近隣との関わりがない	5. 不安はない	6. その他 ( )

## II. 戸田市内の公園に関する希望や利用形態についてお尋ねします。

問5 公園の利用などについてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
a. 自由に遊ぶことができた方がよい	1	2	3	4
b. ケガをすると危ないので、ある程度 の利用制限を設けるべき	1	2	3	4
c. 子どもの声が騒がしいので、ある 程度の利用制限を設けるべき	1	2	3	4
d. 子どもだけで遊ばない方がよい	1	2	3	4

問6 公園に一番設置して欲しい遊具は何ですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 砂場	2. 滑り台	3. 鉄棒
4. ブランコ	5. ジャングルジム	6. 高齢者向けの健康遊具
7. その他 ( )	8. 特に必要な遊具はない	

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. ケガをしないか	2. いじめられないか	3. 事件に巻き込まれないか
4. 他の人から迷惑を受けないか	5. 他の人に迷惑をかけないか	6. 不安はない
7. その他 ( )		

### Ⅲ. 戸田市で行っている学童保育室に関する希望や利用形態についてお尋ねします。

お子さんがいない方は、ご自分にお子さんがある場合を想定してお答えください。

問8 学童保育制度で最も優先的に充実すべき事は何だと思いますか。当てはまるもの1つに○をつけてください  
(学童保育制度とは、保護者などが就労などで、帰宅後も家に誰もいない小学生のための生活の場を支援する制度です)。

1. 1日の開室時間の延長 (午後7時までが開室)	2. 日曜・祝日の開室	3. 学童保育室の数	4. 民間の学童保育室の数
5. 指導員の質	6. 活動内容	7. おやつを提供	8. その他 ( )

問9 あなたはお子さんを学童保育に預けていますか(預けていましたか)。または預けたいと思いますか。

1. はい (→問12へ)	2. いいえ (→問13へ)
---------------	----------------

問10 問9で「1. はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける(預けた、預けたい)理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. カギを持たせるのが不安	2. きょうだいがいない	3. 子どもだけで家にいるのは危ない
4. 子どもだけで家にいるのは かわいそう	5. 勉強や宿題をして欲しい	6. 子どもが友だちと遊びたがっている
7. 親や親戚に預かってもらえない	8. 就労のため	9. その他 ( )

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 家から遠い	2. 時間が合わない	3. 指導員の対応	4. 乱暴な子の影響を受けないか
5. ケガをしないか	6. いじめに合わないか	7. 他の子にケガをさせないか	8. 他の子に迷惑をかけないか
9. 不安はない	10. その他 ( )		

問12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
a. 学童保育室に預けるのが望ましい	1	2	3	4
b. 知人・友人に預けるのが望ましい	1	2	3	4
c. 祖父母などの親類に預けるのが望ましい	1	2	3	4
d. 自宅で面倒をみるのが望ましい	1	2	3	4

### Ⅳ. 子どもの遊び空間と子どもについての考え方についてお尋ねします。

問13 あなたは、ご自身の子どもの頃と比較して、今の子どもの外遊びの環境はどのようになったと感じますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. よくなった	2. どちらかと言えばよくなった	3. 変わらない
4. どちらかと言えば悪くなった	5. 悪くなった	6. わからない

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 外遊びできる時間が少なくなった	2. 自由に遊べるスペースが少なくなった
3. ボール遊びなどができる場所が少なくなった	4. 同年代の友だちが少なくなった
5. 親子で遊ぶ機会が少なくなった	6. 寝転んだりできる場所（芝生広場）などが少なくなった
7. 雨の日でも遊べる場所が少ない	8. 遊具などが老朽化していて危ない
9. 不審者などで危険が増した	10. その他（ ）

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問18へ）。

	なし	週に1日	週に2～3日	週に3～4日	週に4～5日	ほぼ毎日
a. 公園	1	2	3	4	5	6
b. 学童保育室	1	2	3	4	5	6
c. 塾・習い事	1	2	3	4	5	6
d. 自宅	1	2	3	4	5	6
e. 友人の家	1	2	3	4	5	6
f. 学校	1	2	3	4	5	6
g. 児童センター・公民館	1	2	3	4	5	6
h. その他（ ）	1	2	3	4	5	6

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
a. 悪いことをしたら人前でも叱るべき	1	2	3	4
b. 親以外の人にも注意されて成長するものだ	1	2	3	4
c. 子どもは外で遊ぶべき	1	2	3	4
d. 子どもは自由に遊ぶスペースが必要だ	1	2	3	4
e. 子どもはケガをして成長するものだ	1	2	3	4
f. 学校が終わったらまっすぐ家に帰るべき	1	2	3	4
g. 夕焼けチャイムが鳴ったら家に帰るべき	1	2	3	4

**V. あなた自身のことについてお尋ねします。**

問17 あなたの性別を教えてください。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問18 あなたの年齢を教えてください。

歳
---

問 19 あなたが最後に通った学校について最も近いものを以下から選び、当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 大学・大学院	2. 短大・高専	3. 専門・各種学校
4. 高校	5. 中学	6. その他( )

問 20 あなたの現在の立場を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 正社員・正職員	2. 自営業・自由業	3. 契約社員・嘱託	4. 派遣社員
5. パート・アルバイト	6. 家族従業員	7. 会社経営・役員	8. 専業主婦(主夫)
9. 学生	10. 無職	11. その他( )	

問 21 現在、あなたに配偶者(夫または妻)はいらっしゃいますか。

1. いる 2. いない

問 22 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか(同居非同居問わず)。お子さんがいらっしゃる場合は、①9歳以下のお子さんの数、②10歳～15歳以下のお子さんの数、③16歳以上のお子さんの数を教えてください(お子さんがいらっしゃらない場合は、①、②、③に「0」と記入し、問 25 へ進んでください)。

①9歳以下のお子さんの数	人	うち、男子	人
②10～15歳以下のお子さんの数	人	うち、男子	人
③16歳以上のお子さんの数	人	うち、男子	人

問 23 現在のお住まいの地域を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 下戸田地区(喜沢、喜沢南、中町、下戸田、下前、川岸1・2丁目)
2. 上戸田地区(川岸3丁目、本町、南町、戸田公園、上戸田、大字上戸田)
3. 新曽地区(新曽南、氷川町、大字新曽)
4. 笹目地区(笹目南町、早瀬、笹目、笹目北町、大字下笹目)
5. 美女木地区(美女木、美女木東、大字美女木)

問 24 現在のお住まいは次のどれに当たりますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 一戸建て持ち家	2. 一戸建て賃貸	3. 分譲マンション	4. 民間の賃貸マンション
5. 民間のアパート	6. 公営住宅	7. 社宅・官舎・寮	

問 25 あなたは、2014 年 7 月時点で、戸田市に何年住んでいますか。6 ヶ月以上は切り上げてお  
答えください。

約  年

なお、6 ヶ月未満の場合は、「0」と記入してください。

問 26 最後に、子どもの遊び場や居場所に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入く  
ださい。

これでアンケートは終わりです。最後に、記入もれがないかどうかご確認いただき、返信用封筒に入れて、  
ご返送ください。お忙しい中、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

「遊び場所についての調査」 ご協力をお願い

この調査は、どの質問もあなたがどう思うかを答えるものです。正しい答えや間違った答えはありません。

人はそれぞれ考え方が違うので、一つの質問に、あなたの<sup>となり</sup>隣に座っている人は「はい」と思うかもしれませんが、あなたは「いいえ」と思うかもしれません。自分が思ったところに○をつけてください。

なお、問1から順に、質問の番号と答える場所をよく確かめて○をつけてください。

平成26年8月10日

担当

戸田市役所 戸田市政策研究所

電話 048-441-1800 (内線 470)

FAX 048-431-6790

E-mail [seisaku@city.toda.saitama.jp](mailto:seisaku@city.toda.saitama.jp)



ここから質問が始まります

I. 公園の利用についてお聞きします。

問1 公園の利用について、あなたはどのように思いますか。それぞれあてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
a. 自由に遊びたい	1	2	3	4
b. ケガをすると危ないので、ある 程度のルールが必要	1	2	3	4
c. 子どもだけで遊ばない方がよい	1	2	3	4

問2 公園にあなたはどんな遊具を一番設置してほしいですか。あてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

1. 砂場	2. 滑り台	3. 鉄棒
4. ブランコ	5. ジャングルジム	6. その他 ( )
7. 特に必要な遊具はない		

問3 公園で遊ぶことに、あなたは不安がありますか。あてはまるところすべてに、○をつけてください。

1. ケガをしないか	2. いじめられないか	3. 事件に巻き込まれないか
4. 他の人から迷惑を受けないか	5. 他の人に迷惑をかけないか	6. 不安はない
7. その他 ( )		

II. 遊び場所についてお聞きします。

問4 あなたは、遊び場所について不満はありますか。あてはまるところすべてに、○をつけてください。

1. 外遊びできる時間が少ない	2. 自由に遊べる場所が少ない
3. ボール遊びなどができる場所が少ない	4. 同年代の友だちが少ない
5. 親子で遊ぶ機会が少ない	6. 寝転んだりできる場所 (芝生広場) などが少ない
7. 雨の日でも遊べる場所が少ない	8. 遊具などが古くて危ない
9. 外で遊ぶのは危ない	10. その他 ( )

問5 あなたは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれあてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

	なし	週に1日	週に2～3日	週に3～4日	週に4～5日	ほぼ毎日
a. 公園	1	2	3	4	5	6
b. 学童保育室	1	2	3	4	5	6
c. 塾・習い事 <sup>じゅく</sup>	1	2	3	4	5	6
d. 自宅	1	2	3	4	5	6
e. 友だちの家	1	2	3	4	5	6
f. 学校	1	2	3	4	5	6
g. 児童センター・公民館	1	2	3	4	5	6
h. その他 ( )	1	2	3	4	5	6

Ⅲ. あなたのことについてお聞きします。

問6 あなたの性別を教えてください。

1. 男性    2. 女性

問7 あなたの住んでいる地域を教えてください。あてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

1. 下戸田地区 (喜沢、喜沢南、中町、下戸田、下前、川岸1・2丁目)
2. 上戸田地区 (川岸3丁目、本町、南町、戸田公園、上戸田、大字上戸田)
3. 新曽地区 (新曽南、氷川町、大字新曽)
4. 笹目地区 (笹目南町、早瀬、笹目、笹目北町、大字下笹目)
5. 美女木地区 (美女木、美女木東、大字美女木)

問8 遊び場所について、どう思いますか。自由に記入してください。

質問はここまでです。ありがとうございました。



## 単純集計表

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【子どもの入学・進学】

	度数	パーセント
当てはまらない	647	95.9
当てはまる	21	3.1
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【親との同居・近居】

	度数	パーセント
当てはまらない	562	83.3
当てはまる	106	15.7
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【職業上の理由（就転職・退職など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	537	79.6
当てはまる	131	19.4
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【結婚・離婚】

	度数	パーセント
当てはまらない	472	69.9
当てはまる	196	29.0
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【経済的な理由】

	度数	パーセント
当てはまらない	625	92.6
当てはまる	43	6.4
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【生活環境上の理由（教育環境など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	609	90.2
当てはまる	59	8.7
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【通勤通学の便】

	度数	パーセント
当てはまらない	520	77.0
当てはまる	148	21.9
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【生まれてからずっと住んでいる】

	度数	パーセント
当てはまらない	529	78.4
当てはまる	139	20.6
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	608	90.1
当てはまる	60	8.9
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【自由記述】

マンションが気に入った
マンション購入
マンション購入のため
一戸建てに住んでいるから
一戸建てを買った
駅に近い
家を買った
家購入の為
学生の頃、家の引っ越しで戸田へ
戸田中央病院の存在
荒川に近いマンションをさがした。
妻が戸田出身
子との近居
子どもの頃から
子どもの頃住んでいたから
子供が生まれて
社宅
社宅があったから
社宅入居の為
主人の転勤により
住居の購入
住宅購入の為
小さい頃からずっと住んでいる
新築物件があったから

親が戸田に家を買ったため
親が転居
親の引っ越し
親の仕事上
親の転勤
進学のため
生まれは戸田市
大学進学のため
適合マンションが建った為
転勤
転勤（家族の）
転校
土地を購入してあったため
東京から転居
同棲
彼との同居
不動産購入
夫の転勤
父の転勤により
保育園へのあずけやすさ

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【子どもの入学・進学】

	度数	パーセント
当てはまらない	644	95.4
当てはまる	29	4.3
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【親との同居・近居】

	度数	パーセント
当てはまらない	593	87.9
当てはまる	80	11.9
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【職業上の理由（就転職・退職など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	521	77.2
当てはまる	152	22.5
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【結婚・離婚】

	度数	パーセント
当てはまらない	593	87.9

当てはまる	80	11.9
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【経済的な理由】

	度数	パーセント
当てはまらない	599	88.7
当てはまる	74	11.0
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【生活環境上の理由（教育環境など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	575	85.2
当てはまる	98	14.5
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【通勤通学の便】

	度数	パーセント
当てはまらない	617	91.4
当てはまる	56	8.3
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【引っ越す予定はない】

	度数	パーセント
当てはまらない	373	55.3
当てはまる	300	44.4
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	643	95.3
当てはまる	30	4.4
無回答	2	0.3
合計	675	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【自由記述】

家族の転勤

区画整理
広い戸建てに住みたくなれば引っ越す。
子どもが増えたら部屋数の都合
子どもの結婚後
治安
自給自足
自宅購入
自分の持ち家が持てた時
自立
社宅へ入る時
就職を機に
住居購入
住宅購入
出産後の子どもの成長
新居購入
親から離れたい
親の意向がある場合
定年後環境の良いところへ移住する
独立
夫の親との同居
夫の転勤
老後のため
老後の介護施設
老後の生活

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【テレビ・ラジオ・新聞】

	度数	パーセント
よく利用する	155	23.0
ときどき利用する	245	36.3
ほとんど利用しない	152	22.5
まったく利用しない	100	14.8
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【戸田市の広報紙】

	度数	パーセント
よく利用する	84	12.4
ときどき利用する	294	43.6
ほとんど利用しない	175	25.9
まったく利用しない	99	14.7
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【フリーペーパーなどの地域情報紙】

	度数	パーセント

よく利用する	25	3.7
ときどき利用する	263	39.0
ほとんど利用しない	185	27.4
まったく利用しない	173	25.6
無回答	29	4.3
合計	675	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【戸田市のホームページ】

	度数	パーセント
よく利用する	21	3.1
ときどき利用する	138	20.4
ほとんど利用しない	230	34.1
まったく利用しない	256	37.9
無回答	30	4.4
合計	675	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【SNS (Facebookなど)】

	度数	パーセント
よく利用する	35	5.2
ときどき利用する	74	11.0
ほとんど利用しない	164	24.3
まったく利用しない	372	55.1
無回答	30	4.4
合計	675	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【友人などの口コミ】

	度数	パーセント
よく利用する	111	16.4
ときどき利用する	334	49.5
ほとんど利用しない	126	18.7
まったく利用しない	79	11.7
無回答	25	3.7
合計	675	100.0

問4 あなたは戸田市の治安に対して不安に思うことはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
犯罪	271	40.1
警察署がない	74	11.0
街灯が少ない	92	13.6
近隣との関わりがない	42	6.2
不安はない	107	15.9
その他	19	2.8
無回答	70	10.4
合計	675	100.0

問4 あなたは戸田市の治安に対して不安に思うことはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。【自由記述】

ふつうのリスクはあると思う。
外国人（特に中国人）が多い
外国人が多い
外国人の多さ
外人が多い
街のゴミの多さ、交通事故、歩きタバコなど住民の態度が悪い
学校からの不審者情報
近隣で児童行方不明の事件があったので近隣ということで不安。
警察官のモチベーション、正義感が低い
交番がない
子供のしつけ方
重大犯罪も多数発生、未解決事件も検挙にいとまがない
線路下の空き地、人通りの少なさや暗さ
店が少なく暗い夜道
日本国籍ではないと思われる人々が多数いること
不審者
分かりません
変質者
変質者の増加
本町の交番が喜沢に変わったが喜沢の治安対策なのか？(治安が悪くなった為なのか？)
無人交番が多い
無理！たくさんあるのだから！
夜道が暗すぎる

問5 公園の利用などについてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【自由に遊ぶことができた方がよい】

	度数	パーセント
そう思う	372	55.1
どちらかと言えばそう思う	250	37.0
どちらかと言えばそう思わない	27	4.0
そう思わない	8	1.2
無回答	18	2.7
合計	675	100.0

問5 公園の利用などについてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【ケガをすると危ないので、ある程度の利用制限を設けるべき】

	度数	パーセント
そう思う	72	10.7
どちらかと言えばそう思う	275	40.7
どちらかと言えばそう思わない	200	29.6
そう思わない	107	15.9
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問5 公園の利用などについてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【子どもの声が騒がしいので、ある程度の利用制限をするべき】

	度数	パーセント
そう思う	21	3.1
どちらかと言えばそう思う	129	19.1

どちらかと言えばそう思わない	262	38.8
そう思わない	240	35.6
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問5 公園の利用などについてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【子どもだけで遊ばない方がよい】

	度数	パーセント
そう思う	91	13.5
どちらかと言えばそう思う	229	33.9
どちらかと言えばそう思わない	197	29.2
そう思わない	140	20.7
無回答	18	2.7
合計	675	100.0

問6 公園に一番設置して欲しい遊具はなんですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
砂場	37	5.5
滑り台	101	15.0
鉄棒	53	7.9
ブランコ	106	15.7
ジャングルジム	45	6.7
高齢者向けの健康遊具	128	19.0
その他	30	4.4
特に必要な遊具はない	135	20.0
無回答	40	5.9
合計	675	100.0

問6 公園に一番設置して欲しい遊具はなんですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。【自由記述】

0～2才向け遊具
アスレチック
きれいなトイレ
サッカーグラウンド
シーソー
ターザンロープ
タイヤのとび箱のような遊具
バスケットゴールなどボールが使える場所
プール
ふわふわドーム(上でジャンプできる物)
ベンチ
ボールが使える場所
ボールで遊べる場所
ボールを打ったり蹴ったりする場所
滑り台やブランコなどがついている大型固定遊具(一体となっている)
砂場は犬のフンが気になるのでない方がいい。
子供がいないので分からない
芝生
芝生の公園、広場、噴水など緑の多い空間



小さい子供用のブランコ
新曽地区方面に公園 プール
草むら。子ども達が虫取りなどができるような場所です。
体を鍛える器具
動物のオブジェ、トンネル
動物の置物。乗ったりして遊べる
日影
分かりません
木陰にベンチ
緑、木、アスレチック

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【ケガをしないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	383	56.7
当てはまる	269	39.9
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【いじめられないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	542	80.3
当てはまる	110	16.3
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【事件に巻き込まれないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	231	34.2
当てはまる	421	62.4
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【他の人から迷惑を受けないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	526	77.9
当てはまる	126	18.7
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【他の人に迷惑をかけないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	351	52.0

当てはまる	301	44.6
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【不安はない】

	度数	パーセント
当てはまらない	596	88.3
当てはまる	56	8.3
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	622	92.1
当てはまる	30	4.4
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問7 公園で子どもを遊ばせることに対する不安はありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【自由記述】

すべてのことに不安はあるが、親が一緒なら。
すみません、子も30代、40代で未婚のため孫もおりませんので...
タバコなどのすいがらを手取る。車道にとびだすので事故にあわないか。
トイレなどでの事件
ほったらかしの子育てはしてはいけない
わからない
過保護にしすぎるのもどうかと思う
蚊が多過ぎる。後谷公園異常です。なんで薬をまかないんですか？あの池は何？ママ達の間でも意見書を出そうか、というほどです。
犬の散歩中のおしっこやウンチ、猫のウンチなどの不衛生
公園がきたないか
子どもがいないのでわからない
子どものたまり場にならないか不安（悪い意味で）
子どもはいない
子供がいないのでわからない
子供がいないのでわかりません
時間を考えて遊ばせる。一人では遊ばせない。
小学生高学年～中学生 仲間をつくり徒衆を組んでいるグループが特に目につく
小学生等のやんちゃな男の子がこわい（娘3歳のため）
少し大きい小学生がよくサッカーをしていて、小さい子に当たると危ない。前、小学生と保護者がサッカーをしていて、それが小さい子に当たって鼻血出していた。
大人の過干渉
動物のフン、ごみがあるなどの不衛生
不安はあまりない
不衛生になっていないか（トイレ、砂場等）
不審者がいないか

不審者からの声掛けなど
遊具に異常はないか、汚くないか

問8 学童保育制度で最も優先的に充実すべき事は何だと思えますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
開室時間の延長	155	23.0
日曜・祝日の開室	85	12.6
学童保育室の数	145	21.5
民間の学童保育室の数	26	3.9
指導員の質	124	18.4
活動内容	40	5.9
おやつを提供	4	0.6
その他	12	1.8
無回答	84	12.4
合計	675	100.0

問8 学童保育制度で最も優先的に充実すべき事は何だと思えますか。当てはまるもの1つに○をつけてください【自由記述】

6年生まで
わからず
学年の延長
学年の制限をなくしてほしい
指導員の数
宿題など勉強も指導して欲しい
親が運営に関わらず預けることに負担にならないこと
対象年齢の拡大(小学校6年まで)
年齢制限をなくす
分からない

問9 あなたはお子さんを学童保育に預けていますか（預けていましたか）。または預けたいと思えますか。

	度数	パーセント
はい	218	32.3
いいえ	439	65.0
無回答	18	2.7
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【カギを持たせるのが不安】

	度数	パーセント
当てはまらない	169	25.0
当てはまる	50	7.4
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【きょうだいがいない】

	度数	パーセント
当てはまらない	195	28.9
当てはまる	24	3.6
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【子どもだけで家にいるのは危ない】

	度数	パーセント
当てはまらない	88	13.0
当てはまる	131	19.4
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【子どもだけで家にいるのはかわいそう】

	度数	パーセント
当てはまらない	129	19.1
当てはまる	90	13.3
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【勉強や宿題をして欲しい】

	度数	パーセント
当てはまらない	176	26.1
当てはまる	43	6.4
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【子どもが友達と遊びたがっている】

	度数	パーセント
当てはまらない	181	26.8
当てはまる	38	5.6
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【親や親戚に預かってもらえない】

	度数	パーセント
当てはまらない	174	25.8
当てはまる	45	6.7
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【就労のため】

	度数	パーセント
当てはまらない	69	10.2
当てはまる	150	22.2
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問10 問9で「1.はい」と答えた方にお尋ねします。学童保育室にお子さんを預ける（預けた、預けたい）理由を教えてください。以下のなかで、当てはまるものすべてに○をつけてください。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	213	31.6
当てはまる	6	0.9
非該当	443	65.6
無回答	13	1.9
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。【乱暴な子の影響を受けないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	407	60.3
当てはまる	189	28.0
非該当	2	0.3
無回答	77	11.4
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。【ケガをしないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	532	78.8
当てはまる	64	9.5
非該当	2	0.3
無回答	77	11.4
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。【いじめに合わないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	441	65.3
当てはまる	155	23.0
非該当	2	0.3
無回答	77	11.4
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。【他の子にケガをさせないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	507	75.1

当てはまる	89	13.2
非該当	2	0.3
無回答	77	11.4
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。【他の子に迷惑をかけないか】

	度数	パーセント
当てはまらない	467	69.2
当てはまる	129	19.1
非該当	2	0.3
無回答	77	11.4
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。【不安はない】

	度数	パーセント
当てはまらない	478	70.8
当てはまる	118	17.5
非該当	2	0.3
無回答	77	11.4
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	559	82.8
当てはまる	37	5.5
非該当	2	0.3
無回答	77	11.4
合計	675	100.0

問11 学童保育室に対して不安を感じることはありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【自由記述】

おやつがポテトチップスやチョコ等スナック菓子が多いと聞いた。
おやつの種類
できればあずげないのが良いと思う（だれか家族が家にいることが望ましい）
はちゃめちやなイメージ
まだ子供が小さいのでよくわからない
まだ実感なく考えてない
わからない
一時保育の利用人数枠が少ないので予約がとれるか
学童保育室のことは良く分かりませんが、不安が少ないかもしれません。
子がまだ未就学児なのでまだあまり考えていない
子どもがいない
子どもの名前を呼びつけて呼ばれたのには疑問を持った・・・
子供がいないのでわからない
指導員の人格
私のころは、なかったです。あつたら入れたかったです。
自営業など、規準ではいることができないのではないかな。
実感に合うものがない（子供は成人しているので）
習い事への出入りなどもっと自由にさせてほしい
想定できません
途中から行けなくなり友達の家に行っていた

道徳的な対応が適切かどうか（いじめ問題など）
発達障害があるため、担当から利用しない方がよいとアドバイスを受けた
病気をうつされないか
不安に思ったら切りがありません。お任せするつもりで預けたら良いと思います。
友達とあそべるか？
預けたことがないのでわかりません
預けたことがないのでわかりません。
預けた事も預けたいと思った事もないので特にない
預ける上では不安はなかった。働きたいから預けたいと思ったが、保護者会があり、それが負担でやめた。
利用したことがないのでわからない
利用方法がよくわからない

問12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。【学童保育室に預けるのが望ましい】

	度数	パーセント
そう思う	220	32.6
どちらかと言えばそう思う	290	43.0
どちらかと言えばそう思わない	93	13.8
そう思わない	35	5.2
無回答	37	0.0
合計	675	100.0

問12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。【知人・友人に預けるのが望ましい】

	度数	パーセント
そう思う	6	0.9
どちらかと言えばそう思う	89	13.2
どちらかと言えばそう思わない	286	42.4
そう思わない	246	36.4
無回答	48	7.1
合計	675	100.0

問12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。【祖父母などの親類に預けるのが望ましい】

	度数	パーセント
そう思う	184	27.3
どちらかと言えばそう思う	318	47.1
どちらかと言えばそう思わない	91	13.5
そう思わない	39	5.8
無回答	43	6.4
合計	675	100.0

問12 子どもを預ける場所についてどのように思いますか。【自宅で面倒をみるのが望ましい】

	度数	パーセント
そう思う	313	46.4
どちらかと言えばそう思う	253	37.5
どちらかと言えばそう思わない	53	7.9
そう思わない	20	3.0
無回答	36	5.3
合計	675	100.0

問13 あなたは、ご自身の子どもの頃と比較して、今の子どもの外遊びの環境はどのようになったと感じますか。

	度数	パーセント

よくなった	18	2.7
どちらかと言えばよくなった	52	7.7
変わらない	64	9.5
どちらかと言えば悪くなった	247	36.6
悪くなった	223	33.0
わからない	54	8.0
無回答	17	2.5
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【外遊びできる時間が少なくなった】

	度数	パーセント
当てはまる	287	42.5
当てはまらない	186	27.6
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【自由に遊べるスペースが少なくなった】

	度数	パーセント
当てはまる	148	21.9
当てはまらない	322	47.7
非該当	184	26.3
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【ボール遊びなどができる場所が少なくなった】

	度数	パーセント
当てはまる	170	25.2
当てはまらない	302	44.7
非該当	181	27.0
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【同年代の友だちが少なくなった】

	度数	パーセント
当てはまる	393	58.2
当てはまらない	80	11.9
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【親子で遊ぶ機会が少なくなった】

当てはまる	411	61.0
当てはまらない	62	9.2
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0



問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【寝転んだりできる場所（芝生広場）などが少なくなった】

	度数	パーセント
当てはまる	316	46.8
当てはまらない	157	23.3
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【雨の日でも遊べる場所が少ない】

	度数	パーセント
当てはまる	402	59.6
当てはまらない	71	10.5
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【遊具などが老朽化していて危ない】

	度数	パーセント
当てはまる	428	63.4
当てはまらない	45	6.7
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【不審者などで危険が増した】

	度数	パーセント
当てはまる	112	16.6
当てはまらない	361	53.5
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。

当てはまるものすべてに○をつけてください。【その他】

	度数	パーセント
当てはまる	443	65.6
当てはまらない	30	4.4
非該当	181	26.8
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問14 問13で「4. どちらかと言えば悪くなった」「5. 悪くなった」とお答えになった方へお尋ねします。そのようにお答えになった理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけてください。

【自由記述】

”危険”を体で学べる場所、機会の排除ムード
お年寄りの方がいると公園を使わせてもらえない。

ゲーム
ゲーム類の普及
家の中で遊ぶ遊びが多くなった
過保護すぎる
外で遊ぶ子供が少ない
危険という理由からか面白い遊具が減った
交通量が増えた
交通量の増加で行き帰りが心配
交通量の増加による事故。自然の川、林、生物の減少
公園が少ない(場所によって)
公園ではやってはいけないことなどの制限が多くなった。
散歩の犬のオシッコ・ウンチが不衛生
自然が減った。池とか雑木林とか虫もいっぱいいた
自然の中で遊ぶ機会がない
車が多い
習い事などで時間があわない
暑さが厳しくなった
親が習い事や学習塾などに行かせすぎる。
親の過保護化
大人も大目に見ることのできない人が多い。
地域で集まったり、仲良くする機会がない
日焼けが気になる
年代が異なる先輩等との関わりが少なくなった
遊具がない
遊具が危けんという理由で少なくなってしまった。
遊具が少ない
遊具が少ない。
遊具の種類が減っている

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしやらない場合は問16へ）。

【公園】

	度数	パーセント
なし	35	5.2
週に1日	42	6.2
週に2~3日	42	6.2
週に3~4日	15	2.2
週に4~5日	6	0.9
ほぼ毎日	2	0.3
非該当	510	75.6
無回答	23	3.4
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしやらない場合は問16へ）。

【学童保育室】

	度数	パーセント

なし	111	16.4
週に1日	3	0.4
週に2~3日	3	0.4
週に3~4日	4	0.6
週に4~5日	15	2.2
ほぼ毎日	2	0.3
非該当	513	76.0
無回答	24	3.6
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問16へ）。【塾・習い事】

	度数	パーセント
なし	27	4.0
週に1日	33	4.9
週に2~3日	59	8.7
週に3~4日	16	2.4
週に4~5日	8	1.2
ほぼ毎日	4	0.6
非該当	510	75.6
無回答	18	2.7
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問16へ）。【自宅】

	度数	パーセント
なし	8	1.2
週に1日	22	3.3
週に2~3日	40	5.9
週に3~4日	30	4.4
週に4~5日	8	1.2
ほぼ毎日	37	5.5
非該当	509	75.4
無回答	21	3.1
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問16へ）。【友だちの家】

	度数	パーセント
なし	64	9.5
週に1日	58	8.6
週に2~3日	15	2.2
週に3~4日	3	0.4
週に4~5日	2	0.3
非該当	511	75.7
無回答	22	3.3
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問16へ）。

【学校】

	度数	パーセント
なし	92	13.6
週に1日	27	4.0
週に2~3日	8	1.2
週に3~4日	7	1.0
週に4~5日	4	0.6
ほぼ毎日	2	0.3
非該当	511	75.7
無回答	24	3.6
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問16へ）。【児童センター・公民館】

	度数	パーセント
なし	112	16.6
週に1日	20	3.0
週に2~3日	8	1.2
非該当	511	75.7
無回答	24	3.6
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問16へ）。

【その他】

	度数	パーセント
なし	64	9.2
週に1日	6	0.9
週に2~3日	5	0.7
非該当	533	79.0
無回答	69	10.2
合計	675	100.0

問15 あなたのお子さんは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください（小学生のお子さんがいらっしゃらない場合は問16へ）。

【自由記述】

マンションのキッズルーム
実家
図書館・郷土博物館

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【悪いことをしたら人前でも叱るべき】

	度数	パーセント
そう思う	411	60.9
どちらかと言えばそう思う	198	29.3
どちらかと言えばそう思わない	30	4.4
そう思わない	7	1.0
無回答	29	4.3
合計	675	100.0

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【親以外の人にも注意されて成長するものだ】

	度数	パーセント
そう思う	354	52.4
どちらかと言えばそう思う	276	40.9
どちらかと言えばそう思わない	12	1.8
そう思わない	33	4.9
無回答	675	100.0
合計		

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【子どもは外で遊ぶべき】

	度数	パーセント
そう思う	329	48.7
どちらかと言えばそう思う	285	42.2
どちらかと言えばそう思わない	24	3.6
そう思わない	2	0.3
無回答	35	5.2
合計	675	100.0

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【子どもは自由に遊ぶスペースが必要だ】

	度数	パーセント
そう思う	392	58.1
どちらかと言えばそう思う	235	34.8
どちらかと言えばそう思わない	12	1.8
そう思わない	2	0.3
無回答	34	5.0
合計	675	100.0

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【子どもはケガをして成長するものだ】

	度数	パーセント
そう思う	189	28.0
どちらかと言えばそう思う	316	46.8
どちらかと言えばそう思わない	119	17.6
そう思わない	15	2.2
無回答	36	5.3
合計	675	100.0

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【学校が終わったらまっすぐ家に帰るべき】

	度数	パーセント
そう思う	201	29.8
どちらかと言えばそう思う	266	39.4
どちらかと言えばそう思わない	147	21.8
そう思わない	26	3.9
無回答	35	5.2
合計	675	100.0

問16 あなたは、子どものしつけや子どもの日常的な行動についてどのようにお考えですか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。【夕焼けチャイムが鳴ったら家に帰るべき】

	度数	パーセント
そう思う	391	57.9
どちらかと言えばそう思う	220	32.6
どちらかと言えばそう思わない	25	3.7
そう思わない	4	0.6
無回答	35	5.2
合計	675	100.0

問17 あなたの性別を教えてください。

	度数	パーセント
男性	287	42.5
女性	372	55.1
無回答	16	2.4
合計	675	100.0

問18 あなたの年齢を教えてください。

	度数	パーセント
29歳以下	89	13.2
30歳～39歳	172	25.5
40歳～49歳	174	25.8
50歳～59歳	104	15.4
60歳以上	116	17.2
無回答	20	2.3
合計	675	100.0

問19 あなたが最後に通った学校について最も近いものを以下から選び、当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
大学・大学院	239	35.4
短大・高専	77	11.4
専門・各種学校	123	18.2
高校	204	30.2
中学	23	3.4
その他	3	0.4
無回答	6	0.9
合計	675	100.0

問19 あなたが最後に通った学校について最も近いものを以下から選び、当てはまるもの1つに○をつけてください。【自由記述】

	度数	パーセント
現役大学生	1	50.0
看護学校（高等部）	1	50.0
合計	2	100.0

問20 あなたの現在の立場を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
正社員・正職員	259	38.4
自営業・自由業	40	5.9
契約社員・嘱託	30	4.4
派遣社員	9	1.3
パート・アルバイト	131	19.4
家族従業員	10	1.5
会社経営・役員	18	2.7
専業主婦（主夫）	95	14.1

学生	23	3.4
無職	46	6.8
その他	6	0.9
非該当	1	0.2
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問20 あなたの現在の立場を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

【自由記述】

	度数	パーセント
サービス業	1	20.0
教員	1	20.0
公務員（高校教諭）	1	20.0
役者	1	20.0
非常勤職員	1	20.0
合計	5	100.0

問21 現在、あなたに配偶者（夫または妻）はいらっしゃいますか。

	度数	パーセント
いる	472	69.9
いない	192	28.4
非該当	4	0.6
無回答	7	1.0
合計	675	100.0

問22 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。お子さんがいらっしゃる場合は、①9歳以下のお子さんの数、②10歳～15歳以下のお子さんの数、③16歳以上のお子さんの数を教えてください（お子さんがいらっしゃらない場合は、①、②、③に「0」と記入し、問23へ進んでください）。（9歳以下のお子さんの数）

	度数	パーセント	うち、男子の数→	度数	パーセント	
0人	497	73.6		0人	562	83.3
1人	107	15.9		1人	67	9.9
2人	46	6.8		2人	16	2.4
3人	6	0.9		3人	1	0.2
非該当	1	0.2		非該当	1	0.2
無回答	18	2.7		無回答	28	4.2
合計	675	100.0		合計	675	100.0

問22 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。お子さんがいらっしゃる場合は、①9歳以下のお子さんの数、②10歳～15歳以下のお子さんの数、③16歳以上のお子さんの数を教えてください（お子さんがいらっしゃらない場合は、①、②、③に「0」と記入し、問23へ進んでください）。（10～15歳以下のお子さんの数）

	度数	パーセント	うち、男子の数→	度数	パーセント	
0人	542	80.3		0人	595	88.2
1人	93	13.8		1人	49	6.8
2人	17	2.5		2人	4	0.6
3人	4	0.6		3人	1	0.2
非該当	1	0.2		非該当	1	0.2
無回答	18	2.7		無回答	28	4.2
合計	675	100.0		合計	675	100.0

問22 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。お子さんがいらっしゃる場合は、①9歳以下のお子さんの数、②10歳～15歳以下のお子さんの数、③16歳以上のお子さんの数を教えてください（お子さんがいらっしゃらない場合は、①、②、③に「0」と記入し、問23へ進んでください）。（16歳以上のお子さんの数）

	度数	パーセント	うち、男子の数→	度数	パーセント	
0人	408	60.4		0人	479	71.0
1人	79	11.7		1人	119	17.6
2人	131	19.4		2人	43	6.4

3人	36	5.3
4人	3	0.4
6人	1	0.2
非該当	2	0.3
無回答	15	2.2
合計	675	100.0

3人	6	0.9
非該当	2	0.3
無回答	26	3.9
合計	675	100.0

問23 現在のお住まいの地域を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
下戸田地区（喜沢、喜沢南、中町、下戸田、下前、川岸1・2丁目）	214	31.7
上戸田地区（川岸3丁目、本町、南町、戸田公園、上戸田、大字上戸田）	166	24.6
新曽地区（新曽南、氷川町、大字新曽）	137	20.3
笹目地区（笹目南町、早瀬、笹目、笹目北町、大字下笹目）	96	14.2
美女木地区（美女木、美女木東、大字美女木）	51	7.6
無回答	11	1.7
合計	675	100

問24 現在のお住まいは次のどれに当たりますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
一戸建て持ち家	251	37.2
一戸建て賃貸	8	1.2
分譲マンション	210	31.1
民間の賃貸マンション	114	16.9
民間のアパート	60	8.9
公営住宅	8	1.2
社宅・官舎・寮	12	1.8
無回答	12	1.8
合計	675	100.0

問25 あなたは、2014年7月時点で、戸田市に何年住んでいますか。6ヶ月以上は切り上げてお答えください。

	度数	パーセント
1年未満	16	2.4
1年	28	4.2
2年	30	4.4
3年	20	3.0
4年	21	3.1
5年	16	2.4
6年	25	3.7
7年	15	2.2
8年	12	1.8
9年	15	2.2
10年	29	4.3
11年	10	1.5
12年	11	1.6
13年	12	1.8
14年	12	1.8
15年	16	2.4
16年	10	1.5
17年	16	2.4
18年	23	3.4
19年	12	1.8
20年	34	5.0
21年	12	1.8
22年	12	2.1
23年	14	1.8
24年	12	1.6
25年	11	2.4
26年	16	1.3
27年	9	1.0



28年	6	1.0
29年	4	2.1
30年	14	1.0
31年	7	0.4
32年	3	0.7
33年	5	1.3
34年	9	1.6
35年	11	1.2
36年	8	1.0
37年	7	1.0
38年	7	1.9
39年	6	2.4
40年	16	0.9
41年	6	2.4
42年	7	0.9
43年	4	1.0
44年	5	0.6
45年	6	0.7
46年	6	0.9
47年	3	0.9
48年	6	0.4
49年	3	0.9
50年	7	0.4
52年	5	1.0
53年	2	0.7
54年	2	0.3
55年	4	0.3
56年	1	0.6
57年	2	0.2
59年	2	0.3
60年	2	0.3
61年	3	0.4
62年	4	0.6
63年	2	0.3
64年	3	0.4
66年	4	0.6
67年	5	0.7
68年	1	0.2
非該当	1	0.2
無回答	7	1.0
合計		100.0

問26 最後に、子どもの遊び場や居場所に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

・戸田市にきて思ったことの一つに公園が多いということでした。しかし遊ぶ子供が少なくもったいないと思います。何か違う活用の仕方があれば（子供が遊べるように）無駄にならないかなと思いました。

・公園（芝生広場のあるスペース）・電柱を地中に埋めるべき。防災上危険←地震で倒れたら輸送上?・車道と歩道を確保

・公園に行くまでの車通りが多いところに信号がない。・川岸公園、その付近にいつも中年の男性がいる。小学生にお菓子を与えたりしており、不審に感じている。

・小学校内に学童室があることは良い。戸田市の良い点。・プリムローズなどのような居場所を東西南北に設置してほしい。また、老人施設も兼ねると良い。・スポーツセンターも市内の一つでは少ない

「子ども」だけの場所ではなく、子どもから赤ちゃん、障害をもつ人、高齢者も一緒に過ごせる場所があっても良いのではないのでしょうか。多様な人がいる中で、色々な考え方、発見ができ絆も広がると思う。

◎戸田には広いスペースのある公園が少ない。(土地的に難しいかもしれないが...)◎小学生以下と以上の子で遊べる遊具がちがうとおもしろいと思う。◎昔から芝生広場にアコがれていた。いつかできるといいなと思う。◎個人的には戸田市は大すきなのでこれからもどんどん発展して頂きたい。マンション等の集合住宅がふえており子どもの数もふえているので大人にも子どもにも住みよい街であってほしい

0歳の子供がいます。公園の数は比較的多くてよいと思っています。安全に遊べるよう、地域皆で見守るような町であってくれたらうれしいです。

26年向田地区には小さい公園が一つのみです。今は、子供もふえています、近くさいたま市の公園ができる予定ですが戸田市としてもなにか助けましょう！
69才ですのでこのアンケートには、あまり答えられません。
6歳未満の子どもが自転車で歩道を通行できることを、世間的に認識を高めた方がいい。
ある程度の制限は必要だが、自由に遊べる空間が子どもを成長させる
いずれにしても必ず大人の目があるところがよい。子供だけは危ない。
うんてい、ジャングルジム、ロッククライミング等の筋力がつくものが多いと良い。
おもいきり大声出したり、走り回る公園や広場がない。ポールも使えない。小学生が心身開放できる場所が学区内にほしい。
お金のかからない、室内で遊べる(雨の日など)場所を増やして欲しい。年齢別で遊べるブースなども欲しい。
お年寄りの方々の活動の場と子どもの活動の場をわけて使える工夫が欲しい。公園に行っても遊べなかったと帰ってくるが多々ある。
キャッチボールやサッカーなど、気軽にできるスペースがほしい
キャッチボールをするのに十分なスペースがない。芝生などの公園を増やしてほしい。
ケガやトラブルをさけるために何もかも排除してしまったように思う。部屋の中でTVやゲームで遊ぶばかりでこれからどんな大人になり、子どもを育てていくのかと心配。
ここ何年か危険だからという理由で遊具が減っています。そうすると子供はどのように危険回避の仕方を学んで行くのでしょうか。保育士の資格を持つ一人として砂場だけは絶対に無くさないでください。それだけは切に願います。公園という遊び場は他人の心、身体の痛みが分かり、相手を想いやる気持ちを育てる一番の場だと思います。
こどもが遊んだり、出入りするのに適さない場所、例えば危険な場所や、教育上好ましくない場所、は学校、子ども会、家庭でよく指導し話し合うべき。市とは子供を大事にする姿勢を政策的にもっと打ち出すべき。子供の遊び場や居場所にふさわしいスペース作りに予算をかけたいくべきだと思う。
この頃は、夏が暑すぎえ外遊びができなくなり、家でゲーム等する子が多い様に思えます。民間のサッカークラブに入っている子などは、スポーツをして健康そうなので、無料で入れて、親の当番などが無い、スポーツチームなどがもっとあれば良いのでは？と思います。
この辺りは夜になると人通りが少ないので注意してほしい
ゴミが多い
サッカー、テニス、バスケットなど利用できる場所を増やしてほしいです。
スーパーなどのフードコートに集まっている姿をよく見るので、外で遊ぶことの楽しさを子ども達にも知ってもらいたい。
とにかく犬・猫のウンチやオシッコの不衛生さに困っています。川口市グリーンセンターのように有料の入園料にし、犬猫いっさい禁止の公園を戸田市にも作ってください！私は毎日グリーンセンターまで子供を連れて行きます。その理由は犬・猫が来ないから。公園に犬が入るのは本当にやめてください。汚くてしょうがないです。砂場のサクも無意味です！普通に猫のウンチありますよ！税金を沢山とっているんだからもっと公園の衛生管理をしっかりして下さい。はっきり言って戸田市の公園はあまり子供があそんでいませんよ。犬の散歩コースになっているだけ。どうかしてください。みんなママ友は衛生管理のしっかりしている川口市グリーンセンターに行ってます。犬猫禁止のきれいな公園にしたら子供の笑い声のたえないと思います。それと看板立てているだけなのも無意味です。どうせ見えてないですから。川口市グリーンセンター、一度偵察に行ってください。みんなたくさんの方がおそうじしてくださってますよ！こどもの国、犬猫禁止、たのみます！
バイパスをはさんで笹目5～の地域は街灯も少なく、公園設備の交換も本町、上戸田などと比べて差が有りすぎる(木遊びができる公園など)。雨の日や休日に遊べる場も無い。プリムローズなどにはマンガ本があったり、ビデオが見られたりと子供がとてもうらやましがります。が、子供だけでバイパスを渡らせる事も危ないので行かせられません。暗いし、遊ぶ場が無い所にこそ、遊ぶ、みんなが集まれる施設が必要だと思います。
プリムローズみたいな場所をもう少し増やして欲しい。夏場や雨の日にも遊べる場所があれば良いと思う。
プリムローズをよく利用しています。似たような遊び場所をもう少し作ってほしいです。
ボールで遊べる場が必要

ボールをけったり、壁打ちしたり、自由に子どもたちが運動出来る公園がないのは、今のゲーム社会を作り上げることに繋がっているとも思います。花火を楽しめる公認の公園もぜひ欲しいと思います。
ボール遊びができるよう、広くて囲いのある公園を増やして欲しい。英語教育に力を入れている保育所を増やしてほしい。
ボール遊びができる公園を減らしてはいけない。
ボール遊びができる公園を増やしてほしいです。息子が小・中学生の時、テニスの打ち合いができるとこがあればいいなとよく言っていました。
ボール遊びが出来る場所がある方がいい。高齢者が運動できる（外で）所が多くあった方がいい。
ボール遊び禁止のところが多く、サッカーやキャッチボールが思うようにできなくてかわいそうだと思います。ぜひ美女木地区にもネットなどをつけ、サッカーなどをたくさんできるように作ってもらいたいと思います。
ボール遊び等ができる運動場（予約なしで使用）があればうれしい
ボール遊び等広場があるといいと思う
マンションのロビーを居場所にしている子どもをよく見かけます。親の立場で考えたら「ありがたいスペース」、住民の立場では「マンションが汚れていく」複雑な心境です。
もっとスポーツを気軽にできる広場がほしいと思います。公園などだと制限が厳しいので。
もっとボールなどで遊べる場所や夏休みなどに花火などできる自由な場所があると親子で遊べたりもするし、良いと思う。
わんぱくな子が良い。制限がない方がよい。
安心、安全、誰でも利用できる場所をたくさん作ってほしい。また、見守り役の人（高齢者の方とか）がいてくれたら、更に安心できると思います。
安全に遊べる公園づくりと一時預かりの場所をたくさん作ってほしい。なるべく預けたくはないけれど、実家が遠いどうしてもという時に1時間2時間預かってもらえるともとても助かるので。
安全に遊べる所があると良い。
安全安心で健全なる子供たちの遊び場や居場所が創出され、増えることを願います！子供たちに良質な文化を送れるように頑張ります！
一緒に遊んでくれるようなプレイリーダーとかがいると良いと思う。
雨の日でも遊べる場所があるといいです。
雨の日に、体育館とか公民館の中で遊べるようにした方が良い！家の中だとゲームとかやってばかになってしまうので・・・。
雨の日に子供を連れて行ける所が少ない。あっても保育園など気軽に行けない。プリムローズは遠いので駅前にも欲しい！！大字新曽はマンションがたくさんあるのに公園が少ない！！みんなが遊べる公園がほしい。
雨の日や夏の暑い日にあそぶ場所を増やして欲しい。プリムローズのような児童館がもう少しあると助かる。
駅から近くなればなるほど、公園がきたないし、植物も少ないと感じました。
駅周辺にも公園などがあっていいなと思います。
屋内での遊び場が少ない。
可能な限り緑を増やし、自然のすばらしさを教えてあげられるような場所が多くあると、豊かな感性を育成できるのではないかと思います。例）四季の草花が見られる場・ビオトープなど
夏になると変態が多い、孫が心配です！！？公園には犬のフンが多く、ゴキブリが多いツタのせいで刈ってほしい！？公園に時計と外灯がもっと欲しい
家族や地域の人の目が常にある様な環境が望ましいと考えます。
外で遊ぶ子供を見るとほっとします。もっと自由に遊ぶ場所を解放したほうが子供達が遊びを考え楽しめる気がします。家の中でダラダラ過ごすのはどうでしょうか？

外の公園なのに遊具の下全体にマットをひいたり、自然の土のままが良いのでは・・・？と思います。子どもをケガから守るのは分かりますが、過保護すぎでは・・・。幼児のケガは、見てない親が多い気がします。
各小学校の近くに児童館を設置し、放課後や土日に子供達が集まれる場所を作って欲しい。そして必ずそこには、指導員（児童心理学を学んだ）を2名以上おき、子供達の心のケアやイベントを企画して、安全で楽しい場所にして欲しい。
学校の校庭などで遊んでくれた方が安心（放課後）。公園は蚊が多いし日陰が少ないので熱中症が心配。
学校の校庭等がもう少し開放されると親子で遊べる場所が得られると思う。土日祝日だけでも開放されることを願う。完全開放とまではいいませんがせつかくの広場もつたいないと思う。
学校の通学路などに信号機を増やしてほしいです。登下校などでは大人の見守りが家の近くでもであると嬉しいです。
学童の問題以前に、市役所や病院が土日に開いていないと子供のいる主婦は働けないと思います。戸田市だけではなくですが、銀行、病院に、平日にしか行けない現状はとても専業主婦向けに出来ているなど感じます。
学童保育に通っていた時は、学童以外のお友達と遊べなかった事か、おもしろくなかった様です。何か問題が起きた時の責任問題のためかとは思いますが、その辺りを改められると学童の人気も上がるかもしれません。
学童保育の充実と質の良い指導員 指導員同志の確執をよく耳にします。
学童保育は親の事情にかかわらず、すべての希望する子供が平等な条件で利用できる場所であって欲しいです。学童での時間（遊びと学習）が充実していれば戸田市の教育レベルがあがるのではと期待します。
気軽に野球やサッカーなどができる場所があれば良いと思います。手続きがあると子どもではできないため
共働きのご家庭が多い中で、安全に過ごすことができ、かつ就学の学年になったとき学業や運動能力をのばすための支援をできる公共施設や見守りのボランティアがより多く必要だと思います。
共働き家庭で安心して子供が育てられるように、保育園、学童保育室の充実を希望します
凝った遊具はいらない。草木が生えていて自然が感じられる空間、広場があるといいなと思います。
近頃、戸田市も人口が増え、隣に住んでいる人の顔すら分からないという事が多く、子供を外で遊ばせる事にとっても不安を感じています。不審者情報もたくさん入ってくるので、公園の見回りや、裏道のパトロールを強化してもらいたいです。夜の9時半頃～10時半頃、塾から帰ってくる子供が多いので、その時もパトロールをお願いします。
近所に公園がない
近所の子供が駐車場でよく遊んでいるので時折危ない時がありハラハラする。
近年マンションが増えたので、マンション内のコミュニティが完成しており、入学（入園）前の子ども同士（親同士）のかかわりを持つのが難しい。公園に行ってもその輪の中に入れない。小学生くらいの年齢の子ども達が公園で遊ぶ姿をあまり見かけないのは習い事などが忙しすぎるせいなのだろうか。どっちみち犯罪がらみのことが心配で、あまり子どもだけで遊ばせたくない。
近年室内で携帯ゲーム等で遊ぶ子どもが増えていると思います。体の成長や目にもよくありません。体を動かしストレスを発散できるような自由に遊べるスペースを増やしてあげられるといいと思います。アスレチックのような施設とか。
空いている空間を、各種施設を建てることによってなくすることには懐疑的です。
犬のふんは公園では飼い主の責任で処理してほしい。子供の頃、何度も公園で遊んでいてふんでいやな思いをした。
見ていると、滑り台で取りっこしているように見えるので、2台位設置した方が遊びやすいと思います。
見ると小中高生が遊んでいる人がいない。場所があれば高齢のゲートボールばかり。
現在も放課後に各学校を開放して子供たちの遊び場を提供していることは子供たちにとっていいことだと思う。学童保育室も各小学校に配置されているのは親として安心できることだと思う。子供達が安全でのびのびと遊べる場所（公園）ができることを期待しています
戸田の公園は美しいで、良いと思います。
戸田は公園が多いときいています。今後も住みやすいまちを期待しています。
戸田は児童館や子どもセンター等の施設が不十分
戸田公園近くには、今こどもの国が閉館して公園があまりなくすごく不便です。小学生も預けられる公共施設が増えてくれたらとても助かります。見守りも公園などまんべんなくしていただくと子どもの安全度も増します。お願いします。
戸田市に限らず、自由に遊べるスペースが無くなったように思います。

戸田市は、公園も多く子ども達にとっても親の交流場としてもいいかと思えます。プール付きもあり、ぜひ夏は日を決めてなど使用できる日があってもよいかと思えます。(色々と問題は多いかと思えますが...)
戸田市はボール使用がだめな公園があるのがおかしいと思えます。のびのび育つことができない、マンション内には公園がありますが一輪車、ボール、ローラースケートすべてダメ、高学年は何であそべるのか？小学生高学年から中学生位までがのびのび体を動かす事の出来る場所を喜沢地区にも欲しいです。何故なら戸田スポも遠くていけません！
戸田市は公園にプールがあるので、それは珍しがられました。当番は大変でしたが我が家も毎日のように利用していました。公園については数も多くあるので充実していて良いと思えます。学童については利用していないので詳しくはわかりませんが、各学校に良いと思えます。ただ、3年生までしか預かってもらえないので、せめて4年生まで預かってくれると良い。と友人が言っていました。(高学年になるまでは見て欲しいとのことでした。)
戸田市は公園の数は多いが、小さい公園が多くその為、ボール遊び禁止などの制限が多く残念だ。小さい子どもには良いが、小学中・高学年の子ども達が遊ぶには物足りないし、遊ぶ場がなくてゲームなどを集まってしている姿が多いように感じる。遊具はなくても良いので、広いスペースの遊び場(ボール可)や雨の日にも集まれる場所あもっと必要だと願っています。どうかよろしくお願いします。
戸田市は住宅地域に自然や緑が少なく、公園スペースも小さなものが多い。・親子が遊べるような芝生の運動スペースを拡大(安全な公共スペースとして)・小学校の校庭を芝生にし、放課後に開放、地域の人々が憩える場所にする(地域参加型)情操教育にも良いと思われる。(実施している自治体もあります)・街並に植樹、緑を増やして欲しい。
戸田市内のカク駅近くに大きい公園や自由スペース(昔で言う空き地みたいな)がいくつかあるとより外で遊ぶ機会が増えると思うので、子供たちはますます楽しくなると思えます。
後谷公園みたいなのがあと2、3カ所あったら良いと思えます。道満グリーンパークは戸田市立ですか？
交通事故にあわないように願うばかりです(と言っても具体的な案は無し)。学校⇄遊び場⇄自宅⇄友人宅など安全な場所からの移動時が危険？封筒の点字(?)は何と書いてあるのですか？良い工夫ですね。
公園、道路等、ごみをポイ捨てる子ども(大人も含めて)が多く見受けられる。「きれいなまちづくり」を子どもの頃からしっかり教育すべきである。ごみの散乱した公園等は、犯罪を誘引しやすいのではないのでしょうか。
公園が多くて良いと思う。しかし、制限があると遊びづらいと感じる。夏が暑い日が多くなってきているので、公園に日陰が少しでもあると良いと思う。
公園でサッカー、野球を見ていると安心することはできる
公園では、子供より老人のゲートボール等が優先されていて、よく、しかられたりする話を聞くので、子供ののびのび遊べる様考え直してほしいです。
公園デビューする直前だが、公園の砂場や水場も整備etc気になります。
公園でボールを使って遊んじゃいけないなんてひどいと思えます(笹目1丁目やぐち公園)子どもたちがもっとのびのび遊べるように考えて下さい。
公園でボール遊びができないのが残念です。子供が小さい頃、知らずに遊んでいて見知らぬ人に注意され外で遊べなくなったことがあります。何の為に公園か・・・と思ったことがありました。
公園などに遊具だけではなく、人工的に草むらなどを作り、高齢者も若い家族ものんびり過ごせる草むらがあると良いです。伸びた雑草などはボランティアでお金をかけないでお願いします。
公園などパトカーで見回るだけでなく車から降りてパトロールしてほしい。
公園に「うるさい、ボール遊び注意」などの看板を見かけるが。近隣が新しい住宅地だと、公園が先にあったのではないかと疑問に思うことがある。学校や公園のそばが子供の声であふれているのは当たり前。そこにそれを抑制させる看板があることに疑問を感じる。
公園について、ただ公園を造れば良いのではなく、目的をはっきりしたものを考えて造ってない。公園の緑に関して、成長する木たとえば見通しの悪くなる公園になる様な植木をするなど避けてほしい。防犯上重視！
公園に中学生がたむろしている事が多々見受けられ。子供だけでは怖いと思われれます。(特に夕方)
公園のウジャウジャしている蚊にうんざりです。戸田は蚊が多すぎて、衛生的に?????と思う。蚊は病気を運ぶし、もう少し市として積極的に対応すべきです。
公園の数が少ない、もっと数を増やしてほしい
公園の入り口に設置されている柵ですが、場所によってはベビーカーで入れないところもあります。子供を遊ばせたいと思っててもベビーカーだと行ける公園が限られてしまいます。小さい子向けの遊具があっても入れなければ意味がないです。自転車置き場が決まっていなくても、あちこちに停めてあつてあぶないと感じることがあります。戸田市は公園が多くて良い街だと思います。子供達が伸び伸び安心して遊べる様お願いします。
公園の遊具やトイレが各公園で違いすぎます。人口密度で差をつけるのは分かりますが皆が言っています。
公園は安全最優先で設置してほしいです。ガラの悪い大人のたまり場になっている公園がある。防犯も重視してほしい。子どもが安心して遊べる明るい公園が増えてほしい。
公園は割とあると思っていますが、公園に行くまでの道がトラックが通ったりするのに歩道が狭かったり、無かったりベビーカーが困難な程に道が悪かったりするので、その辺りも整備してほしい。

公園プールの利用案内が無い。戸田市は三郷市より外国人の子供に町内会、子供会の案内が無い。対する対応が悪い。市の広報や回覧板が全く来ない。
公園をできるだけ残してほしい。自分たちが小さい時は公園以外にも遊ぶ所がいっぱいあったけど、今は公園ぐらいしかないと思う。
公園数が少ない
公園中にゴミが散乱し、いつもゴミ運動の時、袋が一杯になります。各団体等でおそうじをしているのですが、それでもきれいとはいきません。大人も小人もきれいに使用すれば一番なのですが、良い方法があればいつも思っています。
公園等でもほかの人のめのない時もあり、子供たちだけで遊ばせたいが、心配もあるのが現状で残念です。
公共の施設（学校の体育館、荒川河川敷に隣接されている球場など）を不定期で無料開放できないのか？また、道満彩湖パークに戸田公園から直通で行けるバスがあれば便利だと思う。
公民館で遊べる日をせっけていしているけど、とてもつかいづらく、子供が利用したくても利用できなかったことがない。曜日と場所を週ごとに変えるなどしてほしい。
工場や会社が潰れてマンションがどんどん建っていますが、大きな公園をもっと欲しいです。
広いスペースの遊び場が少ない様に思います。
荒れた世の中になってきているので、安全安心な遊び場、居場所を提供してほしい
高齢者のゲートボールはOKで、小学生のサッカーはだめ、という公園が多く、遊べる場所がありません。私の子どもの頃は公園以外の広場もたくさんあり、もっと好きなことをできる環境にありました。戸田市は公園はあるけれど制限が多く不自由です。
今、住んでいるところは近所に公園が少ないように思えます。
今、何か、自由の時代で、何か気の毒で、何か親もかわいそうな時代。昔、年寄りが居て、若夫婦は働いて、子は年寄りがめんどうをみて、それが孫であってもビシッと叱るところは叱って、昔の年寄りはそのようにして。それに対して若夫婦はもっともだと叱ってくれたことに感謝してきた。そんな時代はもうおしまいですね。（アレ。質問に答えていない）
今の公園は制限が多く（ボール遊びが禁止など）もっと自由に遊ばせられるところが増えればよいと思う。公園のそば、管理人外いる公園（下前ヨークマートやセイムスの近く）があるが、人がいるところは安心して利用させられる。
今の子供達は外遊びしないで家の中でゲームしてるようです。
砂場の所には屋根があると思う。新曽小学校の学童保育の先生が良くない。常連の人にはよく話しかけるが新しい人にはあいそが悪い。（1年半位前のショートカットのメガネの先生）（午前中の時間帯）
最近、物騒な事件が多いので、子供が安心して遊べる環境を作ってあげたい。
最近学校の宿題で「外で遊ぶ」というのががあると聞いて驚いています。しかし、外にいてもカードゲームをしたり、DSなどのゲームをしていたりする子の姿もよく見かけます。一方で、後谷公園などではザリガニとりに夢中になっている子もいて、ほほえましく思います。自然に近い環境で体を動かして遊ぶことができる公園が増えてくれると子ども達も楽しく遊べるのかなと思います。指導員がついたアスレチックのような公園があっても楽しいかもしれません。
最近プリローズに行きましたが、1階の赤ちゃん～乳児向けの遊びのフロアでは保ゴ者が近くにいるのにも関わらずウレタンブロックを投げたり、乗用玩具の扱いが悪かったりと小さい子が遊びにくくなっています。職員の方が注意してくれましたが一瞬だけ直っただけでした。ゲームをする子も多いですが遊びのマナーを守った遊び場になってほしいと思います。知っている公園では地域の方が清掃されているようで気持ちよく遊んでいます。今後も市民の声を聞いて住みやすい戸田市になって欲しいと願っています！アンケート内容良かったです。
最近路上でキャッチボール等をする子ども達をよく見かけます。ボール遊びOKの公園、広場を増やした方がいいのではないのでしょうか。
昨今の子供を狙った犯罪には憤りを感じます。子育てを終了した市民全体が見守らなくてはいけないと感じます。見晴らしの良い公園を作ったり、遊び方を教えるボランティアとか・・・安心して外で遊べる環境があると思います。
笹目5丁目から8丁目と、早瀬の地区の公園にも遊具をおいてほしい。市役所周辺はいっぱい遊ぶところがあるけど、笹目地区は少なすぎます。
笹目川の北部橋のそばにあるバスケットコートはいつも10代後半の若者でいっぱいです。このように若い人たちが気軽にスポーツを楽しめる施設が増えるといいと思います。
子どもが安全に過ごせる場所が近所にない。
子どもが外（公園）で遊んでもケイタイゲーム機で遊んでいたりと、ショッピングセンターのゲームコーナーで遊んでいる子どもが多くて、公園は何のためにあるのかわからないなと感じてしまいました。
子どもたちが安全に楽しく遊べる場所があればとても良いと思う。公園に緑も多く良いが蚊なども多い・・・

子どもと高齢者が同じ居場所を共有して見守ってもらえるような環境が望ましいと考えています。
子どもについてのアンケートを全く子どもと関わりのない人に答えてもらっても意味がないと思います。また、無作為に送られてきても不快に思う方もいると思います。実際に子どもさんがいらっしゃる方にアンケートした方が明確だと思います。私も内容を見てすこし不快に思ったので書かせていただきました。
子どもにとっての最大の遊び道具であるボールを使って遊べる公園が少ないと思う。
子どもの連れ去り事件が多いので、周りの大人たちで巡回や見回りをしてほしい
子どもは2人共結婚しておりますので、良く解らない事ばかりです。市役所の手前にある広い公園が家から一番近い公園です。緑が多くて涼しそうですが子供向けではない様に感じます。時々、ホームレス？かと思える人がいます。大人でも遠慮してしまいます。やはり、小さい子には親と一緒に付いて楽しめる公園が良いですね。
子どもを安心して預けられる公的な場所がもっと増えると子育てに積極的な気持ちになれると思います。
子ども達がそれぞれの場所に合った遊びをしているので、特に問題なし。これからも子ども達が仲良く友達と遊ぶ時間を大切にしてほしいと思っています。
子ども達が安全安心して遊べる児童館、公園、学童保育室などを整備してほしいと思います。少子化の中、お母さん方が安心して子育てできるまちなしてほしいと思います。今の子ども達がこれからの高齢者社会を担っていかなければならないのですから、子どもが安心して遊べる場所を提供してあげてほしいと思います。
子ども達が外で遊べる環境は確実に悪くなっています。周囲を気にせず元気に遊べるはずの公園で、隣家から「うるさい」と注意を受けたり、本来ならボールを投げたりできるであろう広さのある場所でもボール禁止（ボールで遊ぶなど注意）されたり。子ども達も周囲を気にしながら遊びを選んではいますが、もう少しのびのびと遊びながら体力をつけられるような環境になってほしいものです。
子供が居ない為実感的ではないが親がしっかり面倒みる！！自分の子供だろ！！
子供の安全を第一に考え一人で遊ばせない。家でのしつけ（ルール）を守り、安心して元気に遊べる場で有って欲しいですね。
子供の国、じどうかん、みたいな施設があと2ヶ所位あるといいなあーと思います。
子供の連れ去り事件やケガなどの可能性を考えると大人が見ていることが必要だと思うので、子供がよく遊ぶ場所などを見回る。
子供は子供なりに遊び場、居場所または人間関係を見つけるものだと思う。子供のやりたいこと、興味をもったことは積極的に取り組むべきだと思う。どんな場所であっても子供が子供らしく過ごすことができる戸田市であればいいと思う。
子供も大事だが、高齢社会の今、高齢者の為の施設や居場所等も充実するべき。早急に。
支援センターやふれあい広場など利用させていただいてますが、同じおもちや、絵本等が多くあまり場所を変えても違いがなくつまらなく思います。可能であればそれぞれに特色があると良いと思います。
私が小学生の頃の思い出です。学校の正門のそばに駄菓子屋さんがありました。小さな子ども達が学校の校庭で遊んだ時の憩いの場所でもありました。少子高齢化とは思いますが、ぜひ子ども達のために学校のそばに駄菓子屋さんをつくってください。
私には、6歳と3歳の孫が、すぐ近く、さいたま市南区に住んでいます。時々遊びにくるので、道満公園や美女木8丁目公園に連れて行きます。孫達はこの2つの遊び場がとても楽しい！と喜んで満足しているようです。
私には残念ながらこどもはおりませんが、児童を対象の犯罪は絶対に許せません。安心してこども達が楽しめる場所の確保が必要だと思います。
私の子供のころは、家の周りに田んぼもありましたし、空き地の多かったので、毎日のように外遊びをし、大変楽しく思い出深い子ども時代を過ごせました。それに比べて確かに外遊びの環境は昔の方が充実していたとは思いますが、環境が変わっていくのは世の常ですし、どんな時代でも子どもというのは自分たちで遊びを生み出し、時代に合わせたやり方で、学び、成長していける生き物だと思います。「外で遊ぶ」「中で遊ぶ」、この二つは比べることはないのかもな、と、今回アンケートに答えて思いました。『外で遊ぶのは大事』ではなく『外で遊ぶ環境を整え、子どもの遊びの選択肢を増やしてあげよう』という考えの方が、何か、こう、未来に発展し、ポジティブな方向のまま、良い変化をもたらしてくれるのではないのでしょうか。
私は、親元（親の家族）が子供の面倒をみるべきだと思います。（努力すべき）中にはその努力をせずに、他人や先生にかんたんにあずけている人がいるのでは？そのみわけをちゃんとやり困っている人は助けるべき（母と子）
私は一人っ子で雛っ子でした。学校から帰ると友達と公園で遊び、夕焼けチャイムが鳴ると近所のおばさんやおばあさんのところへ行っって、ぬかみそやゆでたトウモロコシやサツマイモを食べながら昔話を聞いて、お話していると親が迎えに来てくれました。とても楽しくてあまりさびしい思いをしたことがありませんでした。休みの日は雑木林で木登りしたり、池でザリガニを取って遊んでいました。
児童館があると、子どもも行く場所があっていいと思う。（遊ぶ場所（特に夏）に困って、家かショッピングモールになってしまうので。）
児童館がもっとあればよい。公園がゴミなどできたないところがある。

児童館の数を増やしてください。
持ち込み遊具での遊び場がないこと（Jボード、ボール、スクーター、自転車）
時間のある高齢の方を再雇用などで公園に在中していただいて常に目の届く公園があるといいと思います。話なども聞けるといい。
治安がよく子ども達がボールあそびなどもでき、のびのび遊べるように、周りの大人が見守っていけるような態勢を親である自分も含め、地域の皆さん、学校、行政などが力を合わせて作ってほしいと思う。
自然な遊び場で自由に遊べるような場が欲しいです。
自宅（新曽新田地区）の近くに公園がほしいです。
自分の子が小学生の頃まで児童館や公園をよく利用させていただき、特に児童館の設備が整っていてよかったです。
自由に遊んで友達や遊具を通じてたくさんのことを学んで欲しいと思うが、不審者や事件のニュースを知るたびに怖くてなるべく自分や信頼できる人の目の届く場所にて欲しいと思う。複雑です。
芝生が張ってある公園を増やすべきである。
芝生広場に大きな落葉樹が点在しているような公園があれば子供も高齢者も、良い居場所になると思います。
芝生等が少なくなり、虫取り等ができる場所が減ってきていると思う。少しでもそのような場所を増やしていければ、もっと外で遊べるのではと思う。
出身地が戸田市で0才～21才まで住んでおり、1年前に約20年ぶりに戸田市へもどりましたが、治安もよく、まちも便利なので、よかったですと思っています。子供たちが公園であそぶ年齢ではなくなってしまったのですが、戸田はスポーツセンターや公園もきれいなので子育てにはよいと思っています。
暑い時に子供を連れて公園に行くと、遊具も熱く、なかなか遊べない為、屋内で遊べる場所を増やしてもらいたい。各地区にあれば尚有難い。
小さな公園で子ども達が寄り合ってゲームをしていたり、迷惑をかけないようにひっそり遊んでいるのを見ると、どこかの屋上でもいいから広い場所をと思う反面、野に放たれても子ども達もボカンとしてしまいそうで。
小さな子供が遊べる公園や、ボール遊びのできる広い公園が近くに全くなく、友達同士、外で集まってもゲームをして遊んでいるケースが多い。マンションのエントランス付近で遊んでも大人にうるさいと怒られることが多く、結局ゲームしか遊べなくなっている。もっと、大声で走り回れる公園を近くに（子どもだけで歩いていける距離に）作って欲しい！！もっと体を使って遊べる環境をつくってほしいです！！
小さな子供向けのゆうぐなどがあるわりに、利用している方が少なく感じます。
小学校に学童の子だけでなく一般の子供も遊べるような時間を作ってくれと助かります
小学校高学年の子供が遊べる場所が少ないと感じた。ボール遊びや自由に走り回れる場所を増やしてほしい。（今から7.8年前のことです）
小学生のみならず、中高生の居場所の確保も考えていただきたい。
小学生以上と未満の公園があればよいかと思っています。市のスポーツセンターのようなプールがもう1つ欲しい。スポーツセンターのスクールがすぐいっぱいになる。認可外保育園も園庭があるといいですが、認可外に通園時の補助金が他の市より少ない。
小中高生に福祉センターなど、放課後開放して下さっていますが、住んでいる所から遠く、特に小学生のうちはそこに行くことすらできない子どもがたくさんいます（学区外は自転車は禁止されているので）。
少年野球をやっているのでキャッチボール出来る場所があると良いです。
障害児がいるので基本的にはつききりでいないといけない。健常児の上の子供がのびのび遊べつつ、下の子供も見られる様な設備のととのった場所があるといいと思う。戸田の幼稚園は障害児をほとんど受け入れてくれないので広い場所であり遊べない。
場所の大小関係なく、今遊んでいる所が遊び場だと思います。事故・事件だけ注意すれば、子供同士で見つけると思います。
場所や公共的環境の側面だけの問題ではなく、親の就労環境や学校、教育の状況（時代や環境の変化）、ライフスタイルや少子化、高齢化など、総合的に考えていかなければいけない側面もあると思います。
常に子供の遊び、居場所は、その御家庭の状況によってことなるでしょうが、親のせき任。危険であるか、人に迷惑をかけなかの子育ては親のせき任、いいこと、よくないことは経験をしてみて身につくこと。人間は経験の中から学ぶことができると思う。子供達が幸せであることが一番大切なことだと思います。健康な心は思い切り遊んで身につくものだと思います。
色々と事件があり、阿佐の見守りたいもよいのですが、下校時間の方が見守りたいを付けた方がよいと思います。



<p>新曽南に住んでいますが、近くにサッカーやバスケ、バドミントンなどができるスペースがあればよいと思います。</p>
<p>親が就労していると習い事に通わせる時間がなかなかとれないので学童保育室で英語やピアノなどを習えるとよいと思うので、民間の学童保育室が地域差がなくできてくれると良いと思います。</p>
<p>人工的な公園もそうだが、自然とふれあう施設があればもっと楽しく遊べるのではないかと沸き水があるような場所を作るのは難しいかもしれないが、大人が自然の大切さを教えてあげるべき。と考えます。自然を壊し、全てを人工的な遊具にかえることがすべてではないと思います。</p>
<p>西側は子供の遊べる施設がないので、バイパスを渡って連れて行く為、西側にも何か子供達が遊べる（雨や雪の日）施設がほしいとの意見をよく聞く。</p>
<p>静かにすべき時には静かにし、思い切りやんちゃに遊べる時にはそうしてもらおうというメリハリの教育の出来る街であってほしい。</p>
<p>絶対に子どもが自由に遊べる場（特に小学生以上）が不足しているように思う。公園でさえ禁止事項が多い中で、しっかり体を動かせといても難しいのではないかと。遊具の工夫よりも、工夫して遊べるような環境を考えたい方がよいのではないかと。</p>
<p>足立区の「ガラクシティ」のような充実した施設を望んでいます。講座など無料で子どもが学べる（工作などのワークショップ）機会があれば放課後が有意義に過ごせる時間になると思います。</p>
<p>孫(小学生)がいるのですが、彼女は放課後、部活動を楽しんでいる様子。大変うれしく思っています。(感謝)</p>
<p>多世代交流的な遊び場・居場所が多くなると良いと思う。生まれてから死ぬまで多世代の人達の話、行動等を直接本人が見たり聞いたりする事は社会生活にとって大事な経験となりスキルにつながる。経験は目に見えない資本だと思います。</p>
<p>多様な世代間で交流できるスペースに遊ばせた方がよい。これからできる子どもの国など期待。</p>
<p>大きな公園にサッカーゴールがあれば子供がよろこぶのでは</p>
<p>大人の目がないと子どもは悪いことをするもの。子どもが家にいる時には親は家にいるべき。誰もいない家に何人もたむろすれば悪いことをするのは仕方ない。</p>
<p>大人の目の届く範囲での遊び場を提供してもらいたい</p>
<p>大人もなるべく外で行動し、子どもに対しての気配り、目配りをすべきである。それによって、犯罪・事故の未然防止の一助となれば。</p>
<p>大声が出せて思い切り走れ、ボールを自由にけることができる。運動できる遊具がたくさんある。波のプールがある。遊び場が戸田市にあったらうれしいです。各公園に遊んでくれるボランティアがいたら安心。</p>
<p>谷口公園の川側にベンチが有り、ベンチ付近が老朽化して危険で早急に対応して欲しい。</p>
<p>地域で育てるという環境があるとよい。近隣の多くの大人と関わりながら生活できるとよいと思う。</p>
<p>地域に子どもたちのリーダーがいない。学童や大人のサポートばかりで、子どもたちが自由にリーダーを作れず、結局核家族の小さなコミュニティしか知らない。成長しても、仲間でボランティアをするなんて発想がないのも仕方ない。地域の大人たちも、もっと自由に学校教育に参加したり、地域の活動に参加したいが肩書や町会などの組織にしばられて気軽に参加できない感じがする。</p>
<p>地域パトロールを強化して頂き、ボール遊びが自由に出来る場所を増やして頂きたいです。活動、ご苦労様です。</p>
<p>中学生の居場所をたくさん作って欲しいです。</p>
<p>町内会で月に1度～2度のそうじをしています、ごみ箱があれば・・・と思います。賛否あると思いますがどこにすれば分からないから拾わないという風景をよく見ます。</p>
<p>転勤で戸田市にきました。以前住んでいた市よりは児童館や公園も近く、子供だけで遊べる場所も多いと思います。</p>
<p>道に面した公園には、道路に公園ありの看板など目立つようにつけてほしい。車に徐行してもらっただけでも助かる。雨の日、寒い日、暑い日など外遊びがしにくい日に、広々あそべる体育館のような所があると嬉しい。若者が夜集まってゴミやたばこを捨てている様子。日中、小さい子が遊んでいて危ないことを伝える看板など？があると少しかいぜんするかなと思う。</p>
<p>二人の男の子は野球が好きで放課後とかも常に野球がしたいようですが、公園では思い切りすることができず、せめてネットを四方に張ってある場所でプラスチックバット、ソフトなボールだけでも許可していただきたい。サッカーは青少年広場でもできますが、野球は本当にやる場所がありません。</p>
<p>乳幼児でも安全に遊ぶことの出来る遊具がある公園が私の住む地域には少ないので、もっと充実させてほしいなあと感じます。2才ともなると外足日が大好きになるため。</p>
<p>年齢に応じて場所の確保をしてくださりありがたい限りです。あとは使う（利用）する人のモラルや地域の方の理解、見守りも必要だと感じます。子ども達の賑やかな声が戸外に響き渡ると安心します。ゲーム依存が増えているようなので。</p>
<p>年齢別で遊ぶ空間を設けられたら良いかも</p>

板橋区のアイキッズのような制度があると子どもも安心して放課後が過ごせるのでは。
犯罪や事件などが多くある世の中で、子どもだけで遊びに行かせることに不安を感じます。もう少し安心して送り出せる世の中に、環境になってほしいと思います。
美女木東地区、イオン周辺あたりに子どもを遊ばせることのできる公園などの施設が増えると良いと思います。
勉強のできる場所、中学生でも楽しくあそべるプールがほしい。
放課後、学校に残り、友達と遊べたらいいと思います。学校まで20分ぐらいの距離なので、冬場はまったく友達と遊べません。
防犯パトロールの人や車が見守ってくれてはいるが、やはりまだ街灯が少ないし暗い道が多いと思う。高架下の路駐の車も子供にとっては怖いと思います。
防犯対策をお願いします。
本村公園の遊具のネジがゆるんでいて危ないと思う。たまに市の職員？が来ていたりするけれど全く違う仕事をしている為気づいていない。(そのときもあいさつがなく不信。)
野球やサッカーを自由にできる公園がもっと増えるといいと思います。
遊び場としては十分なものが提供されていると思う。あとは各家庭での親の関わり方だと思う。(子どもたちへの)地域で行う行事への参加も重要だと思う。(町内会の関わりなど)
遊び場はこれ以上手を加える必要はない。商業施設等も増え又、激しく増えている塾通いをする子供を考えるとムダである。市民農園のような農業体験又、モノづくりに興味を子供がもつような場所も提供していくべきである。
遊ぶ場所、預ける場所の充実を図って頂きたい。
遊べる場所が少ない。自由に出入りできる体育館ごできればいいと思う。
遊具がほしい大きい子用で1〜3歳の子が安心して遊べる物があまり少ないのが気になってます。
遊具の老朽化が目立つ気がします。
遊具ばかり作っても車の通りが多い公園では、ボール等で道路に出たりあぶないし、道に車を駐車する方も多いし見通しが悪く、まず廻りの安全を考えてから公園内の遊び場を考えてほしい。又公園内のゴミは散らかり放題で夏は特にハエもたかるしこまる。
夕焼けチャイムが4:30になると、ほとんど友達とあそべなく、逆にチャイムがなっても「まだいいか!」となります。もう少し時期を検討してほしい。又、学校終了後もそのまま学校であそばせてほしい。
夕方、マンションの1Fエントランスに子どもたちがゲーム等をして遊んでいることが多い。マンションでも問題となり、遊ぶことは禁止になったが、行くところがないのか、いつも子供でいっぱい状態。子育てがおわったものとしては、騒がしくて正直迷惑している。
夕方の帰宅を促すチャイムは夏でも17時までにしたほうが良いと思う。理由①は17時前後になると帰宅ラッシュになり車等の量が多くなり、気持ちも焦るので危ないと思う。②薄暗くなるのが立秋前から早くなるので1年を通して同じ時間が良い
幼児から小学低学年、高学年、高齢者向けと使用する人別の公園を考えていただきたい。
緑が多いのはいいが、多すぎて、外側から中を見る事ができないので、不審者がいてもわかりづらい。遊具が少なく、子供の為の公園というよりは、年寄りの為の公園としか思えない。緑や水よりも、子供の遊べるスペース、遊具があった方がよいと思う。数はあるが、遊ぶ所はない。
老朽化している遊具をできる限り新しくしていただきたいです。

単純集計表(子ども調査)

問1 公園の利用について、あなたはどのように思いますか。それぞれあてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	合計
自由に遊びたい	24	10	0	0	34
%	70.6	29.4	0.0	0.0	100.0
ケガをすると危ないので、ある程度のルールが必要	12	18	2	2	34
%	35.3	52.9	5.9	5.9	100.0
子どもだけで遊ばない方がよい	3	3	9	18	33
%	9.1	9.1	27.3	54.5	100.0

問2 公園にあなたはどんな遊具を一番設置してほしいですか。あてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

	度数	パーセント
砂場	0	0.0
滑り台	1	2.9
鉄棒	2	5.9
ブランコ	15	44.1
ジャングルジム	5	14.7
その他	8	23.5
特に必要な遊具はない	3	8.8
合計	34	100.0

その他の自由記述: アスレチック、ターザン、サッカーゴール

問3 公園で遊ぶことに、あなたは不安がありますか。あてはまるところすべてに、○をつけてください。

	当てはまらない	当てはまる	合計
ケガをしないか	22	11	33
%	66.7	33.3	100.0
いじめられないか	32	1	33
%	97.0	3.0	100.0
事件に巻き込まれないか	28	5	33
%	84.8	15.2	100.0
他の人から迷惑を受けないか	31	2	33
%	93.9	6.1	100.0
他の人に迷惑をかけないか	23	10	33
%	69.7	30.3	100.0
不安はない	16	17	33
%	48.5	51.5	100.0
その他	32	1	33
%	97.0	3.0	100.0

その他の自由記述: アスレチック

問4 あなたは、遊び場所について不満がありますか。あてはまるところすべてに、○をつけてください。

	当てはまらない	当てはまる	合計
外遊びできる時間が少ない	22	12	34
%	64.7	35.3	100.0
自由に遊べる場所が少ない	28	6	34
%	82.4	17.6	100.0
ボール遊びなどができる場所が少ない	24	10	34
%	70.6	29.4	100.0
同年代の友達が少ない	31	3	34
%	91.2	8.8	100.0
親子で遊ぶ機会が少ない	28	6	34
%	82.4	17.6	100.0
寝転んだりできる場所(芝生広場)などが少ない	19	15	34
%	55.9	44.1	100.0
雨の日でも遊べる場所が少ない	16	18	34
%	47.1	52.9	100.0

遊具などが古くて危ない	26	8	34
%	76.5	23.5	100.0
外で遊ぶのは危ない	34	0	34
%	100.0	0.0	100.0
その他	26	8	34
%	76.5	23.5	100.0

問4 あなたは、遊び場所について不満はありますか(自由記述)

アスレチックが少ない
くさい！！猫のふんがおおい
ごみがある
公園を広くしてもらいたいです
遊具が少ない

問5 あなたは、放課後など学校以外の時間帯をどこで過ごすことが多いですか。それぞれあてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

	なし	週に1日	週に2～3日	週に3～4日	週に4～5日	ほぼ毎日	合計
公園	8	9	9	3	1	1	31
%	25.8	29.0	29.0	9.7	3.2	3.2	100.0
学童保育室	31	0	0	0	0	0	31
%	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
塾・習い事	3	7	12	6	2	3	33
%	9.1	21.2	36.4	18.2	6.1	9.1	100.0
自宅	2	7	3	2	5	14	33
%	6.1	21.2	9.1	6.1	15.2	42.4	100.0
友達の家	15	7	5	2	0	2	31
%	48.4	22.6	16.1	6.5	0.0	6.5	100.0
学校	21	6	1	1	0	2	31
%	67.7	19.4	3.2	3.2	0.0	6.5	100.0
児童センター・公民館	20	8	2	0	0	0	30
%	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	100.0

問6 あなたの性別を教えてください。

	度数	パーセント
男性	10	29.4
女性	22	64.7
無回答	2	5.9
合計	34	100.0

問7 あなたの住んでいる地域を教えてください。あてはまるところ1つだけ、○をつけてください。

	度数	パーセント
下戸田地区(喜沢、喜沢南、中町、下戸田、下前、川岸1・2丁目)	11	32.4
上戸田地区(川岸3丁目、本町、南町、戸田公園、上戸田、大字上戸田)	8	23.5
新曽地区(新曽南、氷川町、大字新曽)	11	32.4
笹目地区(笹目南町、早瀬、笹目、笹目北町、大字下笹目)	1	2.9
美女木地区(美女木、美女木東、大字美女木)	3	8.8
合計	34	100.0

問8 遊び場所について、どう思いますか。自由に記入してください。

アスレチックがなくてつまらない！家の近でにボール遊びができない
あまり砂がないほうがいい
ゴミ箱が少ない ルールがありすぎる
その場所に関係していないと遊べないところが多い
ぶつかりやすい(かど) 雨にぬれないようにして、雨の日も遊びたい
ブランコがなくなってく！ 遊具が少ない！
ブランコが好きなので、いろいろな場所に設置してほしい。芝生がある公園がほしい
へんな人が多いからあぶないと思う ゆうぐがいっぱいあっていいと思う
ボールで遊んでいい公園をふやしてほしい
ボール禁止の公園を減らしてほしい
ボール遊びがあまりできない

もうちょっと遊具を設置してほしい
雨の日でも公園で遊べるように屋根をつけてほしい。
家の近くの喜沢南児童公園の遊具が少ない
近くに雨の日でも遊べる場所がすくない
私の家の近くの公園はつまらないと……友達が遊びに来ません。できれば遊具を入れて楽しくしてほしいです。
小さい子でも遊べるし、大きい子でも遊べる遊具がほしい
地面がでこぼこしているのでなおしてほしい
遊具が少ない
遊具が少ない ブランコがさびている 遊具がきたない だろがついている トイレがくさい トイレトペーパーがない かがみがきたない かががこわれている
遊具が少ない もっと遊具をふやしてほしい
遊具が少ない 人通りが少ない みわたしがわるい
遊具が少ない 遊具がさびていたりきたない(鳥のフンなど) 公園内がそうじされていないところがある 公園にトイレがあるところが少ない(トイレトペーパーがない、トイレがくさい、トイレのかがみがくもっている トイレのかががこわれている
遊具などがあって、公園は楽しいけれどゴミがあるのでやだ



「子どもの居場所に関する調査研究」  
共同研究報告書

---

2015年3月

発行 目白大学社会学部地域社会学科／戸田市政策研究所

連絡先 戸田市政策研究所（戸田市政策秘書室）

〒335-8588 戸田市上戸田1丁目18番1号

TEL 048-441-1800（内線）470

E-mail [seisaku@city.toda.saitama.jp](mailto:seisaku@city.toda.saitama.jp)

---